

生物多様性

ふるさと川西戦略

川西市

(2024年度改訂版)



目 次

第1章 「生物多様性ふるさと川西戦略」策定の目的と位置づけ	1
1. 「生物多様性ふるさと川西戦略」策定の目的	2
(1) 「生物多様性ふるさと川西戦略」策定の目的	2
(2) 本戦略改訂の趣旨	2
2. 生物多様性とは	3
(1) 生物多様性の概説	3
(2) 失われつつある生物多様性～生物多様性を脅かす4つの危機～	5
(3) 生物多様性の大切さ～生物多様性を守る4つの意味～	7
(4) 「生物多様性国家戦略 2023-2030」について	9
3. 策定の背景と位置づけ	10
(1) 生物多様性戦略に関する関係法令や国、県などの動向	10
(2) 本戦略の位置づけ	11
(3) 計画の範囲と計画期間	12
第2章 本市の生物多様性の現状と課題	13
1. 本市の概況	14
(1) 位置・地勢・交通	14
(2) 気候	15
(3) 本市の自然の特性	16
2. 本市が誇る豊かな自然	17
(1) 本市の植生・地質	17
(2) 本市の多様な環境・生態系	20
(3) 本市の生物相	25
(4) 本市の特産品・文化	30
3. 自然環境保全における取組み	32
(1) 行政の代表的な取組み	32
(2) 市民団体の取組み	33
(3) 事業者の取組み	35
4. 市民の意識～アンケート調査より～	39
(1) アンケート調査の実施概要	39
(2) アンケート調査結果	40
5. 本市のエリア区分とその特徴・課題	54
(1) 本市のエリア区分	54
(2) エリアの特徴の分析	56
(3) 課題のまとめ	66
第3章 本戦略がめざすもの	67
1. 生物多様性保全の基本理念とめざすべき本市の将来像	68
2. 目標の設定	69
3. 「生物多様性ふるさと川西戦略」の設定－ふるさと川西市民戦略と4つの基本戦略－	70
(1) 「ふるさと川西市民戦略」	70
(2) 4つの基本戦略	70

第4章 行動計画	73
1. 「ふるさと川西市民戦略」ーライフスタイルを見つめ直して可以从るから行動をー ..	74
(1)本市の自然・文化に触れる	74
(2)自然観察会等のイベントに参加する.....	74
(3)日常に可以从る行動	74
2. 基本戦略に基づく行動計画	77
(1)環境教育の充実による「ふるさと川西」意識の熟成及び生物多様性教育	77
(2)自然に関する情報発信による生物多様性保全の普及・啓発	78
(3)生物多様性保全の取組みの強化.....	79
(4)各主体の連携による生物多様性保全活動の継続と拡大.....	81
 第5章 推進体制と進行管理	 83
1. 推進体制	84
(1)市内担当部署との連携強化.....	84
(2)「生物多様性ふるさと川西戦略推進委員会」の設置	85
(3)体制、連携の強化などの検討	85
2. 進行管理	86
(1)進行管理計画.....	86
(2)進行の管理システム.....	86
 参考文献	 88
 資料編	 91
◇本市の重要種一覧(植物・動物・生態系や自然景観など)	92
◇本市の外来種一覧(植物・動物)	97
◇本市の重要な生態系・特徴的な自然環境	101
生物多様性ふるさと川西戦略推進委員会における審議経過	127
生物多様性ふるさと川西戦略推進委員会委員名簿.....	128

第1章

「生物多様性ふるさと川西戦略」策定の目的と位置づけ

1. 「生物多様性ふるさと川西戦略」策定の目的

(1) 「生物多様性ふるさと川西戦略」策定の目的

川西市（以下「本市」という。）には、茶道用高級道具炭である菊炭（一庫炭・池田炭）の生産が今も続く日本一の里山、ニュータウンや市街地を流れる猪名川と周囲を彩るエドヒガン、笹部や赤松にある農村風景を残す棚田、そして特産品であるイチジク、クリ、モモなど、全国に誇れるすばらしい自然があります。これらの自然は、昆虫や鳥類などたくさんの生きものを育むだけでなく、私たちにも食べ物や製品の原材料、そして心の安らぎなど、様々な恩恵を与えてくれています。

近年、これらのすばらしい自然が、開発や外来種の繁茂による直接的な影響、人と自然のつながりが薄れてきたことによる間接的な影響など、様々な要因により失われつつあります。本市内でも身近にいたメダカが全国的には絶滅が心配されるようになり、ドジョウも本市で見られる場所が限られるようになってしまいました。今、私たちに豊かな恵みをもたらしてくれるこの自然は、未来の子どもたちに引き継いでいくべきものです。私たちの時代で、これらの自然や生きものたちをなくすわけにはいきません。私たちには、本市の自然や生きものだけでなく、そこから得られる恵みを次世代に引き渡していく責務があります。

そこで「生物多様性ふるさと川西戦略」（以下「本戦略」という。）では、本市のすばらしい自然と文化のもとになる生物多様性を次世代に引き継ぎ、持続的に利用することを目的に、私たちのふるさとである川西に誇りと愛着を持って、自然や文化、生物多様性への理解を深め、川西市総動員で生物多様性を守り、育み、共生するまちづくりを進めていくために取るべき行動について提言しました。

(2) 本戦略改訂の趣旨

2015年に本戦略を策定して以降、私たちは、私たちのふるさとである川西に誇りと愛着を持って、自然や文化、生物多様性への理解を深め、川西総動員で生物多様性を守り、育み、共生するまちづくりのために、様々な取り組みを行ってきました。

しかし、世界ではSDGsやOne Health（ワンヘルス）^{※1}が広まり、ネイチャーポジティブ^{※2}に向けた30by30^{※3}達成のために、OECD^{※4}の登録や保全が進められるなど、生物多様性を巡る情勢は変わりつつあります。また、地球温暖化による生物多様性への影響についても世界的に加速化しています。国でも2023年3月に「生物多様性国家戦略 2023-2030」が策定され、兵庫県では2019年2月に「生物多様性ひょうご戦略」及び「第5次兵庫県環境基本計画」が策定されました。

さらに、本戦略では2032年度までの計画期間のうち、2022年度までを第1期とし、その後の10年を第2期としています。

本戦略が第2期に入るにあたり、国内外や本市の新たな動向に対応したものとするため、戦略の一部を改訂しました。

※1 One Health：動物から人へ、人から動物へ伝播可能な感染症（人獣共通感染症）は、全ての感染症のうち約半数を占めており、医師及び獣医師は活動現場で人獣共通感染症に接触するリスクを有しています。こうした分野横断的な課題に対し、人、動物、環境の衛生に関わるものが連携して取り組む考えです。新型コロナウイルス流行をきっかけに広く知られることとなりました。

※2 ネイチャーポジティブ：生物多様性の損失を食い止め、回復させることです。

※3 30by30：2030年までに陸と海の30%以上を健全な生態系として効果的に保全しようとする目標です。2021年のG7サミットでG7各国が約束し、2022年の生物多様性条約第15回締約国会議（COP15）で採択された「昆明・モンテリオール生物多様性枠組」でターゲットとして位置づけられました。

※4 OECD（Other effective area-based conservation measures）：保全地域（国立公園などの保護地区）以外の地域で生物多様性を効果的かつ長期的に保存しうる地域のことです。2010年に名古屋で開催された生物多様性条約第10回締結国会議（COP10）で日本が主催国として提起しました。

2. 生物多様性とは

(1) 生物多様性の概説

生きものは長い地球上の歴史の中で様々な環境に適応して進化し、私たち人間を含む多種多様な生きものが生まれてきました。そしてそれらの生きものには、一つひとつに個性があり、すべてが直接的または間接的に支えあって生きています。このようにいろいろな環境の中で、たくさんの生きものが存在している概念を生物多様性と言います。

しかしながら、生物多様性と言っても目に見えるものではないため、私たちにとって理解しにくいところもあります。そこで、生物多様性を「種の豊かさ」、「つながり」、「個性」という視点からとらえることで理解しやすくなります。生物多様性条約によると生物多様性には、「種の多様性」、「生態系の多様性」、「遺伝子の多様性」の3つの多様性が含まれています。

■種の多様性～生きものの種類が豊かなこと～

種の多様性とは、すなわち「種の豊かさ」のことです。例えばため池という環境の中に、よりたくさんの生きものがすんでいる方が、種が豊かであり種の多様性が高いと言えます。そしてこれら種の間では、いわゆる食う、食われるという食物連鎖や、酸素を出す種と使う種など、生きもの同士の「つながり」があることでため池の生態系を作り出してすべての種が生きています。もし、何かの生きものが絶滅してしまうと、それを食べていた生きものとのつながりが無くなってしまい、いずれはその種も消えて種の多様性が低下するかもしれません。

■生態系の多様性～生きもののおすむ環境の種類が豊かなこと～

本市には、川、ため池、田んぼ、畦畔の草原、里山や鎮守の森などいろいろな環境、すなわち生態系があります。各環境の中では、それぞれの環境に適応した生きものが暮らしています。そのため、環境の種類（生態系の多様性）が多いほど、たくさんの種を育てることができるのです。さらに、生きものには一つの環境の中で過ごすものもいれば、本市にも生息している珍しいモリアオガエルのように、子どもときは水辺、大人になると山で過ごすというように複数の環境の中で過ごす生きものもいます。そのため、モリアオガエルが生きていくためには水辺と山の2つの生態系と、それらの生態系の「つながり」が必要なのです。

■遺伝子の多様性～同じ生きものにおける個性の違いのこと～

同じ種だからと言って、すべての個体が同じであるとは限りません。例えば、モリアオガエルは体の色が緑色の個体、斑紋が入る個体などの違いがあります。このように、同じ種の中でも色や大きさ、性質などの違い、すなわち遺伝子の違いによる「個性」があります（遺伝子の多様性）。個性の違いとは、例えばある病気に強い個体、寒さや暑さなどの厳しい環境にも耐えられる個体がいることです。それにより、もし何かの病気が広がったとしても、生き残る能力を持つ個体・個体群が現れ、絶滅することなく種が維持されているのです。また、個性には、日本と外国、関西と北海道などの地域間での違いや、さらには本市内でも場所が違えば、それぞれの個体が違うことがあります。それらの違いは、それぞれの地域特有の自然や文化と結びつき、長年の営みの中、各地域で獲得した地域固有の大切な個性なのです。

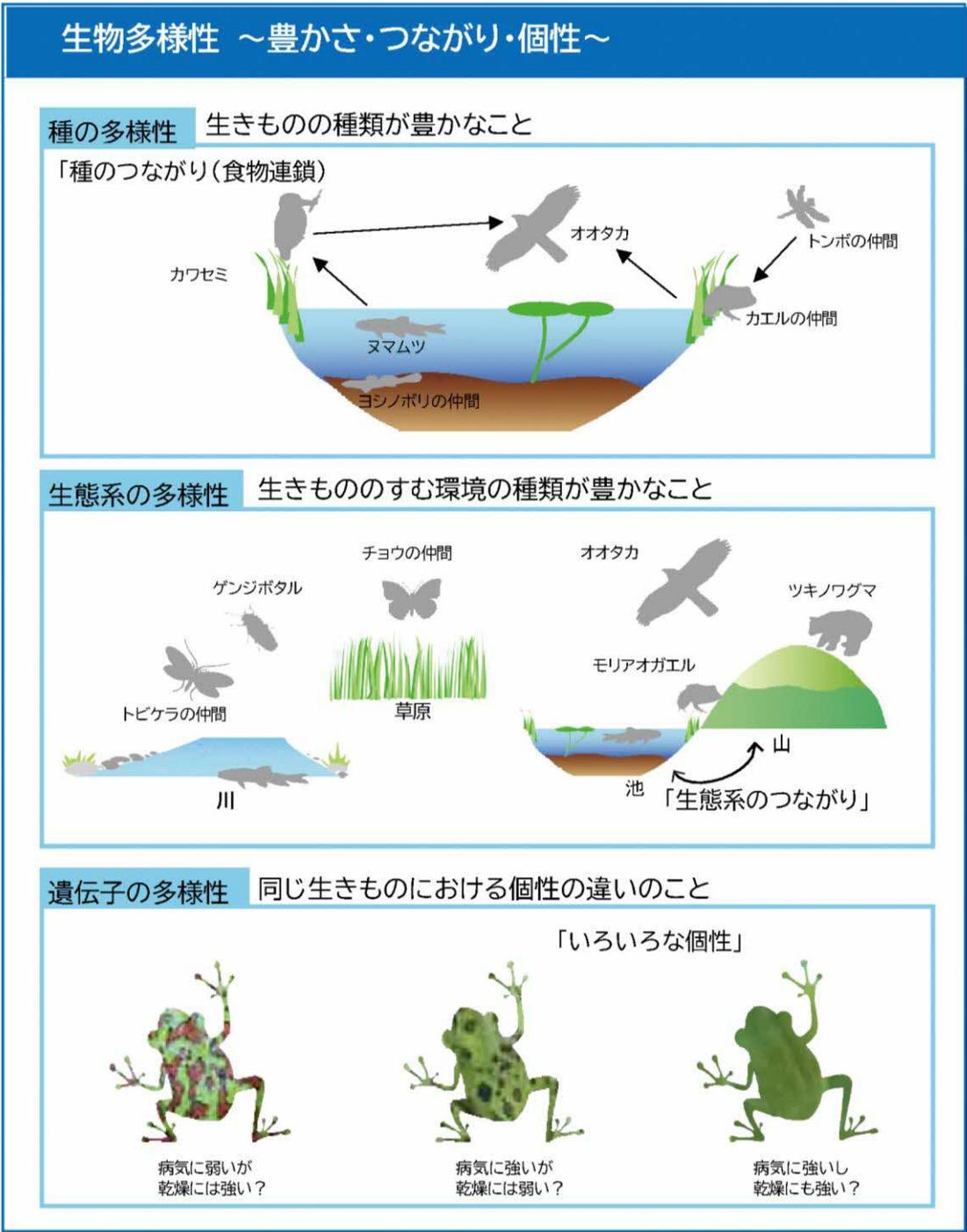


図1 生物多様性の概念図

(2)失われつつある生物多様性～生物多様性を脅かす4つの危機～

生物多様性の重要性が認識される一方、世界的、全国的に生物多様性が失われつつあります。その要因は様々な理由がありますが、大きくは次の4つにまとめられます。

1)人間活動などの直接的な要因(第1の危機)

山に生える美しいササユリやエビネの掘り取りや乱獲、住宅地などの開発による山林の消失などといった直接的な影響です。種そのものや生息地が無くなってしまふことで、種の豊かさは顕著に減少してしまいます。また、道路整備などにより森林が孤立し環境の分断化がおこり、生態系のつながりが切れてしまいます。本市では、かつては住宅地を確保するために農地や里山が開発されました。近年では、新名神高速道路の開通、石道地区の流通センターや舎羅林山しゃらりんざんの開発によって森林などへの影響が懸念されます。このような直接的な要因から、本市ではかつてはたくさん見られたメダカが、生息地の改変や生態系のつながりが切れてしまい絶滅危惧種に指定されたほか、ドジョウもごく限られた場所でしか見られなくなりました。

2)人の働きかけが減少することによる間接的な要因(第2の危機)

かつては、川西の北部では広大な面積で菊炭（一庫炭・池田炭）の生産が行われてきました。それ以外の山林でも日々の暮らしの燃料を得るなどの目的で山から木を切り出していました。しかしながら数十年前に、石炭や石油が入ってきたことにより、木材の需要が減り、山から燃料をとる必要がなくなり、人は山に入って木を切る必要が少なくなりました。そして、人の山への働きかけ（山での伐採や利用）が少なくなり、ヒサカキやヤブツバキなど限られた常緑樹や、フジなどのつる植物が繁茂するようになりました。そのため、林内が暗くなったり、荒れたりして、多くの種類の植物が消失しつつあります。また里山での人の活動が無くなることで、シカやイノシシが山麓、農地にまで現れるようになり、シカの採食による林床植物の消失、イノシシによる農作物への被害が深刻になっています。近年の生活スタイルの変化による間接的な要因であり、人と自然、種と種の間接的なつながりが切れてしまうことによる生態系の悪化が進んでいます。

3)地域外から持ち込まれた外来種の野生化による要因(第3の危機)

もともとその地域にいなかったのに、人間の活動によって他の地域から入ってきた生物のことを外来種といいます。外来種には、湖やため池にすむオオクチバス、コクチバスやブルーギル、河川敷や畑を覆い尽くしてしまうつる植物であるアレチウリやオオキンケイギクといった外国から入ってきて日本で野生化した種があります。近年では、日本国内のある地域からもとといなかった地域に入ってきて外来種となる「国内由来の外来種」も問題となっています。これらの種は、本来その地域にいる生きものを食べ尽くしたり、他種の生活の空間を奪い取ったりして生態系のつながりを切ってしまう、種の豊かさの減少をもたらしています。

このほか、外来種による種の個性（遺伝子の多様性）のかく乱も危惧されています。例えば、本市の在来種であるカンサイタンポポは、外来種であるセイヨウタンポポとの交雑が進んでいます。日本の気候の中で、長年にわたり維持されてきたカンサイタンポポの生息地が減少し、種の個性（遺伝子の多様性）が地域から失われつつあります。

※菊炭：炭の断面に、美しい放射状の模様が入ることから菊炭と呼ばれています。

4)地球温暖化による要因(第4の危機)

人の活動などにより二酸化炭素などの温室効果ガスを大量に排出され、地球が温暖化することによる要因です。例えば、妙見山頂付近で見つかった貴重な樹木であるブナは冷涼な環境で生育しますが、地球温暖化の影響により数が少なくなっています。また、近年の豪雨も地球温暖化の影響と言われており、豪雨による土砂崩れなどによる生きものの生育、生息場所の破壊や、さらには私たちの生活への直接的な危機も危惧されます。

コラム

生物多様性を保全する上で、望ましくない生きもの

本戦略では、種の豊かさや個性が多様なほど良いとしています。しかし、在来種や地域の生態系に甚大な影響を及ぼし、本市の生物多様性を悪化させる生きものについては、駆除する立場をとっています。具体的には侵略的な外来種とシカ（ホンドリカ）です。

侵略的な外来種

侵略的な外来種とは、日本の気候などに適応し、異常に繁殖するなどして在来種や生態系、人の生活へ大きな悪影響を及ぼす種です。特に侵略性が強い種は、2005年に施行された特定外来生物法により「特定外来生物」として、飼養、栽培、保管、運搬、輸入について厳しく規制されています。

本市では、植物ではアレチウリ、オオカワジシャ、動物ではヌートリア、アライグマ（以上、哺乳類）、ソウシチョウ（鳥類）、ウシガエル（両生類）、ブラックバス、ブルーギル、カダヤシ（以上、魚類）などが確認されています。例えば、アレチウリは河川敷などで一気に生長し、周辺のほかの植物におおい被さり、光を奪って駆逐してしまいます。また、ブラックバスやブルーギルは湖沼において、在来の魚類を捕食し尽くすことで、在来種の減少や生態系の悪化がおこっています。人間の都合で、外国から連れてこられた外来種自体には罪はないのですが、地域本来の種や生態系に悪影響を及ぼす外来種は駆除の対象とします。

シカ（ホンドリカ）

シカはもともと日本にいた哺乳類ですが、近年、日本各地でシカが増加し、その食害による森林の荒廃が問題となっています。本市でも北部の里山を中心にシカの頭数が増え、里山の低木や林床植物を食べ尽くしています。これにより里山の林床はシカの食べない特定の種だけが残り、その他の種が無くなってしまい生物多様性が激減しています。また、それにより表層土壌を覆う植物が無くなることで、土砂崩れの影響も懸念されています。

このようなことから、川西の生物多様性を保全するために、増えすぎているシカは捕獲する必要があります。

(3)生物多様性の大切さ～生物多様性を守る4つの意味～

なぜ生物多様性を守らなければならないのでしょうか。それは生物多様性そのものが、私たち人間が暮らしていくためには必要不可欠なものであり、生物多様性から受けている恩恵を持続的に利用していかなければならないからです。

生物多様性を守る意味を、「生物多様性国家戦略 2012-2020」では次の4つに整理しており、これは2023年3月に策定された「生物多様性国家戦略 2023-2030」にも受け継がれています。

1)すべての生命の基礎となっています

地球上の生物は、地球生態系という一つの環の中で深く関わり合い、つながりあって生きています。生きものやそれらが作る生態系は、酸素を作り、水を循環させるなど、様々な働きを通じて、現在及び将来のすべての生命にとって欠かすことのできない基礎となっています。

2)人間にとって有用な価値を持っています

私たちの生活は、多様な生物を利用することによって成り立ってきました。食料や食材、薬品や衣服などの加工品など、様々な形で生物を直接的、間接的に利用しています。生物多様性は、現在及び将来にわたり豊かな暮らしにつながる有用な価値やその可能性を有しており、守っていかなければならないのです。

3)豊かな文化の根源となります

人は、自然と一体となった自然観を有し、自然を尊重し、自然と共生する暮らしの中で多様な文化を形成してきました。生物多様性は、精神の基盤となり、地域色豊かな固有の財産ともいべき文化の多様性を支えるものであり、その根源となっています。

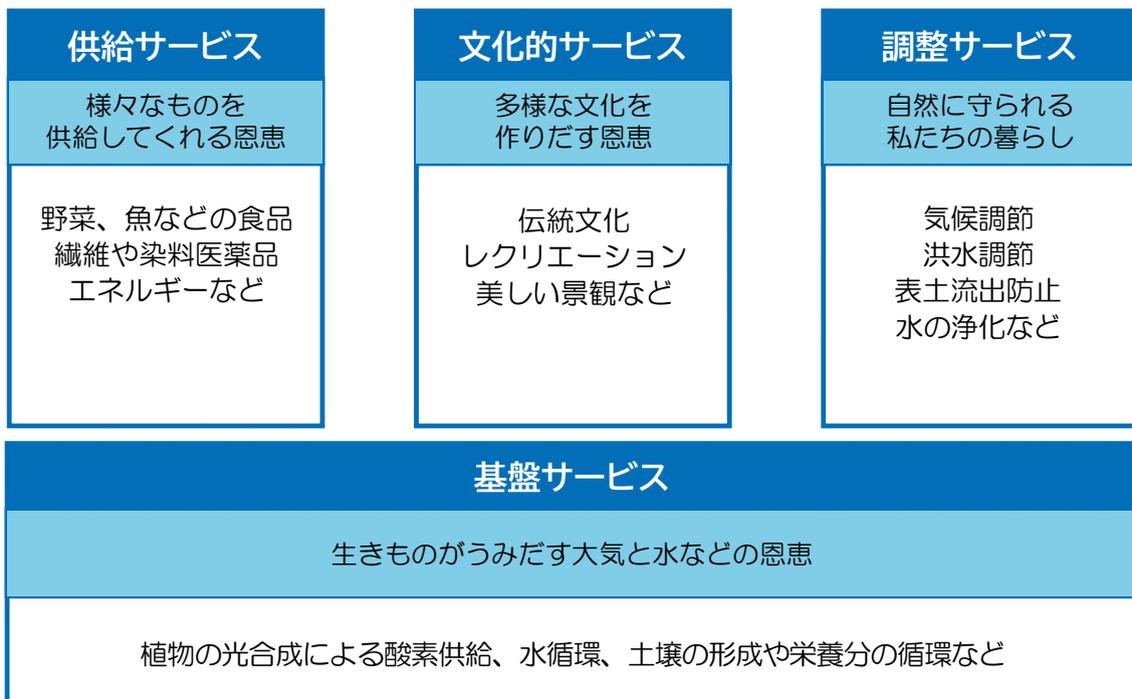
4)将来にわたって安全な暮らしを保証します

多様な植物や生きものからなる健全な森林を整備・保全することや、環境保全型の農業では、土砂の流出や崩壊防止、安全な飲み水や食料の確保に寄与しています。生物多様性の観点から、自然と人の利用のバランスを健全に保つことは、長い目で見れば、世代を超えて効率的に暮らしの安全性を保証することにつながります。

コラム

生態系サービス(生物多様性からの恩恵)

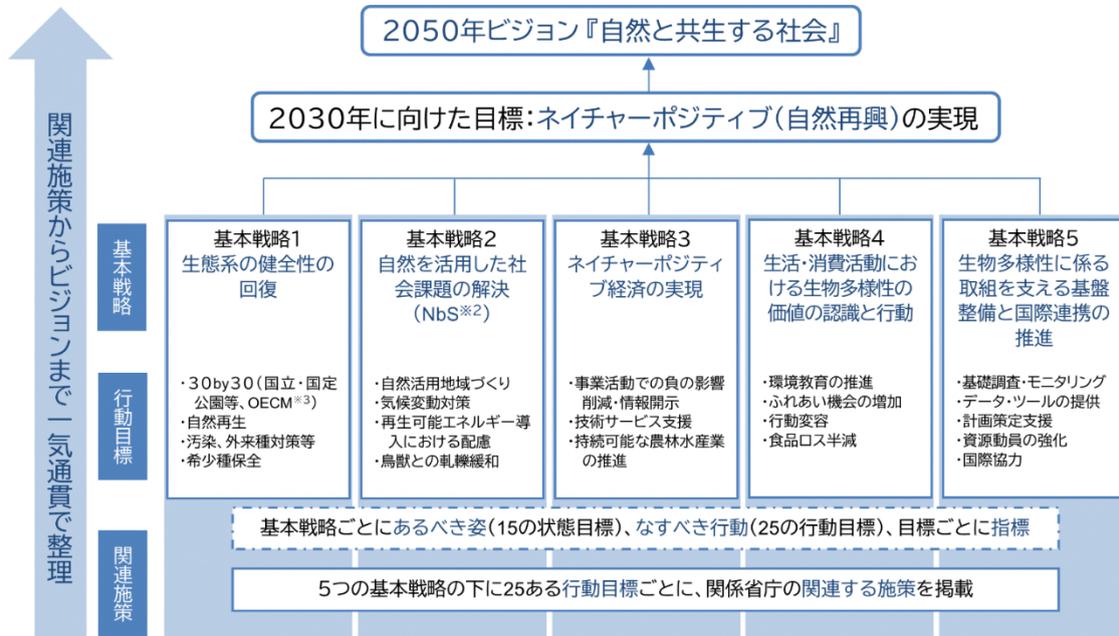
生物多様性を守る4つの意味で説明したとおり、私たちは自然の生きものから、直接あるいは間接的に様々な恩恵を受けています。国際連合によるミレニアム生態系評価では、このことを「生態系サービス」と呼び、4つに整理しています。聞き慣れない言葉ですが、生物多様性と私たちとの関わりがうまく説明されています。



(4)「生物多様性国家戦略 2023-2030」について

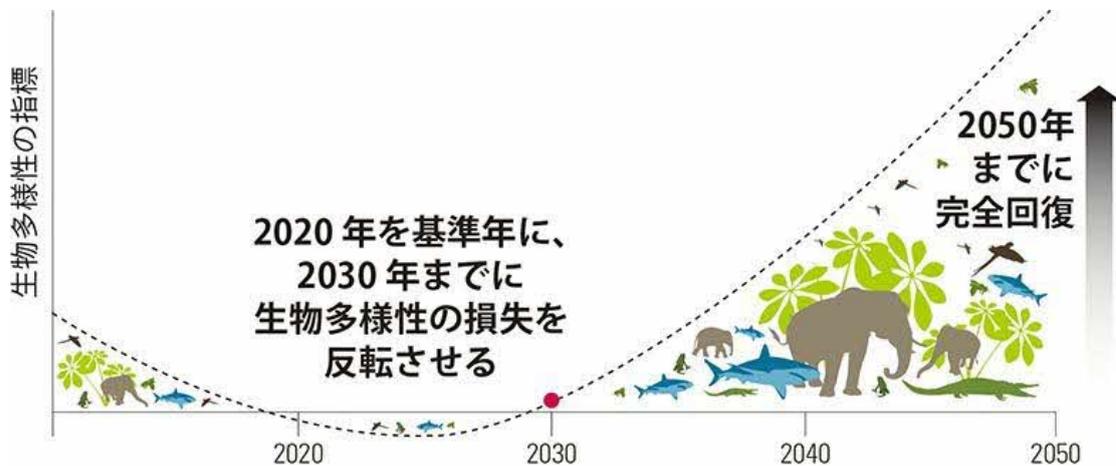
「生物多様性国家戦略 2012-2020」の計画期間終了に伴い、国では2023年3月に「生物多様性国家戦略 2023-2030」を策定しました。

「生物多様性国家戦略 2023-2030」は、「昆明・モンテリオール生物多様性枠組^{※1}」に対応し、地球の持続可能性の土台や人間の安全保障の根幹である生物多様性や自然資本を守り活用するための戦略として位置づけ、5つの基本戦略により「2030年ネイチャーポジティブ」の実現をめざすこととしています。



出典)環境省HP 次期生物多様性国家戦略案の概要をもとに作成

図2 生物多様性国家戦略 2023-2030



出典)WWFジャパン「生きている地球レポート2022」

図3 2030年までのネイチャーポジティブに向けた自然のための測定可能な世界目標

※1 昆明・モンテリオール生物多様性枠組：2022年12月に開催された生物多様性条約第15回締約国会議（COP15）で採択された、愛知目標（2010採択）の後継となる目標です。30by30をはじめ、侵略的外来種の侵入率や定着率の半減、ビジネスにおける影響評価・情報公開の促進など、計23個のターゲットが掲げられています。

※2 NbS（Nature-based Solutions）：社会課題に効果的かつ順応的に対処し、人間の幸福及び生物多様性による恩恵を同時にもたらす自然や生態系の保護、持続可能な管理、回復のための行動を指します。「自然を基盤とした解決策」と訳される、国際自然保護連合（IUCN）と欧州委員会が定義を発表した比較的新しい概念です。

※3 OECM（Other effective area-based conservation measures）：保全地域（国立公園などの保護地区）以外の地域で生物多様性を効果的かつ長期的に保存しうる地域のことで、2010年に名古屋で開催された生物多様性条約第10回締結国会議（COP10）で日本が主催国として提起しました。

3. 策定の背景と位置づけ

(1) 生物多様性戦略に関する関係法令や国、県などの動向

1992年の環境と開発に関する国際連合会議において、地球規模の環境問題が国際的に提示されて以降、2015年の国連サミットで持続可能な開発目標（SDGs）が採択されました。また、2022年の生物多様性条約第15回締約国会議（COP15）で、2030年までに生物多様性の損失を食い止め、回復させるために、陸と海の30%以上を健全な生態系として保全する目標（30by30）が設定され、達成のために、地域等によって生物多様性の保全が図られている土地をOECMとして登録、保全する取組みが進められています。

日本では、生物多様性基本法（2008年）により、国、県、市町において生物多様性戦略の作成が求められるようになりました。2023年3月には、「生物多様性国家戦略 2012-2020」に次ぐ「生物多様性国家戦略 2023-2030」が策定されました。

表1 生物多様性に関する動向

年	世界	日本	兵庫県	川西市
1992	環境と開発に関する国際連合会議(地球サミット・於：リオ)			
1993	生物多様性条約を締結			
1995		生物多様性国家戦略	兵庫ビオトープ・プラン 兵庫県版レッドデータブック	
2002		新・生物多様性国家戦略 自然公園法改正 (生物の多様性の保全が追加) 鳥獣保護法(全面改定) 環境教育推進法策定	新兵庫県環境基本計画 新ひょうごの森づくり(H14-23)	川西市緑の基本計画
2003			兵庫県版レッドデータブック 2003	
2004		外来生物法制定		
2005	ミレニアム生態系評価発表			
2006				川西市環境基本条例
2007		第三次生物多様性国家戦略		川西市環境基本計画
2008		生物多様性基本法 →生物多様性地域戦略の必要性	第3次兵庫県環境基本計画	
2009		生物多様性民間参画ガイド 生物多様性地域戦略作成の手引き	生物多様性ひょうご戦略策定	
2010	COP10(名古屋愛知目標)	生物多様性国家戦略2010 生物多様性地域連携促進法成立	兵庫県版レッドリスト2010 兵庫県版レッドリスト2011 (地形・地質・自然景観・生態系)	
2012	国連持続可能な開発会議(リオ+20 於：リオ)	生物多様性国家戦略2012-2020	兵庫県版レッドリスト2012 (昆虫類) 新ひょうごの森づくり(H24-R3)	
2013			兵庫県版レッドリスト2013 (鳥類)	川西市都市計画マスタープラン 第5次川西市総合計画
2014			第4次兵庫県環境基本計画 生物多様性ひょうご戦略改定 兵庫県版レッドリスト2014 (貝類・その他無脊椎動物)	
2015	国連サミット →持続可能な開発のための2030アジェンダ(SDGs)採択			生物多様性ふるさと川西戦略
2017			兵庫県版レッドリスト2017 (哺乳類・爬虫類・両生類・魚類・クモ類)	第2次川西市環境基本計画
2019			第5次兵庫県環境基本計画 生物多様性ひょうご戦略改定	
2020		次期生物多様性国家戦略の策定に向けた検討開始	兵庫県版レッドリスト2020 (植物・植物群落)	
2021	G7サミット →G7各国が30by30の設定			川西市緑の基本計画部分改訂
2022	COP15(昆明・モントリオール生物多様性枠組) →30by30のターゲット化		新ひょうごの森づくり(R4-13)	
2023		生物多様性国家戦略2023-2030		

黄緑色：国際的な、または日本での法律に関する動き。
水色：国、兵庫県レベルでの生物多様性の保全に対する具体的な動き。
黄色：本市の環境保全に関わる施策。

◇持続可能な開発目標(SDGs)

2015年9月に開催された国連サミットにおいて、「持続可能な開発のための2030アジェンダ」が全会一致で採択され、すべての国が2030年までに達成する国際社会の共通の目標として、持続可能な開発目標（SDGs）が設定されました。

SDGsでは、世界が直面している社会、経済、環境に課する課題を統合的に解決しながら持続可能なより良い未来を築いていくための17のゴールと169のターゲットが設定されています。



図4 持続可能な開発目標

(2)本戦略の位置づけ

本市においても、生物多様性基本法や生物多様性国家戦略、生物多様性ひょうご戦略の作成を受け、2013年の第5次川西市総合計画において、本市における生物多様性地域戦略の作成が位置づけられました。

(3)計画の範囲と計画期間

■対象区域：川西市内全域。

必要に応じ隣接市町との連携を取っていくものとします。

■計画期間：2015年度から2032年度までの18年間。

2013年度に策定された「第5次川西市総合計画」との整合を図り、2022年度までを第1期とし、2023年度から2032年度までを第2期とします。

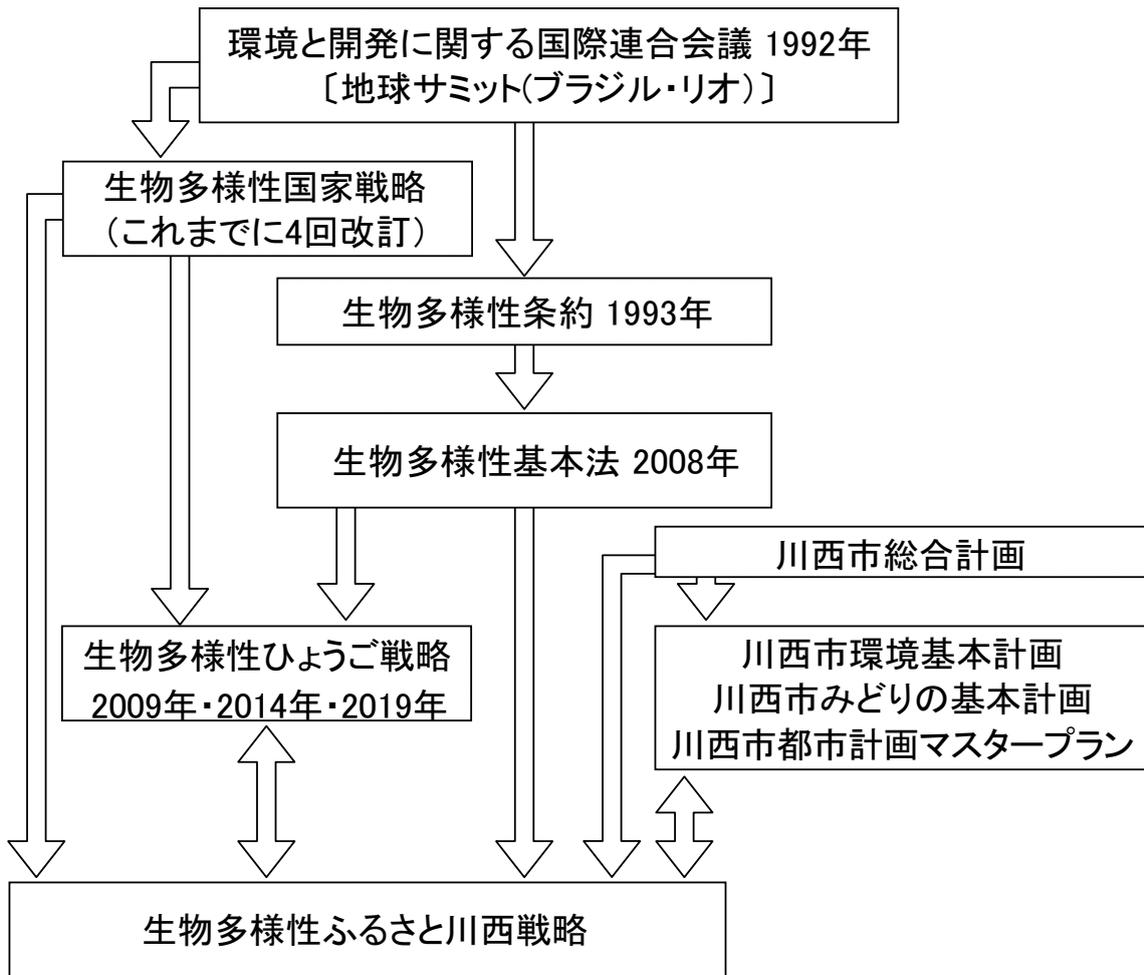


図5 本戦略の位置づけ

第2章

本市の生物多様性の現状と課題

1. 本市の概況

(1)位置・地勢・交通

本市は兵庫県の南東部に位置し、南は兵庫県伊丹市に、西は兵庫県宝塚市と猪名川町に、北は大阪府能勢町と豊能町に、東は大阪府池田市と箕面市に隣接しています。市域は東西6.5km、南北は猪名川に沿って15kmと東西に狭く南北に細長い「タツノオトシゴ」に似た形をしており、面積は53.44km²、周囲は約59kmです。標高は最高が660m（妙見山山頂）、最低15m（南部市街地）です。

本市の地勢は、市南部を東西に横断する有馬―高槻構造線より北側には山地が広がり、その一部は猪名川渓谷県立自然公園に指定されています。また、南側の地域には平野が広がっています。

北部の山地は、急峻な地形の箇所は少なく、比較的なだらかな山並みを見せ、豊かな自然環境を作っています。恵まれた自然環境と大阪や阪神臨海方面への交通が至便であるという好条件のもと、大阪経済圏の住宅都市として1960年代から急激に開発が進み、現在に至っています。

中部には清和源氏発祥の地として有名な多田神社、南部には弥生時代の暮らしを物語る加茂遺跡や栄根遺跡などの史跡も点在しています。市の中心部である川西能勢口駅周辺では、鉄道高架事業や市街地再開発事業が行われ、都市機能と周辺地域の商業機能が高められるなど「生活創造都市」への展開を図っています。

南部の平地はよく知られているイチジク生産農地、住宅、工場が混在する市街地となっています。

交通は、南部を東西にJR宝塚線、阪急電鉄宝塚線が大阪方面と宝塚・三田方面を結び、南北には能勢電鉄が縦断しています。

高速道路(自動車専用道路)は、市南部に中国縦貫自動車道が東西方向に横断し、市南東部には阪神高速道路大阪池田線が走り、市内に阪神高速道路川西小花ランプが設置されています。市中央部には新名神高速道路が走り、市内に川西インターチェンジが設置されています。また、国道は176号が市南部を東西に横断し、大阪方面と宝塚・三田方面を結び、173号が南北方向に縦断しています。

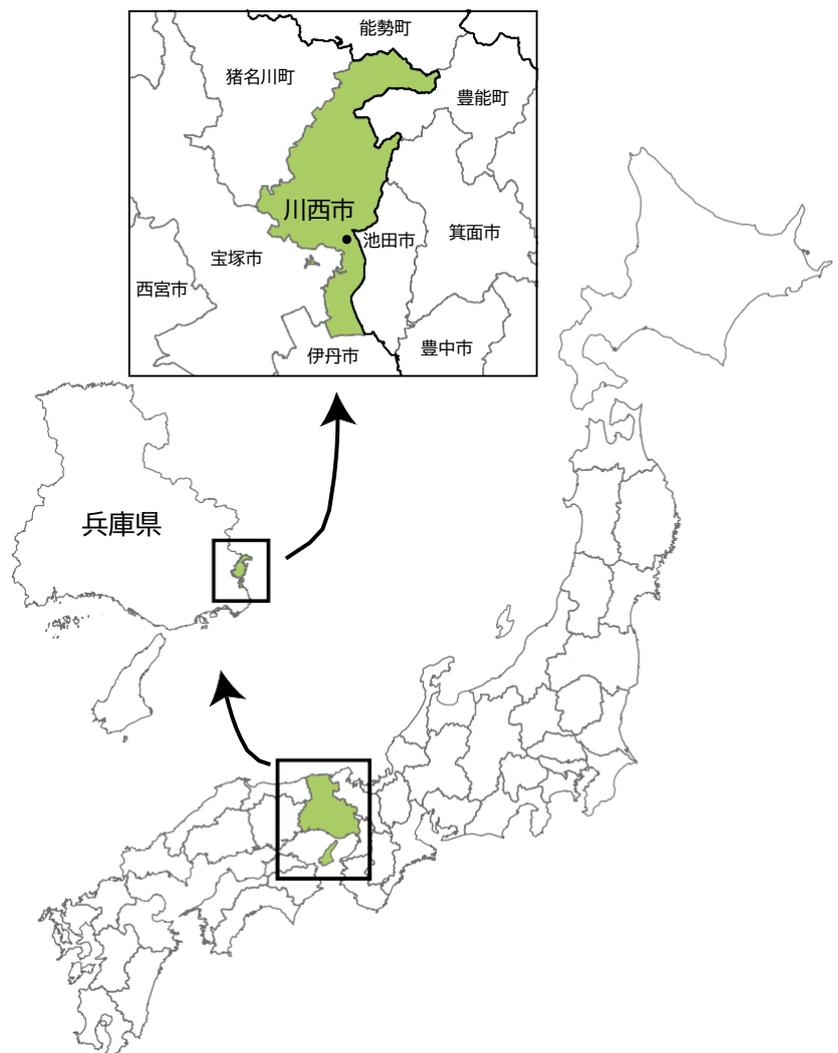


図6 本市の位置

(2)気候

川西市消防本部の調べでは、本市の年平均気温はおよそ16.5℃であり、年間の降水量は過去5年間の平均で1,463.7mmです。これらの値から見ると、本市は温暖で降水量の少ない瀬戸内気候区に属していることがわかります。

このような気候条件の本市は、全域が森林に覆われるのが本来の自然であり、海拔600mまではシイヤカシといった照葉樹林が発達し、それより高海拔域（600～660m）ではブナに代表される夏緑樹林が発達します。しかしながら、大昔からの人々の活動や森林の利用により、森林の様子は大きく変わっています。本市内では、照葉樹林は社寺林に小面積が残されており、ブナは妙見山山頂付近に数個体が生育しているのみです。

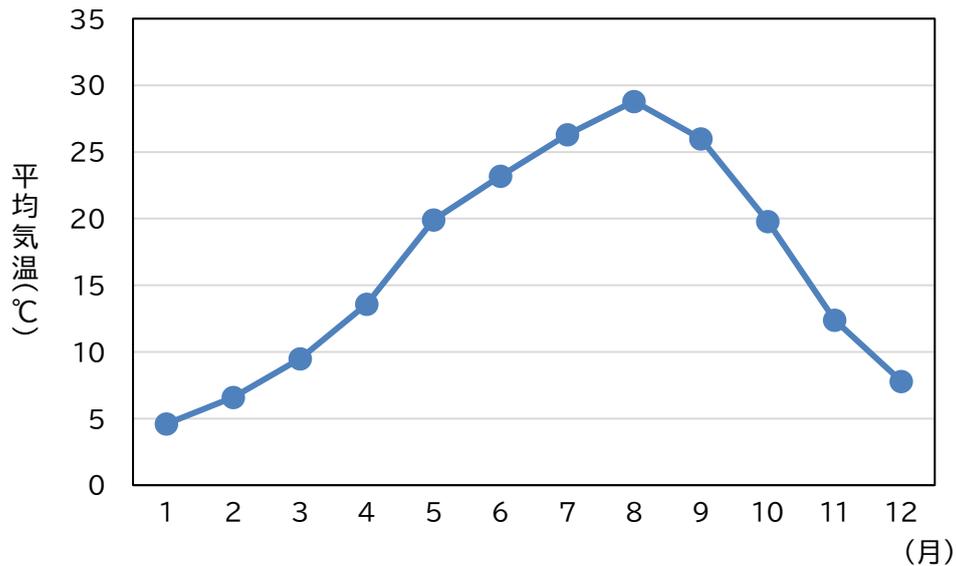


図7 2019年の月間平均気温

出典)川西市統計要覧(2019年度)

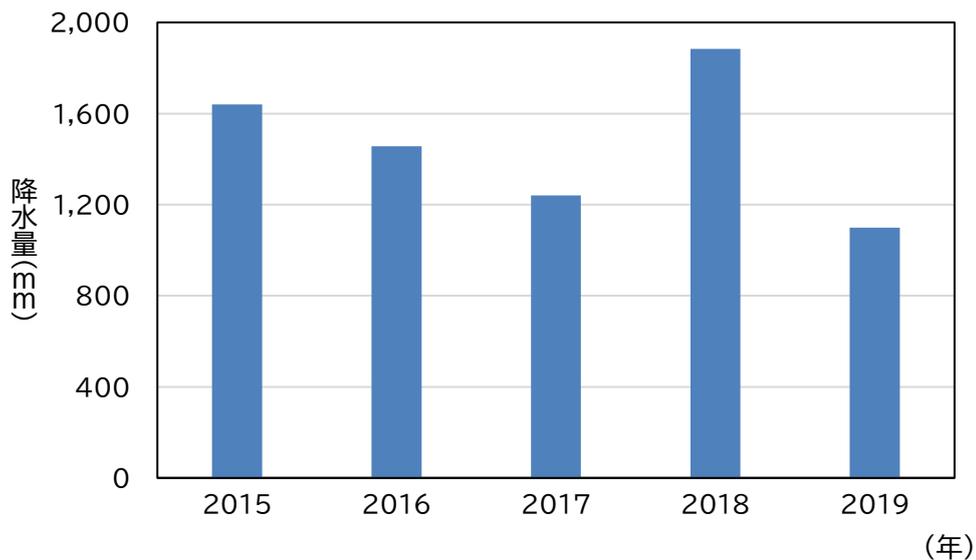


図8 過去5年間の年間降水量

出典)川西市統計要覧(2019年度)

(3)本市の自然の特性

本市には次のような豊かな自然が残っています。

- 1 里山（日本一の里山）
- 2 豊かな生物多様性
- 3 ブナ林（夏緑樹林）
- 4 エドヒガン（さくら）
- 5 里山放置林
- 6 ナラガシワ
- 7 猪名川



川西市・能勢町 黒川字奥山ブナ群落(妙見山のブナ林)



川西市黒川字瀧谷台場クヌギ群落



黒川 旧妙見の森ケーブル横のエドヒガン



里山放置林(東多田)



ナラガシワ(川西市笹部)



猪名川

2. 本市が誇る豊かな自然

(1)本市の植生・地質

1)植生

市域の北部、ニュータウンが広がる中央部に山林が見られ、北部はコナラーアベマキ群集やクヌギーニシノホンモンジスゲ群落（植生図ではコナラーアベマキ群集で塗られていますが、菊炭（一庫炭・池田炭）を産する北部はこのクヌギーニシノホンモンジスゲ群落が広く見られます）、中央部はアカマツモチツツジ群集が優占する二次林が広がるほか、スギーヒノキ群落やモウソウチクマダケ群落などの人工林も集落周辺に見ることができます。

なお、アカマツモチツツジ群集は、かつては松茸も採れるようなアカマツ林でしたが、現在ではマツ枯れの影響により植生遷移が進み、コナラーアベマキ群集に置き換わりつつあります。

水域としては、市域の南北方向を猪名川やその支流が流下しており、ヨシなどの抽水植物が群落をつくっています。

畑及び水田は、南部の市街地も含め、市域全体で農耕が営まれており、畦畔草地などの植物群落も市域には多いことがわかります。その他の草地としては、市域にゴルフ場が比較的広い面積で分布しています。

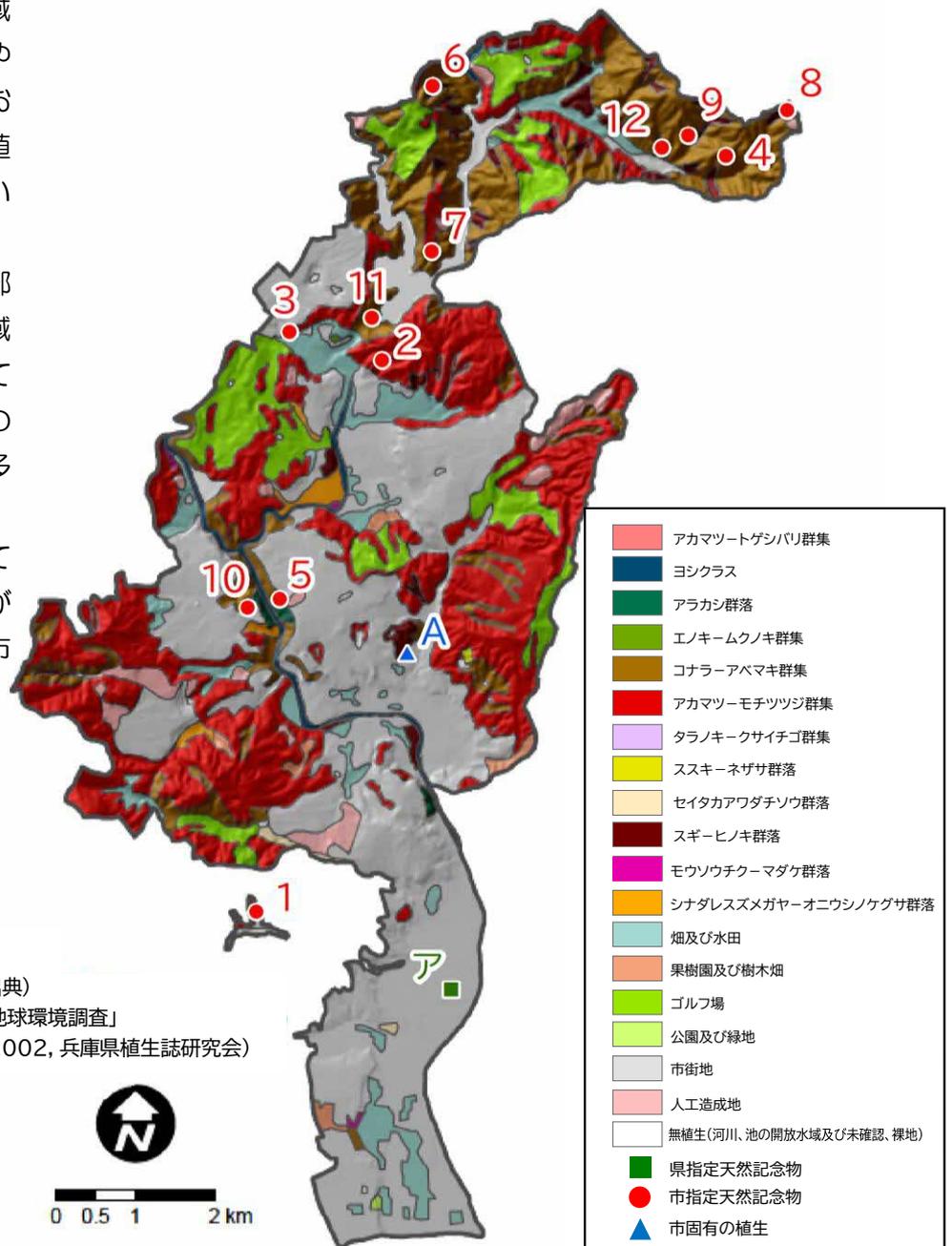


図9 本市の現存植生

指定天然記念物

豊かな自然を有する本市には、小戸神社の大クスが県指定天然記念物として1件あり、エドヒガン群落など、12件の市指定天然記念物があります。

表2 市内の指定天然記念物

区分	名称	所在地	指定年月日
県指定	ア 小戸神社の大クス	小戸1丁目13-17	1966年3月22日
市指定	1 満願寺の樹林	満願寺町7	1981年1月28日
	2 平野神社社叢	笹部2丁目35	1985年11月29日
	3 慶積寺のカヤ	一庫3丁目24	1985年11月29日
	4 黒川字奥瀧谷エドヒガン群落	黒川字奥瀧谷1-1ほか	2011年9月9日
	5 水明台1丁目エドヒガン群落	水明台1丁目7-1ほか	2011年9月9日
	6 国崎字小路エドヒガン群落	国崎字小路13ほか	2015年3月31日
	7 国崎字知明・卯ノ戸エドヒガン群落	国崎字知明・卯ノ戸地内	2015年9月4日
	8 黒川字奥山ブナ群落（妙見山のブナ林）	黒川字奥山1-8の一部	2016年3月25日
	9 黒川字奥瀧谷台場クヌギ群落	黒川字奥瀧谷16の一部	2017年5月25日
	10 清和台東3丁目コナラ群落	清和台東3丁目3-1ほか	2018年4月19日
	11 一庫字唐松エドヒガン群落	一庫字唐松4-1の一部	2021年4月22日
	12 黒川字大谷台場クヌギ群落	黒川字大谷4-1ほか	2021年4月22日

本市固有の植生

指定天然記念物ではありませんが、本市固有の植生として、多太神社のコジイ-カナメモチ群集や妙見山山頂部のブナ-シラキ群集があります。

表3 本市固有の植生

番号	名称
A	多太神社のコジイ-カナメモチ群集

2) 表層地質

市域の中央部より以北は、地質年代の古い超丹波帯地層群が優占し、以南は丹波層群や沖積層が広く見られます。猪名川周辺には、中・低位段丘層が分布しており、段丘の特徴として久代の春日神社にあるような湧水が見られる場所もあります。また、南部の市街地にはかつて河川の氾濫原に成立していたと考えられるエノキの林などが段丘崖に残っています。

なお、市域の中央部より以北の超丹波帯地層群には、ほかではあまり見ることのできないエドヒガンという珍しいサクラが多数分布しています。エドヒガンは、明るい場所でないと生きていくことができないことが知られており、古く崩れやすい地質が明るい場所を提供してきたことが、エドヒガンが多い理由の一つではないかと考えられています。

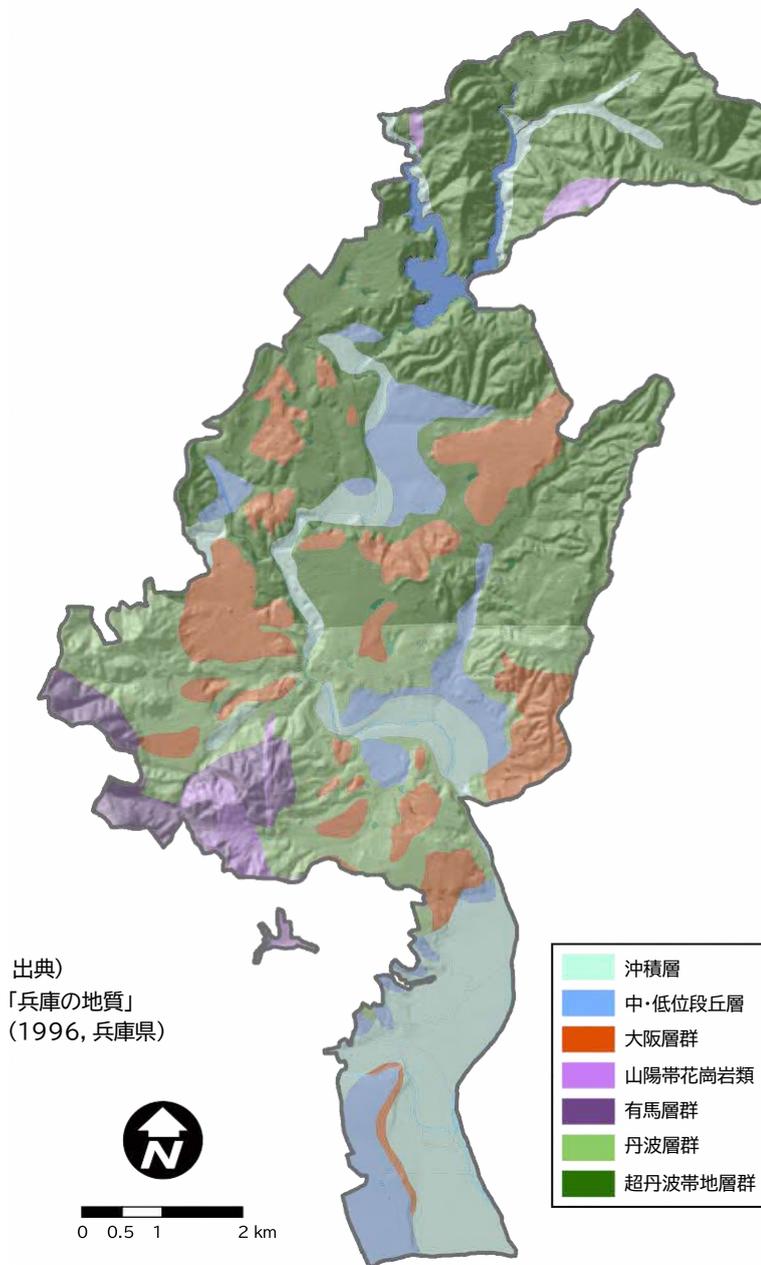


図10 本市の表層地質

(2)本市の多様な環境・生態系

1)日本一の里山

◇特徴：本市北部の黒川は菊炭（一庫炭・池田炭）の生産のためのクヌギ林の輪伐が現在も行われていることなどから「日本の里100選」にも選ばれています。以下のような多くの特徴を持っており、豊かな自然環境や景観が形成、更には維持されてきた里山文化が根付いていることから、「日本一の里山」と称されています。

【文化性】今でも利用されている全国的に貴重な里山（例：菊炭（一庫炭・池田炭））

【景観性】輪伐により林齢0年から9年までの異なった林分が互いに連続しており、モザイク状の昔の里山景観が見られます。

【歴史性】里山の営みについて、平安時代の文献に記録が残っています。

【生物多様性】炭（一庫炭）の原木がクヌギであり、クヌギ林はたくさんの昆虫の生息の場となっています。

◇生物多様性の状況：台場クヌギ、エドヒガン（植物）、ヒロオビミドリシジミ、オオムラサキ、ギフチョウ、スジボソヤマキチョウ、クロヒカゲモドキ、オオクワガタ、アカマダラハナムグリ、クロカナブン、ヒメボタル、ゲンジボタル（昆虫類）など多くの生きものが生育・生息しています。ただし、近年はシカの食害の影響により、里山の林床の植物は種類数が非常に少なくなり、生物多様性の低下が危惧されます。また、多くの昆虫を育むが故に、心ない人たちにより台場クヌギが傷付けられることや、乱獲による被害も深刻になりつつあります。

◇生物多様性から見た重要性：当該地のクヌギ林は、生きた里山林として価値があるだけでなく、里山の生物多様性を維持する上で重要であり、また、地域の歴史・文化・自然を学ぶ環境学習・生涯学習の場としても貴重です。



2)棚田

◇特徴：笹部には、四季折々の美しい棚田が広がっています。山麓の緩傾斜地に作られた水田とその間を仕切る畦には、多様な種類の生きものがすんでいます。また、笹部よりは小規模ですが、赤松北谷などにも棚田が残されており、人の営みにより作られた美しい景観を見ることができます。

◇生物多様性の状況：チガヤ、ススキ、ノアザミ、キツネノマゴ、スイバ、ヒガンバナ、ノビル、イヌタデ、ノチドメ、エノキグサ、ヘビイチゴ、ヒメヨツバムグラ（植物）などたくさんの植物が生育しています。

◇生物多様性から見た重要性：定期的に刈り取り管理が行われる棚田の畦畔には、チガヤの優占する草地が見られ、畦畔特有の植物や昆虫などの貴重な生息環境にもなっています。このような草地環境は、農業の営みにより維持されており、美しい田園風景とともに生物多様性の観点から保全すべき主要な市域です。



3)ニュータウンのまち山

◇特徴：清和台付近の虫生川両岸に見られるニュータウンに残された里山林です。北部の日本の里山同様、コナラやクヌギが優占する林ですが、シカの影響がないこと、市民団体による管理が行われていることなどから、低木層、草本層の植物の種類が非常に多いのが特徴です。

◇生物多様性の状況：現地での確認では、面積100m²内に50種類（草本層だけでも38種）もの植物が生育しています。シロバナウンゼンツツジ、ササユリ、ミヤマウズラ、キンラン、ミヤマヨメナなど、美しい花が咲く植物がたくさん生育しています。

※低木層：地表からの高さが1.5m～5.0mの層のことです。

草本層：地表を覆う、高さの低い（一般的に「草」としてイメージされる）植物の層のことです。

◇生物多様性から見た重要性：シロバナウンゼンツツジやササユリなどの植物が多いことに気づいた市民団体が、それらの保全を目的とした森林整備（市有地）を行っています。貴重な植物を含む、非常に多様な植物が生育しており、市域の生物多様性を保全する上で重要な場所です。しかしながら、詳細な調査は行われておらず、生物多様性の実態などはまだわかっていません。



4) 段丘崖のエノキ林

◇特徴：本市南部の市街地、加茂にある河岸段丘崖に残された森林です。エノキ、ムクノキからなる自然植生や竹林が成立しています。また、竹林を中心にヒメボタルが生息しており、市民団体による保全活動が進められています。

◇生物多様性の状況：エノキ、ムクノキ、クスノキ、モチノキ、タラヨウ、カゴノキ、イヌマキ、ヤブニッケイ、ハカタシダ、ベニシダ（植物）、ヒメボタル、ヘイケボタル（昆虫類）などのほか、トウネズミモチ、シュロなどの外来種や植栽種が確認されています。

◇生物多様性から見た重要性：市街地の中における生物多様性を守るスポットとして非常に貴重な場所となっています。ただし、ヒメボタルが生息する竹林にはごみの投棄が見られたり、隣接するエノキ、ムクノキの林に竹が侵入したりというような課題があります。



5)河川・水辺環境(知明湖、猪名川河川敷、猪名川渓谷、鼓が滝、初谷川、市街地の水路)

◇特徴：本市を流れる猪名川水系には、一庫ダムや知明湖、水明台のエドヒガンが群生する猪名川渓谷、鼓が滝、初谷川があります。南部の市街地では、猪名川（国管理）に広い河川敷が整備されています。また、川西北小学校近くには、貴重な魚類が生息する水路が流れています。

◇生物多様性の状況：それぞれのスポットに、エドヒガン、サツキ、ユキヤナギや珍しい魚類などの重要な生物が生息しています。一方、知明湖ではオオクチバスやコクチバス、ブルーギル、猪名川河川敷ではアレチウリなど特定外来生物も確認されています。

◇生物多様性から見た重要性：本市では、山や農地などと異なる生態系を有する場所である水辺空間は少ないため、水生生物の多様性の確保、保全の場として重要な空間です。

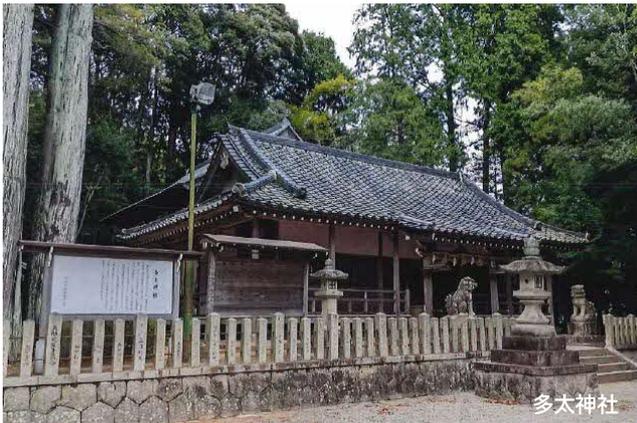


6) 社寺林

◇特徴：社寺にある森林は長年にわたり守られていることから、本市の気候下に成立する自然林として自然性、景観から貴重な空間となっています。市内には、鴨神社、小戸神社、八坂神社、平野神社、多太神社などの社寺が森林を抱えており、そのほとんどがシイ、カシ、クスノキなどが優占する照葉樹林です。ほかには鴨神社に見られる段丘崖のエノキ、ムクノキの森林もあります。

◇生物多様性の状況：外観は照葉樹林で、林内は暗く、低木層や草本層の植物を欠いている場所が多いです。そのため、生物多様性は低く望ましい状態ではありません。人の散策による踏圧、シカの食害や上層の樹木が茂りすぎるための林内へ日照不足などにより、種の多様性が低くなっていると考えられます。

◇生物多様性から見た重要性：現状の生物多様性は低いものの、照葉樹林を生息の場とする生きものにとっては重要な場所であり、生物多様性の向上を目指した整備などが望まれます。



多太神社



多太神社コジイ群落 群落の概観



多太神社神社コジイ群落 コジイの大径木

(3)本市の生物相

1)概要

生物多様性の基本データとして、既往の文献、資料から本市で確認されている生物種を整理しました(表4)。これによると、植物が966種、動物が2,388種、合計3,354種の生物が確認されており、それらのうち246種(植物30種、動物216種)が絶滅の危機にある種となっています。一方で、219種の外来生物も確認されており、アレチウリなどの特定外来種の生育も確認されています。

表4 本市の確認生物数

区分		科数	種数				
			絶滅危惧種	外来種			
植物	シダ植物門	21	72	5	1		
	種子植物門	裸子植物亜門	6	13	0	0	
		被子植物亜門	双子葉植物綱 離弁花亜綱	67	413	5	63
			合弁花亜綱	30	255	13	68
		単子葉植物綱	19	213	7	40	
合計		143	966	30	172		
動物	哺乳類	13	23	6	4		
	鳥類	38	128	57	5		
	爬虫類	8	15	7	2		
	両生類	7	14	10	1		
	昆虫類	285	1,838	106	23		
	魚類	13	55	12	5		
	その他無脊椎動物	55	315	18	7		
	合計	419	2,388	216	47		

次に、すでに生物多様性地域戦略が作成され、生物の確認情報が記載されている神戸市、伊丹市、加西市、宝塚市、西宮市との比較を整理しました(表5)。

整理している分類群が統一されていないので簡単には比較できませんが、植物の確認種数は他市と比べて少ないものの、動物の確認種数は6市の中で3番目に多いものとなっています。

表5 他市との確認生物数の比較

分類	川西市	神戸市	伊丹市	加西市	宝塚市	西宮市
維管束植物	966	2,419		1,138	2,000	1,564
蘚苔類					41	
植物の合計	966	2,419	1,314	1,138	2,041	1,564
哺乳類	23	33		7	30	31
鳥類	128	290		107	202	220
爬虫類	15	19		6	15	13
両生類	14	17		13	17	15
魚類	55	73		39	58	76
昆虫類	1,838	4,566		432	3,058	1,448
陸産貝類		111			119	78
クモ類						59
海産貝類						51
淡水産貝類		91				15
甲殻類						24
その他	315			71		43
動物の合計	2,388	5,200	1,782	675	3,499	2,073
総計	3,355	7,619	3,096	1,813	5,540	3,637

2)植物

里山、まち山には良質な木炭を生産するための原木となるクヌギのほか、コナラやアベマキが優占しています。また、日本の桜の中では最も長寿で、樹高は20m以上、幹の直径は1mにもなるエドヒガンも見られます。兵庫県内では、自生地が限られるエドヒガンは、猪名川上流域、特に本市北部の里山に多く、今なお人の手が入る生きた里山が残っていること、かつて鉱山として利用されズリ（坑道の採掘時に発生する不要な岩石や鉱物）捨て場が多数あったこと、超丹波帯という岩石の風化が進んだ、崩れやすい古い地質が分布していることなど、生育に必要な条件が揃いやすい環境にあることが多産の要因と考えられています。また、かつて洪水などのかく乱の影響下で成立していた南部市街地の河岸段丘の林にはエノキが、神の宿る森として大事に守られてきた多太神社などの社寺林には、シイやアラカシなどの照葉樹が生育し、里山、まち山とは異なる植物を見ることができます。

一方、棚田周辺に見られる草原には、ススキやチガヤ、ノアザミ、ヤブカンゾウ、アキノタムラソウ、リンドウなどの畦畔特有の植物が生育しています。猪名川の支川である初谷川には兵庫県内でも非常に珍しいサツキが自生するほか、本川の鼓が滝にはユキヤナギが大群生しており、露岩地からなる溪谷に特徴的な植物を見ることができます。



エドヒガン



リンドウ



ユキヤナギ

3)哺乳類

里山やまち山、棚田などの農耕地が分布する市域には、ホンドジカ、イノシシ、ホンドタヌキ、キツネ、ニホンザルなどの大型の哺乳類、ヒミズやコウベモグラ、アカネズミ、カヤネズミなどの小型の哺乳類など、多くの種類が生息しています。また、鉱山として利用されていた里山やまち山には、^{まぶ}間歩と呼ばれる鉱物を採掘するための坑道がたくさん分布しており、コウモリ類の格好のすみかとなっています。ニュータウンや市街地には家屋をすみかとするアブラコウモリ（別名：イエコウモリ）も見られます。

近年、アライグマやヌートリアなどの特定外来生物の目撃が増えています。ホンドジカも生息域を拡大していますが、主に里山に生息しており、まち山で見ることはありません。



アカネズミ



コウモリ類が生息する^{まぶ}間歩

※太字：国版レッドリスト、兵庫県版レッドデータブックに掲載される絶滅危惧種を表します。

4)鳥類

里山やまち山、農耕地周辺では、ハチクマ、トビ、サシバ、フクロウ、アカゲラ、オオルリ、ミソサザイ、エナガ、カッコウ、カケスなど、ニュータウンや市街地では、ヒヨドリ、ムクドリ、スズメ、ハシボソガラス、ドバトなどを見ることができます。

一方、猪名川、知明湖やため池などの水辺では、ミサゴ、アオサギ、カワウ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、カワセミのほか、マガモ、ヒドリガモ、オナガガモ、オシドリなどの越冬カモが見られます。



カワセミ

5)両生類

カエル類では、ニホンヒキガエル、タゴガエル、モリアオガエル、シュレーゲルアオガエル、カジカガエルが里山の水辺に生息しています。ニホンアマガエルやトノサマガエルは市域の比較的広い範囲に生息しており、特定外来生物であるウシガエルも見られます。

ほかには、アカハライモリが里山、まち山に生息しています。また、国指定の特別天然記念物であるオオサンショウウオが猪名川流域などで確認されています。



シュレーゲルアオガエル

6)爬虫類

ニホンイシガメ、ニホンスッポンや外来種であるアカミミガメなどのカメ類が里山や猪名川などの水辺に生息するほか、タカチホヘビ、シマヘビ、アオダイショウ、ヒバカリ、ヤマカガシ、ニホンマムシなどのヘビ類、ニホイヤモリ、ニホンカナヘビ、ニホントカゲなどのトカゲ類も里山を中心に広く生息しています。



アオダイショウ

7)昆虫類

市域の里山は、昆虫類の多産地です。里山の優占木であるクヌギには、カブトムシや国蝶のオオムラサキが樹液を求めて集まり、アカシジミ、ウラナミアカシジミ、オオミドリシジミなどのゼフィルス（樹上性のシジミチョウ）が産卵に訪れます。クヌギは地上1~2mの高さで主幹を残し、その主幹より生じる枝を伐採するという頭木仕立てで育てられると台場状（台場クヌギ）となり、その大きく太った幹の空洞をオオクワガタの幼虫が好んで利用します。

また、猪名川渓谷ではカワトンボ類、オジロサナエ、ダビドサナエなどのように山間の溪流に見られる種を見ることができます。猪名川とその支川や棚田には水生のホタルとしてゲンジボタルやヘイケボタルが生息しています。その他、陸生のホタルとしてヒメボタルが生息しており、知明湖周辺の里山や南部市街地の河岸段丘の林内にて観察することができます。



ヒメボタル

※太字：国版レッドリスト、兵庫県版レッドデータブックに掲載される絶滅危惧種を表します。

8) 魚類

猪名川やその支川にはオイカワやカワムツが生息し、妙見山の源流部ではナガレホトケドジョウを見ることができます。また、棚田に沿って流れる小河川には、ドジョウ、カワヨシノボリ、ドンコ、ミナミメダカが生息しています。

一方、南部市街地の水路では二枚貝に産卵して繁殖するタナゴ類が生息しています。猪名川水系でこのような場所はほとんどなく、タナゴ類の貴重な生息場となっています。



ナガレホトケドジョウ

9) その他無脊椎動物

貝や甲殻類などの無脊椎動物は黒川などの上流域の小川や水田、ため池で多く見られます。貝類については、ゲンジボタルの幼虫の餌になるカワニナのほか、タニシ、モノアラガイが生息しています。また、ウズムシやサワガニ、ヨコエビ、ヌマエビなどの甲殻類、トンボ類のヤゴ（幼虫）なども見ることができます。



サワガニ

※太字：国版レッドリスト、兵庫県版レッドデータブックに掲載される絶滅危惧種を表します。

10) 問題をおこす生物

① 外来生物

外来生物の侵入は、地域の生物多様性に悪影響を及ぼすばかりか、人間活動にも好ましくない影響を与える可能性があります。このため、地域固有の生物多様性を保全し、人の生命・身体または農林水産業への被害を防止するため、「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律」が2005年6月より施行されています。この法律により、「特定外来生物」に指定された生物については、飼養、栽培、運搬、輸入、譲渡などが禁止されるとともに、すでに侵入した「特定外来生物」の防除が進められるようになりました。

市域で確認されている特定外来生物としては、外来アゾラ、ナガエツルノゲイトウ、アレチウリ、オオカワヂシャ、オオキンケイギク、ナルトサワギクなどの植物のほか、ヌートリア、アライグマ、ソウシチョウ、ウシガエル、ブルーギル、オオクチバス、コクチバス、セアカゴケグモなどの動物があげられます。



アレチウリ



オオクチバス

2023年6月にはアカミミガメやアメリカザリガニが条件付特定外来生物*に指定されました。

アライグマ、ヌートリアについては、近年目撃数が増加しており、それに伴い農作物への被害が多数報告されています。また、クビアカツヤカミキリ、ツヤハダゴマダラカミキリ、アルゼンチンアリ、ヒアリなどが兵庫県内でも発見されており、今後サクラやモモへの被害の拡大が懸念されます。

※条件付特定外来生物：特定外来生物に指定された生物のうち、一部の規制が当分の間からしない生物の通称です。捕獲、飼育、無償譲渡はできますが、池や川などの野外に放して逃がすこと、売買のほか、有償・無償に関わらず頒布（多数の人に配り分けるような行為）は禁止されています。



ミシシッピアカミミガメ



アメリカザリガニ

②在来生物

在来生物についても、生物多様性に悪影響を与えているものがあります。里山を利用しなくなったことなどにより増えたホンジカは、県内に15万9千頭もが生息していると推定されています（2021年3月時点）。市域北部の里山においては生息密度が高く、山林の林床に生える植物を食い荒らし、林床植生の衰退、種多様性の低下が問題となっています。

また、2010年以降、カシノナガキクイムシによるナラ枯れが妙見山の一角で確認されました。近年の被害量は減少傾向にあります。状況を調査しながら引き続き警戒していくことが重要です。ここ数年、全国的に注意が呼びかけられているカエントケは、ナラ枯れが発生した森林において、被害発生時または数年後に多く発生することが確認されています。ここ数年市内での報告例はありませんが、肌に触れるとかぶれを生じ、誤って食べたことによる死亡例もあるほどの猛毒があるため、注意が必要です。

さらに、秋の七草であるクズも、その旺盛な繁殖力により純群落をつくり、ほかの在来種を追いやることが稀ではありません。

これら在来生物の問題は、いずれも人間の自然への働きかけの縮小による生物多様性の危機（第2の危機）に付随して生じている現象と考えられています。



ホンジカ



カエントケ



クズ

(4)本市の特産品・文化

1)農産物(イチジク、クリ、モモ)

①イチジク

本市のイチジクの歴史は、昭和初期、広島県の榊井光次郎氏がアメリカから帰国する際、フランス人の友人からもらった北米原産のドーフィン種を持ち帰り、果樹地帯であった本市に注目し、萩原に住んでいた友人の前川友吉氏と当地での栽培に成功。榊井ドーフィンという品種を作り出し、神戸、和歌山や愛知へと栽培が広がりました。

現在、榊井ドーフィン種は国内のイチジクの大部分を占めるようになり、韓国など海外へも広がっています。本市の出荷量は神戸市に次ぎ県内2位で、現在では市内の南部地域の久代、東久代、下加茂、加茂、栄根、小戸、出在家、萩原などで約12ヘクタール、約110戸の農家で栽培され、年間約400トンが出荷されています。

②クリ

北摂栗は、本市のほか宝塚市、猪名川町の特産品で、千年の歴史があるとされています。

市内では中・北部の多田、東谷地区、黒川地区などでは有名な銀寄ぎんよせのほか乙宗おとむねという川西生まれの品種や筑波などの品種が栽培されており、9月下旬から10月中旬まで大阪などの阪神間に出荷されています。

③モモ

本市のモモは、市南部の加茂地区などで栽培され、通常7月頃に採れるモモよりも一月早く収穫できる早生モモで、兵庫県下でもこれを作っているのは本市だけとあって、阪神間の市場でも大変人気があります。また、現在では、自家受粉する品種に変わっていますが、以前は、モモの交配は人の手で行われており、4月頃には先端に布を巻き付けた棒を使って花粉をメシベに付ける受粉作業があちこちのモモ畑で見られました。

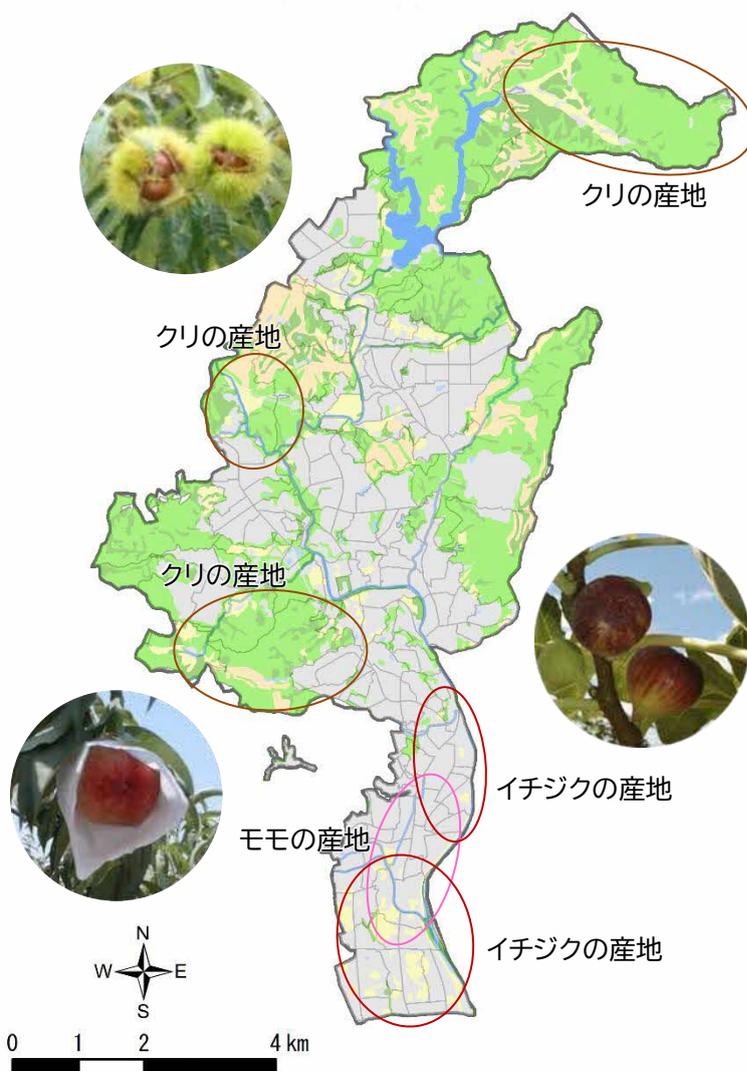


図11 本市の特産品の生産地

2) 茶道文化と菊炭・台場クヌギ

市北部の里山が日本一と言われる理由は、今も炭が作られ利用されており、美しいモザイク的な景観が見られるためです。ここで生産される炭は、菊炭（一庫炭・池田炭）と呼ばれる高級な茶道用の道具炭で、平安時代の文献に記録が残っています。

今は黒川地区のみで焼かれています。かつてはあちらこちらで焼かれていたようです。その名残が台場クヌギです。良質な菊炭の原木となるクヌギは各地で植栽され、何度も伐採、利用が繰り返されるうちに、堂々とそびえる台場クヌギになりました。台場に仕立てる理由は、伐採後に再生してくる新芽をシカに食べられないようにするため、高い位置で伐採するとよく萌芽するなどの理由がありますが、詳しくはわかっていません。なお、この台場クヌギが生育する本市の里山にはクワガタムシやカブトムシをはじめとする多くの昆虫類が生息しています。

このように、人と文化そして生物多様性がつながっている場所は全国的にも非常に珍しい場所であると言えます。

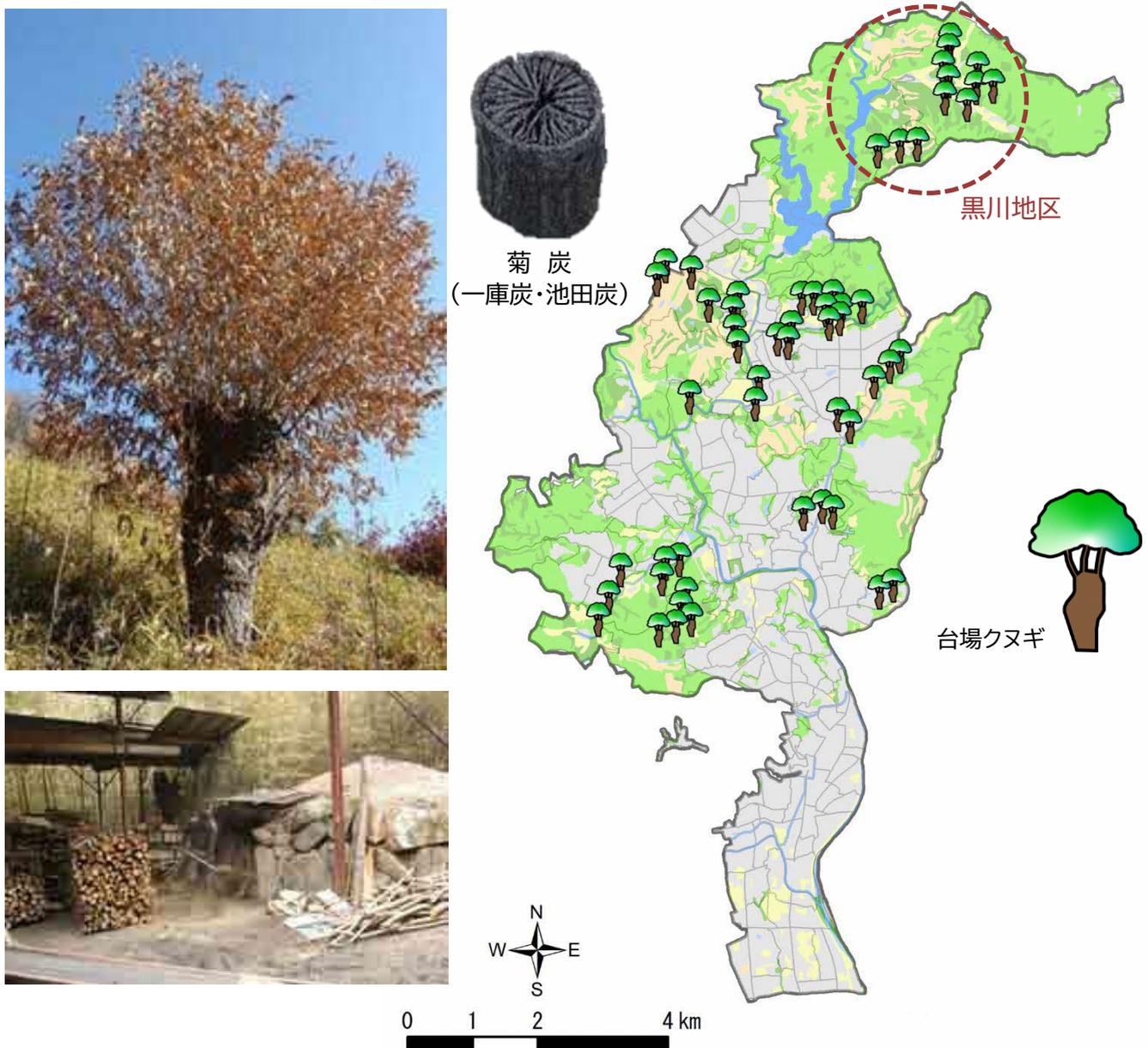


図12 菊炭(一庫炭・池田炭)の生産地と台場クヌギの分布

3. 自然環境保全における取組み

(1) 行政の代表的な取組み

1) 基本計画の作成

本市においては、2024年に公表されたみどりの基本計画により、市内における緑地の適正な保全や緑化の推進に関する施策を総合的かつ計画的に実施するための施策がまとめられています。

また、同年に第3次川西市環境基本計画もまとめられています。その中では、地球環境、自然環境、都市・生活環境、環境行動ごとに目標を設定し、環境配慮指針の推進、環境教育の普及、市民活動の支援などの方策がまとめられています。

2) 具体的な取組み

上位計画などを踏まえ、具体的な事業が進められています。近年の代表的な事業として、下記の事業があります。

① 里山体験学習事業

◇実施概要：兵庫県では、小学校3年次に環境体験学習、小学校5年次に自然学校として環境教育が行われています。市内ではこれらに加え、小学校4年次に「里山体験学習」を独自に行っています。これは北部の日本一の里山をフィールドに、地域での体験学習（下草刈り、木工クラフトなど）や地域住民とのふれあい（講話やしめ縄作りなど）を通して、自然に対する敬意の念・生命のつながり・環境保護の大切さを実感するとともに川西の持つ豊かさ（ひと・歴史・文化・自然など）にふれあうことを目的としています。

◇成果：2008年度から実施していますが、1～3年生の児童から参加を楽しみにする声があるなど、里山体験学習が各校の教育課程・児童の意識に定着してきています。

② 森林保全事業

◇実施概要：森林の持つ多面的機能を維持し、整備や保護を推進するとともに、治山事業の実施により林地の保全に努めています。

◇成果：森林ボランティア団体の活動に対する支援や、市内の治山事業候補地の選定など県と情報共有をしながら実施しています。

(2)市民団体の取組み

本市では各地でボランティア団体などが環境保全に取り組んでいます。特に北部の日本一の里山や菊炭（一庫炭・池田炭）を守るための森林ボランティアの活動は活発です。「菊炭友の会」、「川西里山クラブ」、「NPO法人 ひょうご森の倶楽部」、「NPO法人 北摂里山文化保存会」など多くの団体が下刈り、間伐や炭焼きなどによる里山の維持管理の活動を行っています。兵庫県立一庫公園内では「ひとくらクラブ」、「ひとくら森のクラブ」が活動を行っており、里山保全活動のほか、菊炭の炭焼き技術などの里山文化技術を伝える活動を行っています。能勢妙見山では、「能勢妙見山ブナ守の会」がブナ林の整備や植樹を行っています。

また、群生するエドヒガンの保全活動も活発であり、特に市の天然記念物である水明台1丁目のエドヒガン群落では「溪のサクラを守る会」が、国崎クリーンセンター敷地内では「ゆめほたるクラブ」が森林整備などを行っています。

さらに武庫川や猪名川の流域では、「流域ネット猪名川」、「身近な自然とまちを考える会」、「NPO法人 野生生物を調査研究する会」が河川の清掃や生物の調査・保全、外来植物対策などの活動を行っています。

ほかにも、大和の森の整備（「大和フォレストクラブ」）、東多田の里山の整備・再生（「東多田里山の会」）、清和台のニュータウンにある残存林（まち山）とシロバナウンゼンツツジの保全（「虫生川周辺の自然を守る会」）、加茂の段丘崖の森林に生息するヒメボタルの保全や柳谷の lindou 群落の保護（「川西自然教室」）などの活動があります。

このように、本市では市民団体による環境保全活動が活発である一方で、各団体とも高齢化や後継者不足が問題となっています。

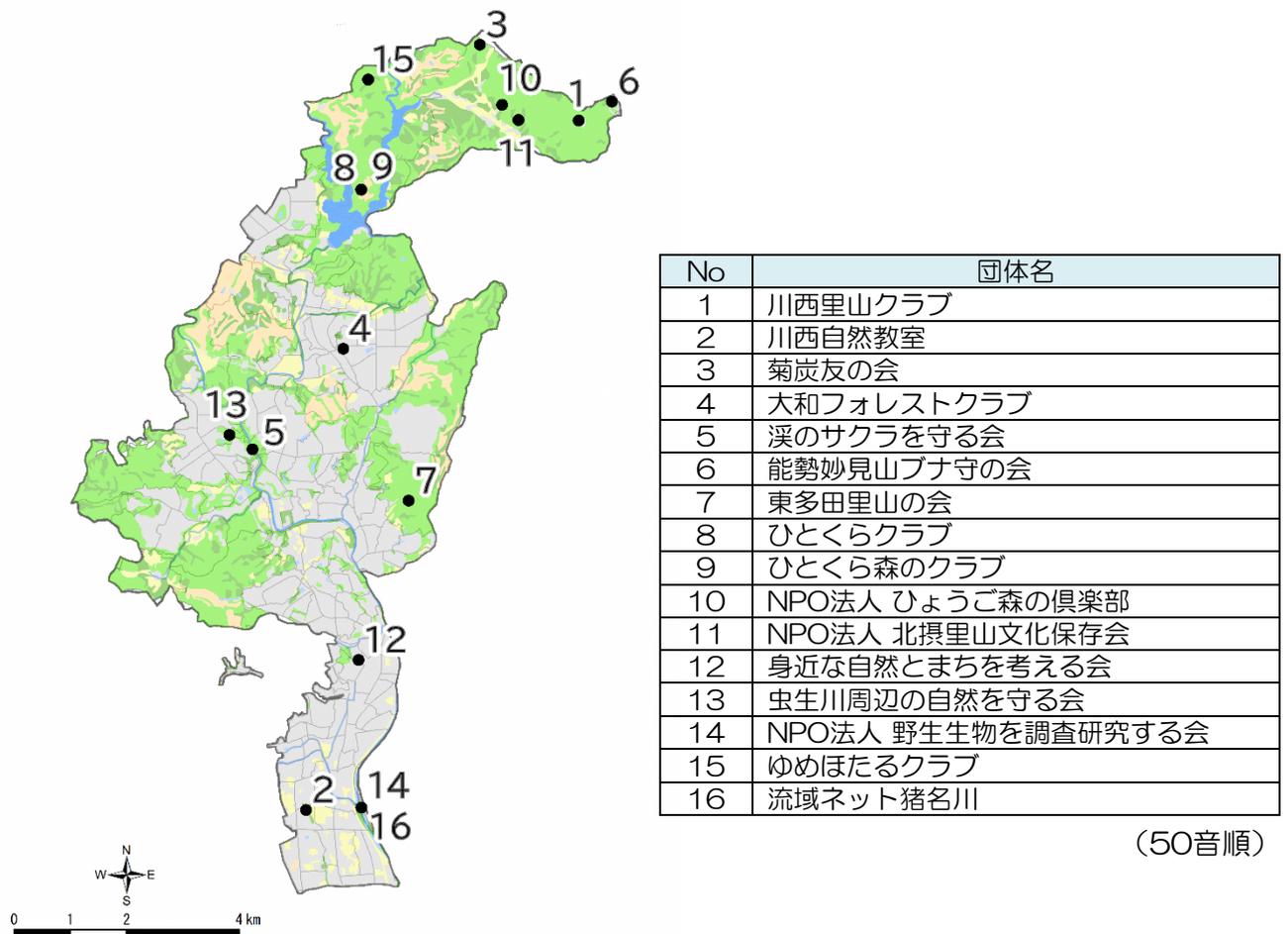


図13 市民団体の活動状況

本市の自然関係市民団体の特性

- 1 多数の市民団体・・・16団体
- 2 地域景観・自然の保全
- 3 活動の場の広さ（里山、ブナ林、里山放置林、猪名川）
- 4 自己の学習から学校教育への支援
- 5 生物多様性保全（オオムラサキ、ヒメボタル）
- 6 地球温暖化、CO₂、SDGs



溪のサクラを守る会における環境学習(則久氏提供)



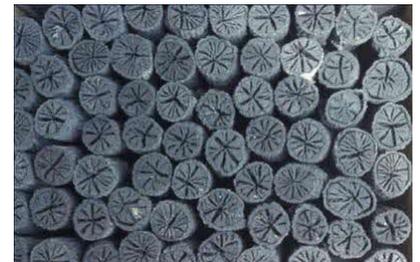
東多田里山の会の活動地(逸見氏提供)



虫生川周辺の自然を守る会の活動地(菅原氏提供)



大和フォレストクラブの活動地(井浦氏提供)



菊炭(一庫炭・池田炭)

- 日本一の里山
 - ・里山体験学習の支援（菊炭友の会、川西里山クラブ）
 - ・菊炭（一庫炭・池田炭）生産への支援（NPO法人ひょうご森の倶楽部、NPO法人北摂里山文化保存会）
 - ・菊炭（一庫炭・池田炭）生産体制の形成（さと山の再生）（菊炭友の会、ひとくら森のクラブ）
 - ・里山林景観の維持（NPO法人北摂里山文化保存会、ひとくらクラブ、川西里山クラブ）
- 生物多様性
 - ・オオムラサキ、ヒメボタルの保全（川西里山クラブ、川西自然教室）
 - ・シロバナウンゼンツツジ（虫生川周辺の自然を守る会）
- ブナ林
 - ・ブナ林の保全・育成（能勢妙見山ブナ守の会）
- エドヒガン
 - ・エドヒガンの保全・育成（ゆめほたるクラブ、菊炭友の会、溪のサクラを守る会、川西里山クラブ）
- 里山放置林
 - ・まち山の育成（溪のサクラを守る会、大和フォレストクラブ、虫生川周辺の自然を守る会、東多田里山の会）
 - ・環境体験学習の支援（溪のサクラを守る会、大和フォレストクラブ、虫生川周辺の自然を守る会、東多田里山の会、川西自然教室）
- ナラガシワ
 - ・歴史・文化・自然（東多田里山の会）
- 猪名川
 - ・水系の保全（身近な自然とまちを考える会、NPO法人野生生物を調査研究する会、流域ネット猪名川）

図14 本市の自然と市民団体の関係

(3)事業者の取組み

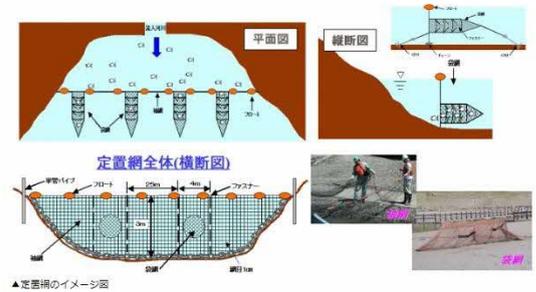
1)猪名川河川事務所の取組み

国土交通省近畿地方整備局猪名川河川事務所では、2009年に「淀川水系猪名川自然再生計画書」を策定し、「かつて猪名川に存在した“多様な生物がすむ身近な”河川環境の回復」を目標として、河原・水陸移行帯の再生、縦断連続性の回復（横断工作物への簡易魚道設置）等の事業を行っています。また、外来植物対策では、東久代公園付近の河川敷などで市民団体等との共同により特定外来生物アレチウリの駆除活動を実施しています。



2)一庫ダムの外来魚対策

知明湖を管理する独立行政法人水資源機構一庫ダム管理所では、定期的な自然環境調査やダムに生息する特定外来生物のブラックバス、ブルーギルの対策を実施しています。2005年から2022年にかけてダムの水位変動を利用したアイデアで、たくさんのブラックバスとブルーギルを捕獲しました。



3)兵庫県立一庫公園の取組み

一庫公園では、生物多様性ひとくらパーク戦略に基づき、緑の保全、クヌギ林やエドヒガン群落の保全・再生、間歩跡（坑道）の活用、野生動物への対策、モリアオガエルなど動植物の希少種の保全等に取り組んでいます。また、環境学習の場、人と自然の出会い・憩いの場として、住民活動グループや関係機関との協働で、炭焼き体験塾や自然環境体験学習、さらに展示やビジター機能の充実など、子育て支援や生涯学習に資する活動や整備に努めています。



希少種モリアオガエルの生息地



一庫炭焼き体験塾より



天然記念物のエドヒガンや間歩跡



小学校里山体験学習から

4)国崎クリーンセンターの活動

国崎クリーンセンターでは、稼動する以前から猪名川上流広域ごみ処理施設環境保全委員会を組織し、影響評価を行うとともに、エドヒガン、ヒメボタルなどの貴重な種や、シカ柵を設置して里山環境の保全対策を進めています。また、市天然記念物に指定されているエドヒガン群落の保護やシカの不嗜好植物の試験植栽等を地域のボランティアの方達と一緒に取り組んでいます。



5)企業

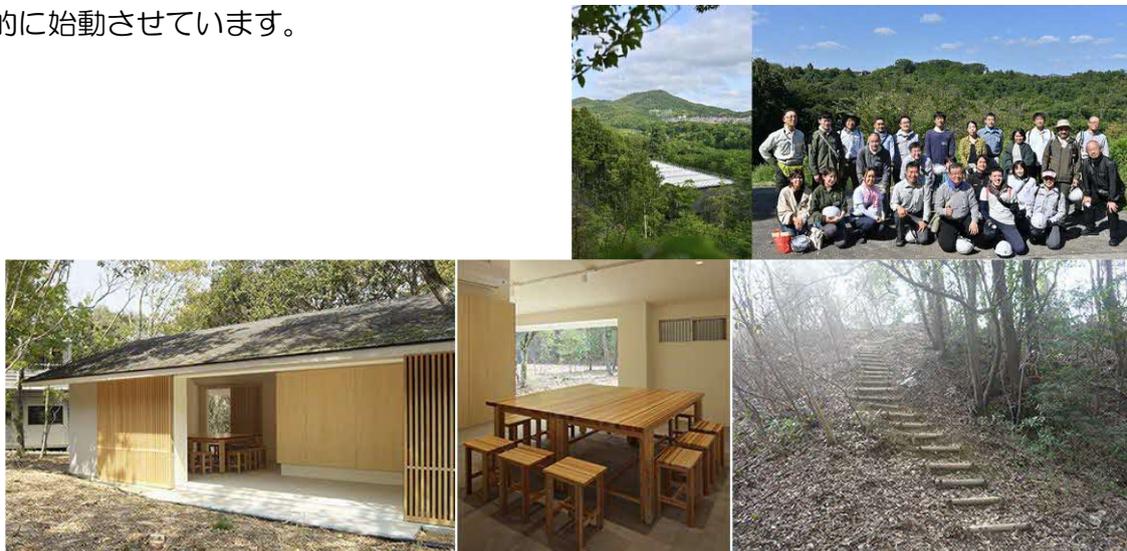
■ダイハツ工業株式会社(多田エンジニアリングセンター)

ダイハツ工業株式会社の多田エンジニアリングセンターでは、自然を守り、次世代へ継承するために事業活動全般にわたり環境保全活動に努めています。一例として、敷地内には、ピオトープ（地域の野生生物の生息空間）を整備し、社員の環境マインドの醸成に役立て、地域の環境保全活動への参加促進につなげています。また、多くの社員が毎年グリーンカーテン活動を通じてゴーヤを育て、食することで自然環境を身近に感じつつ働けることの喜びを共有しています。



■株式会社竹中工務店(研修センター)

2017年から環境方針や生物多様性活動指針を具現化する竹中生物多様性促進プログラムの一つとして「清和台の森づくり」活動を開始しました。「清和台の森づくり」は、生態系・生物多様性保全のモデルをつくり、実践する活動で、①従業員主導による整備・保全活動、②体験型研修、③研究開発・環境技術発信、④ステークホルダーとの連携・協働という4つの活動を行います。これらの活動を進めるにあたり、外部専門家として「兵庫県立人と自然の博物館」の協力を得て、「清和台の森」を日の光の入らない常緑樹林から、落葉樹を中心とした明るく生物多様性保全の高い里山林への転換を図っています。活動の開始にあたっては、まず、長年手つかずであった森の整備に着手し、侵略的外来種の伐採を行い、森づくり活動の拠点となる「フィールドセンター」や「自然観察路」の整備を行い、2018年からは、②体験型研修を本格的に始動させています。



フィールドセンター

自然観察路

■黒田電気株式会社・株式会社チュチュアンナ

兵庫県が進める企業の森事業に参画し、黒川付近の里山を「黒田電気の森」、「チュチュアンナの森」として整備しました。（「黒田電気の森」は2021年3月31日、「チュチュアンナの森」は2016年度末事業終了）



4. 市民の意識～アンケート調査より～

(1) アンケート調査の実施概要

1) 実施目的

生物多様性や本市の自然環境についての市民の認識度、意識の情報を収集し、本戦略の保全対象、目標設定や行動計画に活用する目的で実施しました。

2) 実施時期、方法

① 対象

市民：本市にお住まいの1,200名を無作為に抽出し、アンケートを送付しました。

事業者：川西市商工会会員を中心に、100社を無作為に抽出し、アンケートを送付しました。

小学生：市内の公立小学校に通う6年生277名を対象に、学校を通じてアンケートを配布しました。

② 実施時期

発送・回収：2023年1月

③ 回収方法

紙媒体による郵送での回答のほか、URLや2次元コードからのWEB回答により回答いただきました。

3) 回収結果

期限までの回答数は、市民359通、事業者35通、小学生238通の合計632通でした。回収率は、市民29.9%、事業者35.0%、小学生85.9%で、全体では40.0%となりました。

表6 回収結果

	市民	事業者	小学生	合計
送付数	1,200通	100通	277通	1,577通
回収数	359通	35通	238通	632通
回収率	29.9%	35.0%	85.9%	40.0%

(2) アンケート調査結果

1) 回答者の属性(市民、事業者)

市民アンケート回答者の年齢構成は表7のとおりです。居住地域として中エリアからの回答が多く、49.0%となっており、次いで南エリア、北エリアとなっています。事業所所在地としては南エリアが45.7%で最も多く、次いで中エリア、北エリアとなっています。なお、エリア区分は、後述する第3次川西市環境基本計画におけるエリア区分に従いました。

表7 市民アンケート回答者の年齢構成

区分	10代	20代	30代	40代	50代	60代以上	無回答・無効	合計
人数	10	27	42	62	66	147	5	359
割合	2.8%	7.5%	11.7%	17.3%	18.4%	40.9%	1.4%	100.0%

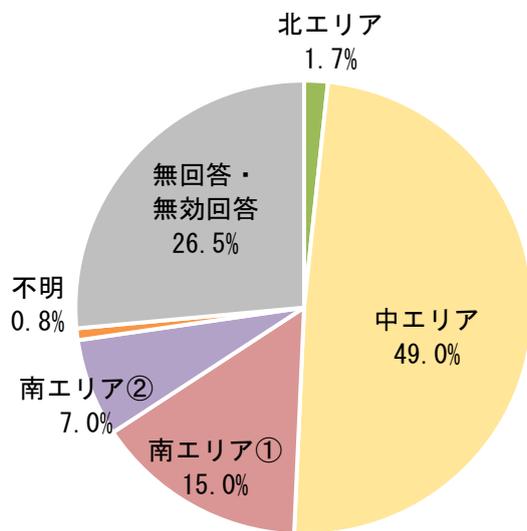


図15 市民アンケート回答者の居住地域

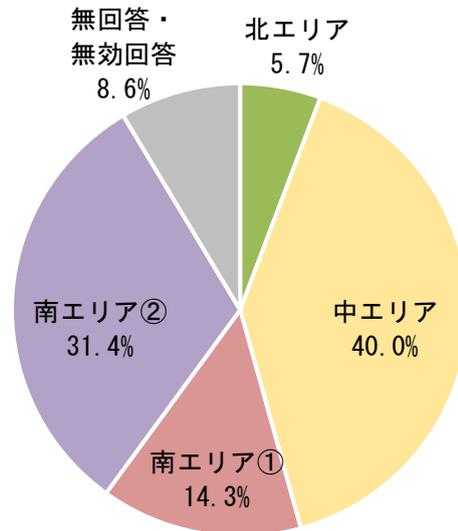


図16 事業者アンケート回答者の事業所所在地

2)生物多様性に関する知識

■設問1:「生物多様性」という言葉の認知度 (対象:市民、事業者)

◇選択:「言葉も意味も知っていた」、「意味は知らないが、聞いたことはあった」、「知らなかった・聞いたこともなかった」から1つを選択。

◇結果:市民全体での認知度は、言葉のみと意味を合わせて77.7%でした。年齢別では、10代から30代、50代で80%を超えています。前回アンケートと比較すると、全体、年代別ともにおおむね20%程度増加しています。事業者全体での認知度は言葉のみと意味を合わせて71.4%でした。

◇戦略作成上の留意点:10代、20代の若い世代に対する継続的な情報の提供や、他の年代比べて認知度の低い40代、60代以上の世代に対する啓発を行うなど、引き続き生物多様性の認知度を高めていく必要があります。

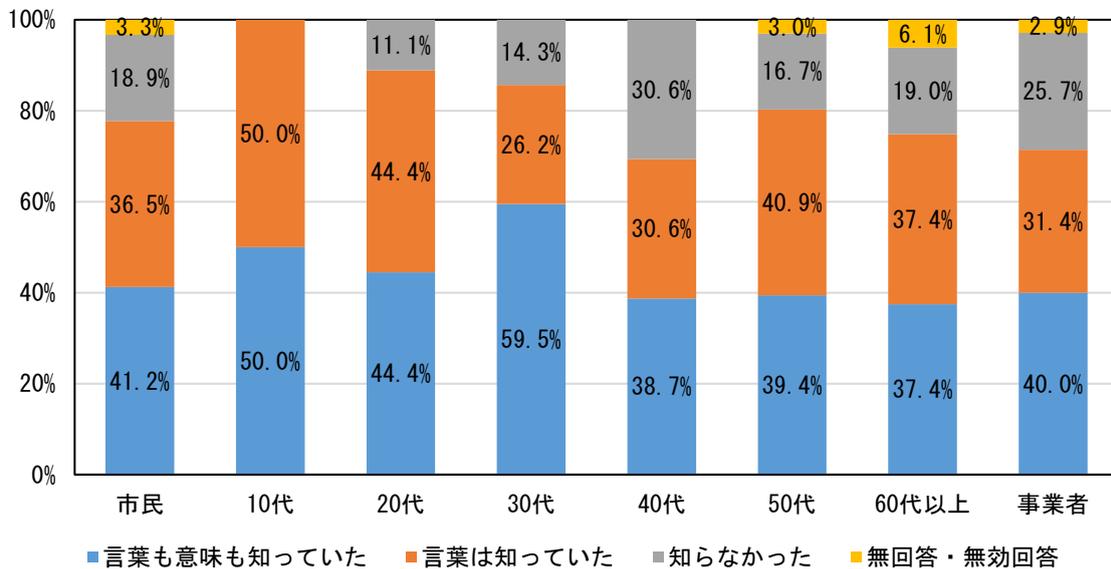


図17 言葉の認知度

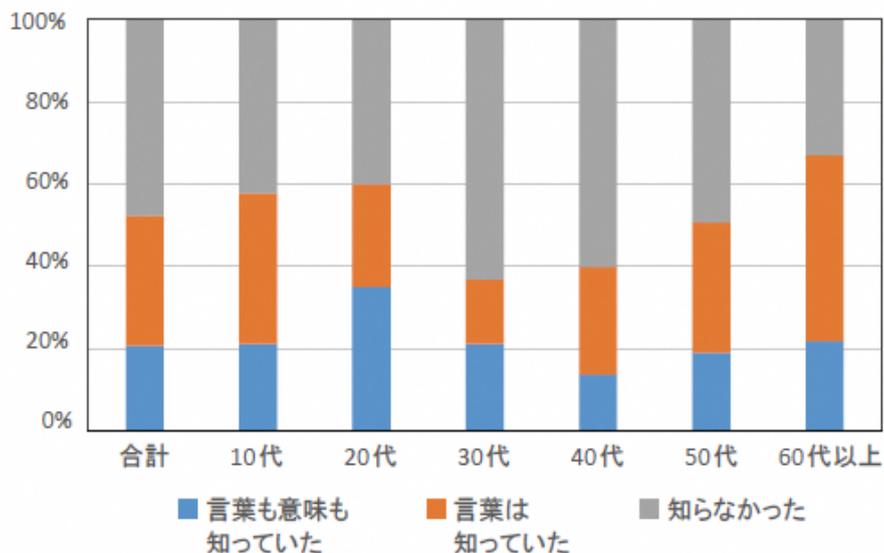


図18 言葉の認知度(前回アンケート)

3)本市の自然環境などに対する認識

■設問2:本戦略の認知度（対象:市民、事業者）

◇選択：「言葉も内容も知っていた」、「内容は知らないが、聞いたことはあった」、「知らなかった・聞いたこともなかった」から1つを選択。

◇結果：市民全体での認知度は、言葉のみと内容を合わせて28.4%でした。年齢別では、20代、60代以上で全体の認知度を超えています。事業者全体での認知度は言葉のみと内容を合わせて31.4%でした。

◇戦略作成上の留意点：全体、年代別ともに認知度が30%程度と低いため、本戦略が本市の生物多様性保全の指針であることをアピールするなど、認知度を高める必要があります。

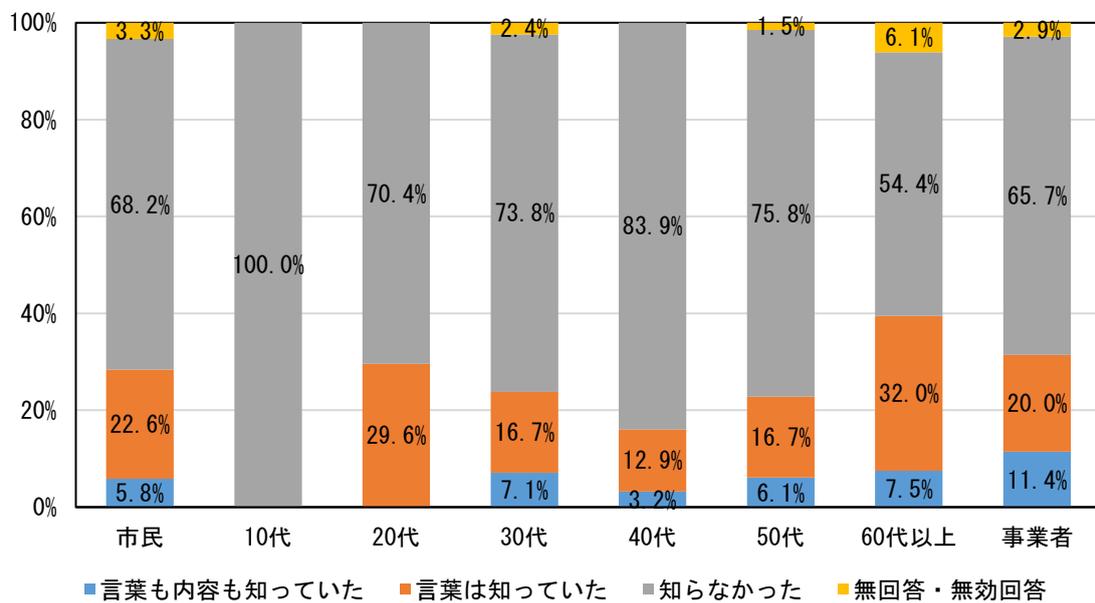


図19 戦略の認知度

■設問3:本市における特徴的な自然などの認知度（対象:市民）

◇選択：下記の16の特徴的な自然などについて、知っているものをすべて選択。

- 【里山・里地】日本一の里山、妙見山のブナ、棚田（赤松・笹部）
- 【自然の森林】エノキ林、社寺林
- 【河川・水辺】初谷川、猪名川溪谷、鼓が滝、川西北小学校前の水路
- 【シンボル（自然）】エドヒガン、台場クヌギ、ヒメボタル
- 【シンボル（農産業）】イチジク、クリ（銀寄）、モモ、菊炭（一庫炭・池田炭）

◇結果：市民全体では、前回アンケート同様、イチジクの認知度が最も高くなっていました。また、猪名川溪谷や日本一の里山の認知度が上がっていました。一方、台場クヌギや初谷川、川西北小学校前の水路、エノキ林などの認知度が依然として低い傾向にありました。年齢別では、10代から50代でエドヒガンの認知度の順位が上がっていました。また、10代、30代では台場クヌギの認知度の順位も上がっていました。

◇戦略作成上の留意点：認知度の低い内容については、日本一の里山や菊炭（一庫炭・池田炭）と関連付けて台場クヌギの情報を広めていくなど、認知度の高いものと組み合わせる必要がありそうです。

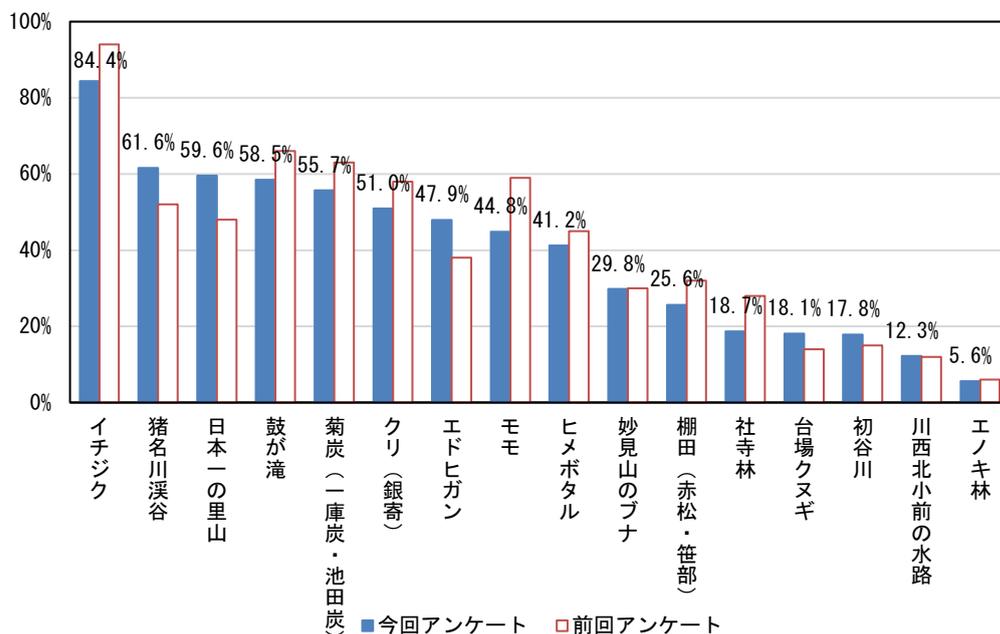


図20 本市の自然環境などに関する認知度

表8 年代別の認知度

順位	世代					
	10代	20代	30代	40代	50代	60代
1	イチジク	イチジク	イチジク	イチジク	イチジク	イチジク
2	日本一の里山	猪名川溪谷	鼓が滝	日本一の里山	クリ	猪名川溪谷
3	一庫炭	日本一の里山	猪名川溪谷	鼓が滝	猪名川溪谷	鼓が滝
4	鼓が滝	一庫炭	日本一の里山	一庫炭	鼓が滝	一庫炭
5	ヒメボタル	鼓が滝	ヒメボタル	猪名川溪谷	一庫炭	日本一の里山
6	猪名川溪谷	クリ	一庫炭	ヒメボタル	日本一の里山	クリ
7	エドヒガン	モモ	エドヒガン	エドヒガン	エドヒガン	モモ
8	台場クヌギ	エドヒガン	妙見山のブナ	クリ	ヒメボタル	エドヒガン
9	モモ	ヒメボタル	クリ	モモ	モモ	ヒメボタル
10	妙見山のブナ	棚田	モモ	妙見山のブナ	棚田	妙見山のブナ
11	クリ	妙見山のブナ	台場クヌギ	棚田	妙見山のブナ	棚田
12	初谷川	初谷川	棚田	初谷川	社寺林	社寺林
13	棚田	台場クヌギ	初谷川	台場クヌギ	水路	初谷川
14	水路	社寺林	水路	社寺林	台場クヌギ	台場クヌギ
15	エノキ林	エノキ林	社寺林	エノキ林	初谷川	水路
16	社寺林	水路	エノキ林	水路	エノキ林	エノキ林

凡例： 地域の農産物 里山系 台場クヌギ エドヒガン ヒメボタル

4)残したい自然に対する意識

■設問4:今後本市で残したい自然 (対象:市民、事業者、小学生)

◇選択: 下記の10の選択肢から、「3つ」を選択。

1. 昆虫採集やハイキングが楽しめる里山(雑木林) : 里山
2. 草花遊びができる畦や草原 : 畦や草原
3. イチジク、クリ、モモなど特産品がつくられている果樹園 : 果樹園
4. 地元産の野菜や米が採れる農地 : 農地
5. カエルやメダカがすむ田んぼや池 : 田んぼや池
6. 水がきれい生きもの豊かな水辺(猪名川・溪流・水路) : 水辺
7. 緑が多く、生きものがたくさんすむ公園 : 公園
8. 落ち着いた森 : 森
9. 特にない
10. その他

◇結果: 市民全体、小学生全体では、水がきれい生きもの豊かな水辺の保全意識が高い傾向にありました。事業者全体では、昆虫採集やハイキングが楽しめる里山の保全意識が高い傾向にありました。またエリア別にみると、北エリアでは農地、中エリアでは水辺、南エリアでは果樹園の保全意識が市民、事業者とも高い傾向にありました。

◇戦略作成上の留意点: 田んぼや池、草原、公園、社寺林などポイントの低かった要素の生態系上の重要性、他の環境や人とのつながり、生物多様性の面白さ(構成種など)の情報を伝えていく必要があります。

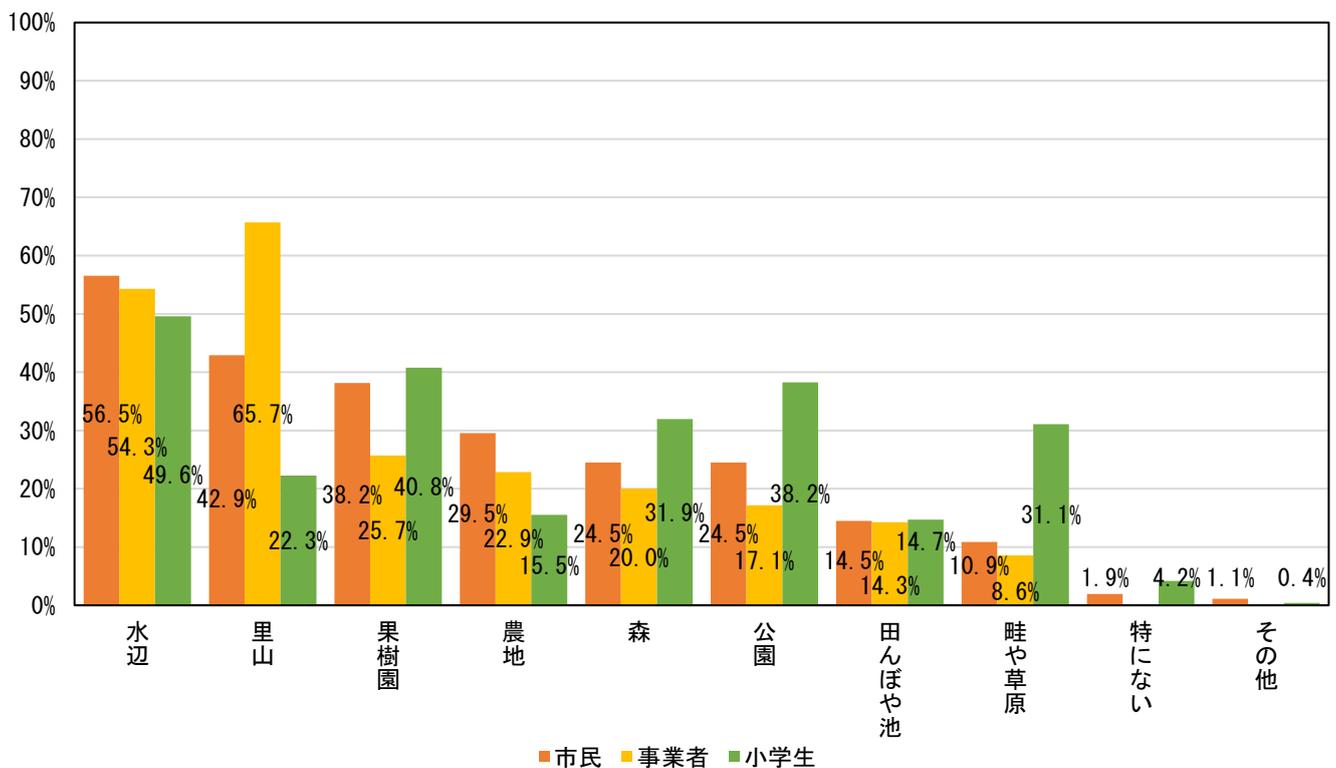


図21 今後本市で残したい自然

5)悪くなってきた自然環境

■設問5:逆に過去よりも悪くなり、元に戻すべき自然や場所(自由記述)(対象:市民)

◇結果：79件の回答がありました。大きく分けて、河川（主に猪名川、最明寺川）の環境の悪化、住宅地周辺の環境の悪化、田畑の減少の意見が目立ちました。

表9 回答の内容

内容	件数
河川（猪名川、最明寺川、初谷川、水路、河川敷）	22件
森林（舎羅林山、その他の森林）	7件
田畑（東畦野の田、赤松・笹部の棚田、イチジク園、モモ園）	15件
住宅地内（住宅地、公園、道路、街路樹）	18件
環境全般	3件
工事に対する不満	6件
その他	8件
合計	79件

◇戦略作成上の留意点：河川・水辺に対して多くの意見が寄せられ、特に水質の悪化やごみの散乱に関する意見が多くみられました。環境の悪化は、生物多様性を脅かす一因であることから、意見を寄せられた場所や環境での対策を検討していく必要があります。

6)生物多様性に係る行動

■設問6:生物多様性保全に対する行動(対象:市民)

◇選択：下記の7つの行動事例について、「常に意識して行動している」、「時々行動している」、「行動していない」から1つを選択。

1. 地域の公園などの清掃活動へ参加している
2. 飼っていた生きものを野外に逃がしたり、捨てたりしない
3. ベランダや庭に鳥やチョウが好む植物を植える
4. 学校や職場などのビオトープ*づくりに関わる
5. ハイキングや自然観察会などに出かける
6. 里山や水辺で生きものや自然環境を保全する活動へ参加する
7. 公共交通機関（鉄道、バス）を利用する

※ビオトープ（Biotope）：「生きもの（Bio）」が生息する「環境・空間（Tope）」という意味です。具体的には、ため池、湿地、草原、里山などの場所であり、生きものを呼び込むために人工的に作り出したものをいいます。

◇結果：公共交通機関（鉄道、バス）を利用する、飼っていた生きものを野外に逃がしたり、捨てたりしないといった個人で行動しやすい内容の取組み率が高い傾向にありました。

◇戦略作成上の留意点：ビオトープづくりや自然環境保全活動など、個人で取り組みにくい活動については、市民環境団体や川西市からの情報の提供や活動機会の創出など、行動を促していくことが必要です。

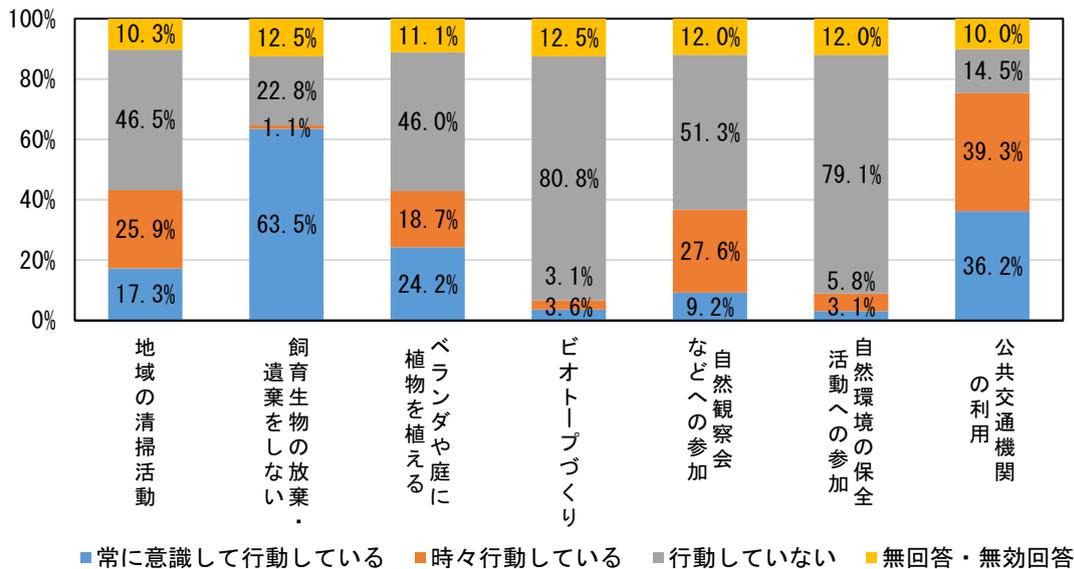


図22 生物多様性保全に対する行動

■設問7:保全活動や学習会への参加経験や意思 (対象:市民、小学生)

◇選択：保全活動や学習会に、「よく参加している」、「参加したことがある」、「参加したことはないが、今後は、参加してみたいと思っている」「特に興味はない」から1つを選択。

◇結果：市民全体では、よく参加している人、参加したことがある人を合わせると約19%でした。年代別で見ると、10代や40代、50代で参加経験がある人の割合が高い傾向にありました。小学生全体では、よく参加している人、参加したことがある人を合わせると約26%であり、里山体験学習等による成果がうかがえました。

◇戦略作成上の留意点：市民、小学生とも活動への参加意思がある人が30%前後を占めています。参加にあたり課題となっていることを解消することで、活動に参画する人を増やすことができると考えられます。

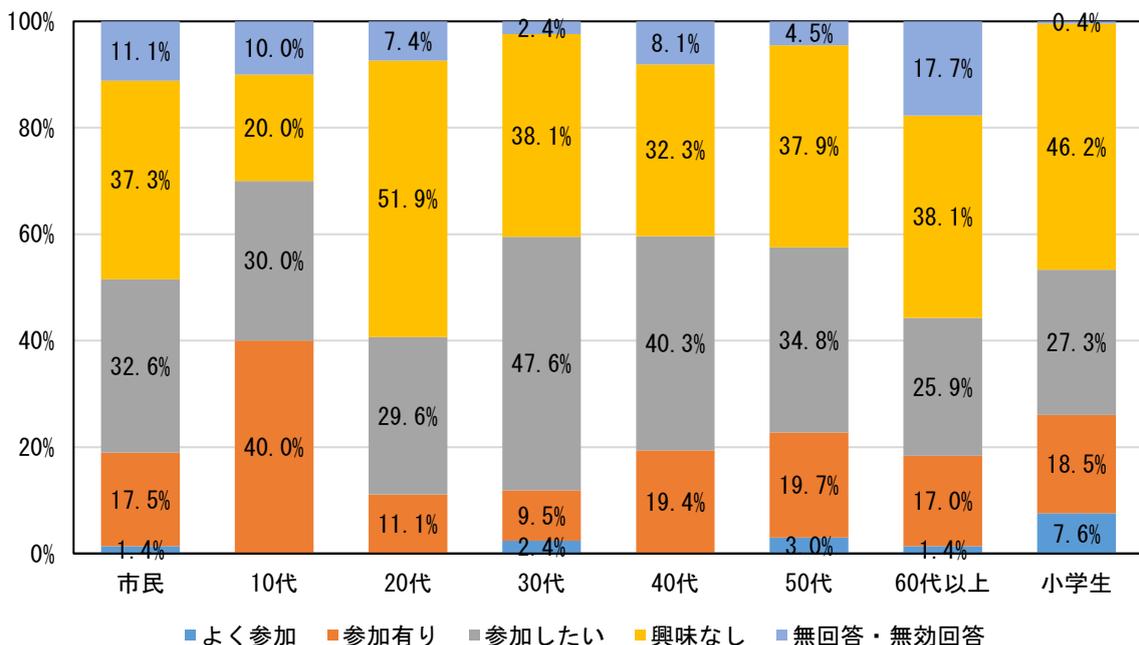


図23 保全活動や学習会への参加経験や意思

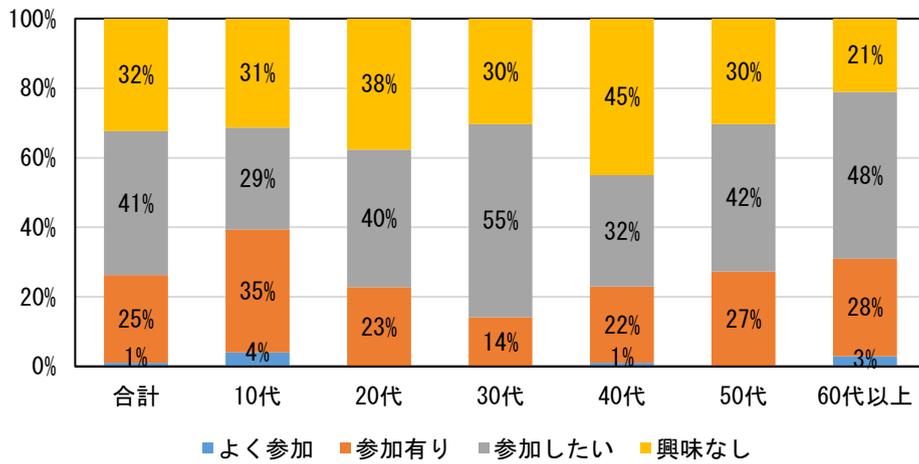


図24 保全活動や学習会への参加経験や意思(前回アンケート)

■設問8:参加している・参加したい活動(対象:市民、小学生)

◇選択:設問7で「よく参加している」、「参加したことがある」、「参加したことはないが、今後は、参加してみたいと思っている」を選択した場合、下記の7つの選択肢からあてはまるものすべてを選択。

- | | | | |
|---------------------|---------------|----------|---------|
| 1. 河川清掃 | 2. 地域の緑地・公園清掃 | 3. 自然観察会 | 4. 農業体験 |
| 5. 里山活動体験(里山整備、植樹等) | 6. 生物多様性の学習会 | | |
| 7. その他 | | | |

◇結果:市民全体、小学生全体ともに、地域の緑地・公園清掃、自然観察会への参加意欲が高い傾向にありました。年代別で見ると、20代の農業体験への参加意欲が特に高い傾向にありました。

◇戦略作成上の留意点:身近な場所の清掃や自然観察会など参加意欲の高い活動を通して、生物多様性保全への関心を高めていくことが有効と考えられます。

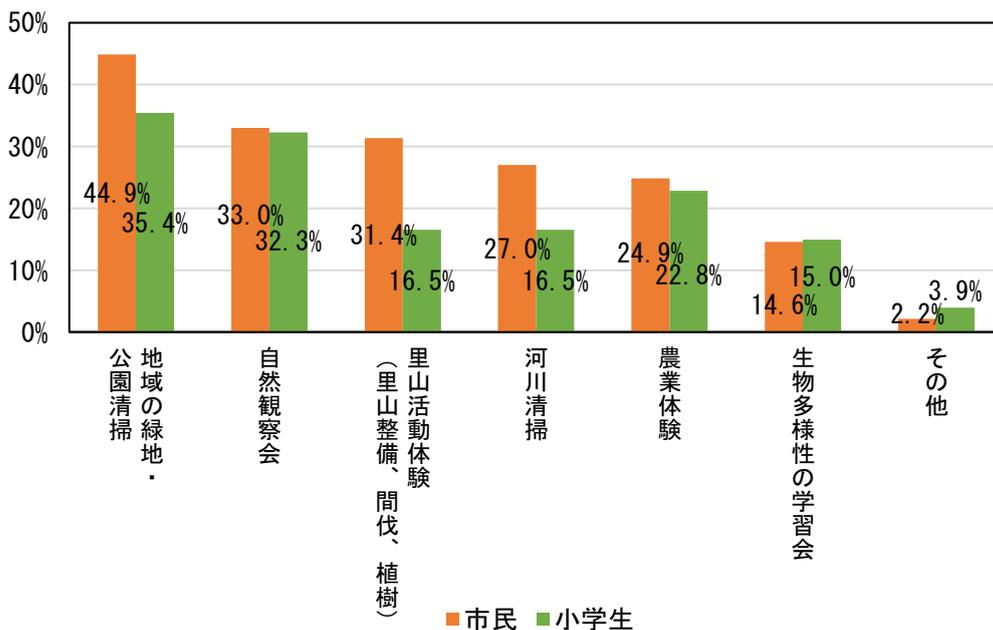


図25 参加している・参加したい活動

■設問9:参加している・参加したい活動を知った情報源 (対象:市民、小学生)

◇選択：設問7で「よく参加している」、「参加したことがある」、「参加したことはないが、今後は、参加してみたいと思っている」を選択した場合、下記の6つの選択肢からあてはまるものすべてを選択。

- | | | |
|-------------|---------------|-------------|
| 1. 広報かわにし | 2. 川西市のホームページ | 3. 川西市公式SNS |
| 4. チラシ（公民館） | 5. チラシ（学校） | |
| 6. その他 | | |

◇結果：市民全体では、ホームページから情報を入手している人が最も多い結果でした。年代別で見ると、若い世代では公式SNS、高齢の世代では広報かわにしを情報源として利用している傾向が見られました。小学生全体では、チラシやホームページから情報を入手している人が多い傾向にありました。

◇戦略作成上の留意点：ホームページや広報、SNSを中心に、多くの媒体を通して広報するとともに内容の充実を図る必要があります。また、小学生に対しては引き続き、学校を通して情報を提供していくことが必要です。

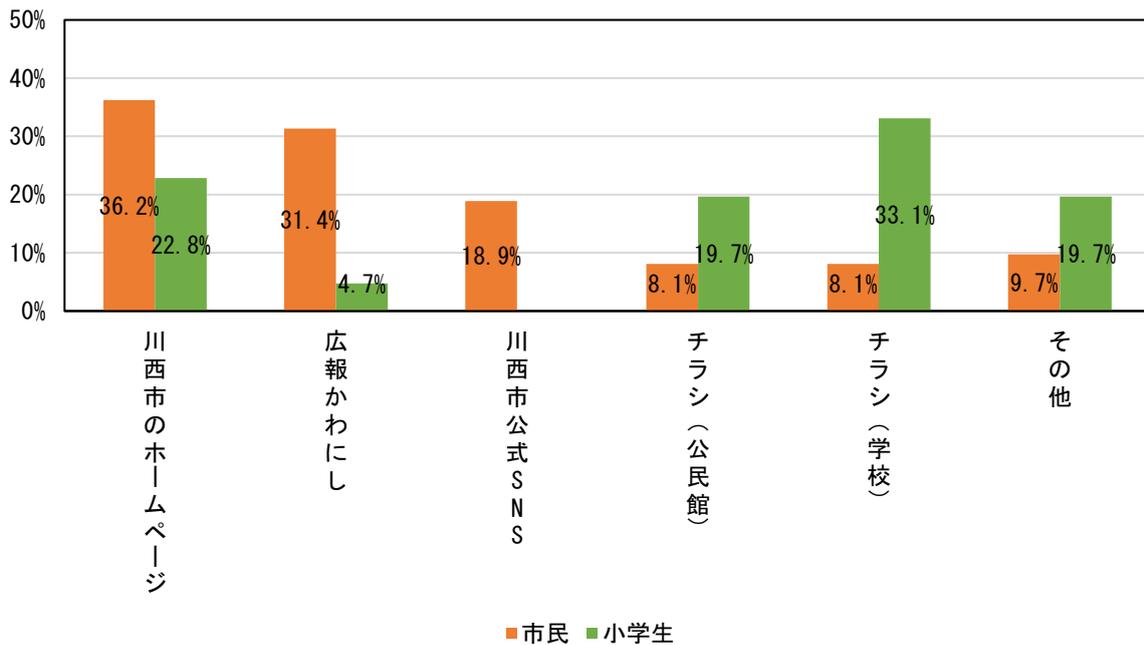


図26 参加している・参加したい活動を知った情報源

■設問10:事業者で行っている環境教育・環境学習（対象:事業者）

①環境教育・環境学習の取組状況

◇選択：「定期的に取り組んでいる」、「取り組んではいるが、不定期である」、「今は取り組んでおらず、今後も予定なし」、「今は取り組んでいないが、今後は予定あり」から1つを選択。

◇結果：定期的に取り組んでいる事業者と不定期ながら取り組んでいる事業者を合わせると約43%でした。一方で、今後も取り組む予定のない事業者が40%でした。

◇戦略作成上の留意点：事業者が環境教育などに取り組みやすくなるよう、ソフト面、ハード面の支援が必要です。

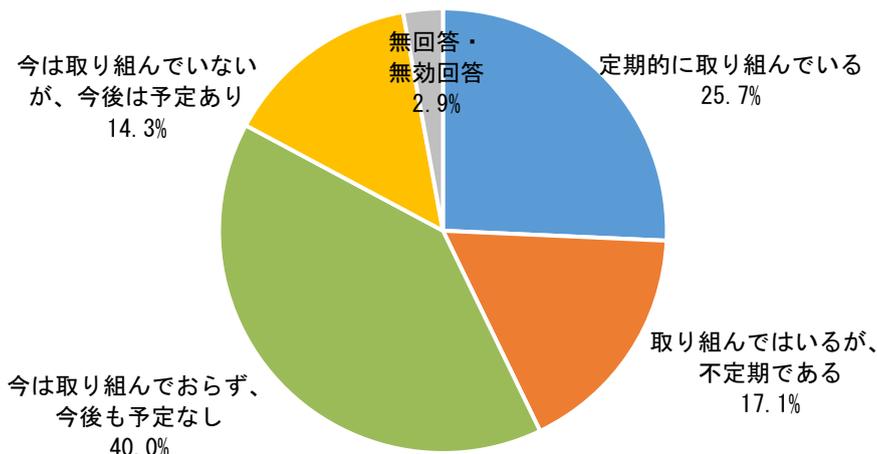


図27 環境教育・環境学習の取組み状況

②環境教育・環境学習の実施対象

◇選択：①で「定期的に取り組んでいる」、「取り組んではいるが、不定期である」を選んだ場合、下記の4つの選択肢からあてはまるものをすべて選択。

- | | |
|---------|--------------------|
| 1. 一般市民 | 2. 学生（小学校、中学校、高校等） |
| 3. 社員 | 4. その他 |

◇結果：社員を対象とした環境教育を実施している事業者がほとんどですが、一般市民や学生に対しても実施されていました。

◇戦略作成上の留意点：一般市民や学生に対する環境教育の際には、事業者と協働での実施も望めます。

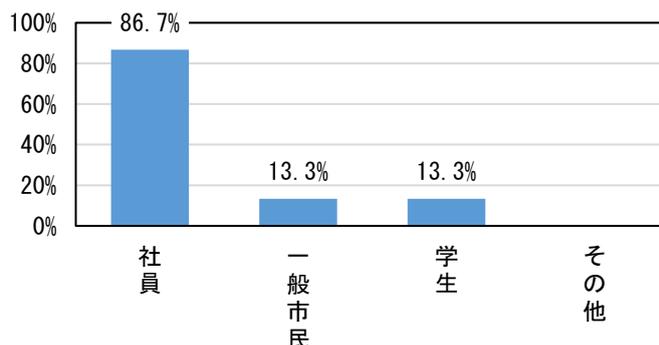


図28 環境教育・環境学習の実施対象

③環境教育・環境学習の取組み頻度

◇選択：①で「定期的に取り組んでいる」、「取り組んではいるが、不定期である」を選んだ場合、下記の6つの選択肢から1つ選択。

- | | |
|------------------|------------------|
| 1. 年1回程度 | 2. 年2～4回程度 |
| 3. 年5～7回程度 | 4. 年8～10回程度 |
| 5. 月1回程度（年12回程度） | 6. 月1回以上（年12回以上） |

◇結果：年1回程度の実施が約47%でした。

◇戦略作成上の留意点：事業者が確保できる時間と相談しながら、取組み頻度や内容を充実させていくことが望まれます。

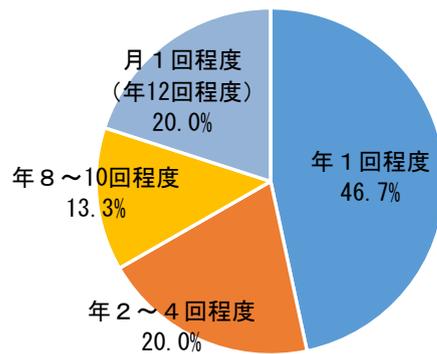


図29 環境教育・環境学習の取組み頻度

④環境教育・環境学習に取り組んでいない理由

◇選択：①で「今は取り組んでおらず、今後も予定なし」、「今は取り組んでいないが、今後は予定あり」を選んだ場合、下記の9つの選択肢からあてはまるものをすべて選択。

- | | |
|----------------|---------------|
| 1. テーマがわからない | 2. 社員のスキルが不十分 |
| 3. 取組み方法がわからない | 4. 教材が少ない |
| 5. 予算がない | 6. 時間の確保が難しい |
| 7. 研修の機会が少ない | 8. 特になし |
| 9. その他 | |

◇結果：時間の確保や取組み方法がわからないことを理由として挙げている事業者が多い傾向にありました。

◇戦略作成上の留意点：環境教育や環境学習に取り組んでいる事業者の事例を紹介するなど、情報提供が必要です。

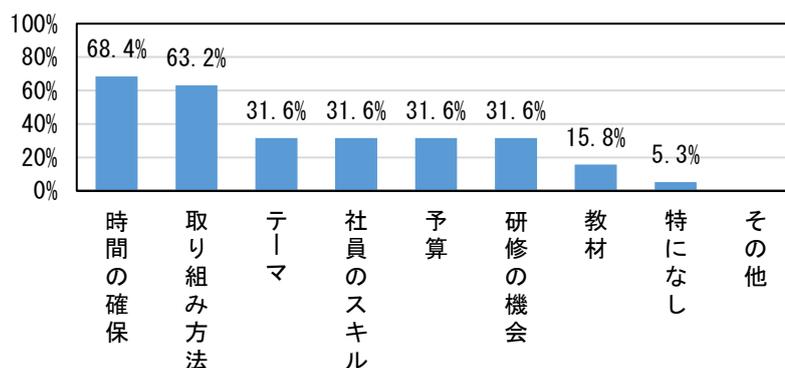


図30 環境教育・環境学習に取り組んでいない理由

⑤環境問題への取組みや環境教育を実施する上で市に手伝ってほしいこと

◇選択：下記の6つの選択肢からあてはまるものをすべて選択。

1. 専門家の派遣、紹介等
2. ノウハウを学ぶ機会の提供（出前講座、学習会の開催等）
3. 関係機関との調整、窓口
4. 補助金等の金銭的負担の軽減
5. 資機材やツールの提供
6. その他

◇結果：金銭的な負担の軽減を求める事業者が最も多い結果でした。また、ノウハウを学ぶ機会や資機材の提供も挙げられていました。

◇戦略作成上の留意点：事業者の取組みに対し支援することで、企業と連携した生物多様性に関する取組みを幅広く展開していくことが望めます。

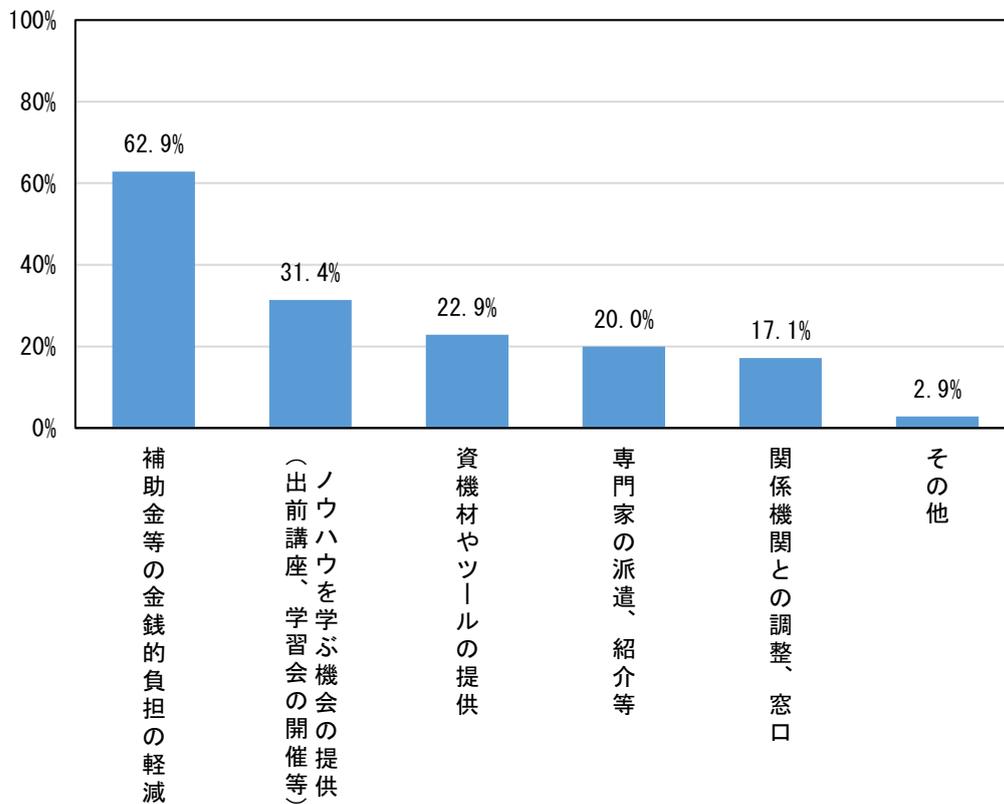


図31 環境問題への取組みや環境教育を実施する上で市に手伝ってほしいこと

■設問11:本市が行った方が良いと思う「生物多様性」保全の取組み（対象:市民、事業者）

◇選択：下記の8つの選択肢から、「3つ」を選択。

1. 希少な動植物の保護
2. 里山など身近な自然の保護
3. 害獣や外来生物による生態系の被害の防止
4. 生態系の調査やデータの集積
5. 生物多様性の保全に取り組む企業や団体の支援
6. 生物多様性の保全に関する情報の普及啓発
7. 学校や地域のイベントによる環境教育の推進
8. その他

◇結果：市民全体では、希少な動物の保護が最も多い結果でした。事業者全体では、里山など身近な自然の保護の他、環境教育の推進、害獣や外来生物による被害の防止が挙げられていました。

◇戦略作成上の留意点：希少な動植物や身近な自然の保護を行うとともに、害獣や外来生物への適切な対策を行う必要があります。また、これらの情報を市民へ提供し、生物多様性の保全に関する普及啓発につなげていくことが望まれます。

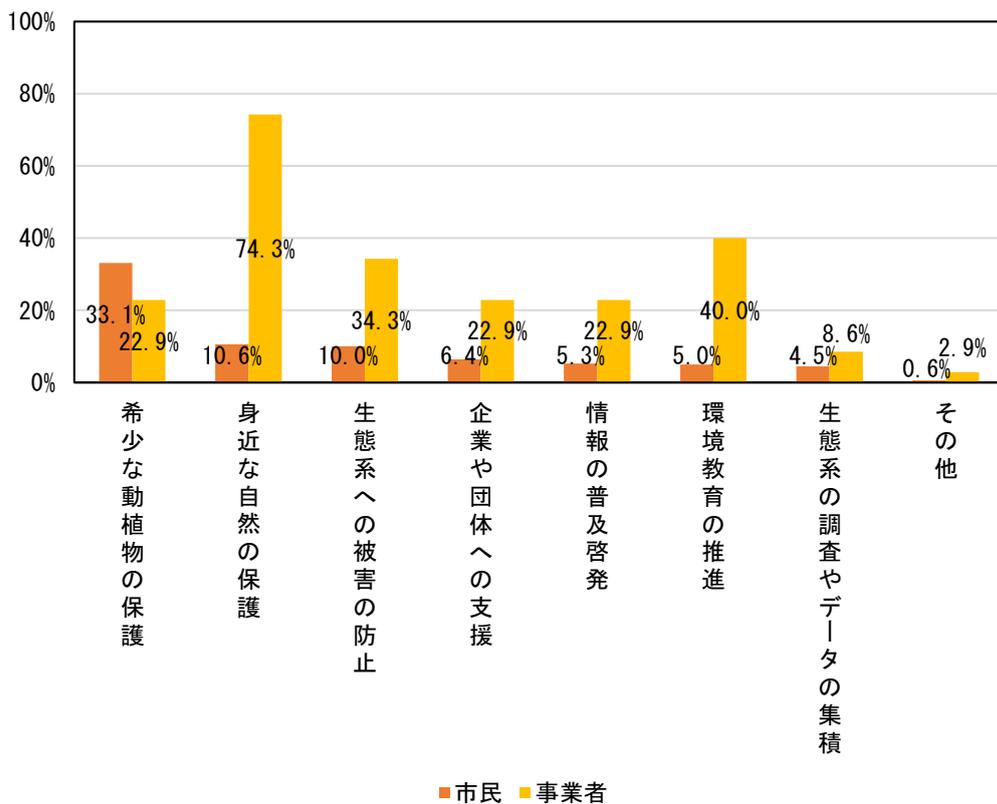


図32 本市が行った方が良いと思う「生物多様性」保全の取組み

5. 本市のエリア区分とその特徴・課題

(1)本市のエリア区分

本市が2024年4月に策定した川西市第3次環境基本計画では、山や川など地形の特性を基本とし、土地利用の状況や市街地の発展経緯など、特性の違いを踏まえ、市域を大きく次の3つに区分し、さらにエリア特性をもとに細区分して、市域を4つのエリアに区分しています。これに伴い本戦略でもエリア区分を6エリアから4エリアへ変更します（表10、図33）。

- ①北部：自然が息づき豊かな自然環境が広がる地域と、隣接する住機能が広がる地域
- ②中部：豊かな自然を背景にした住機能を中心とする地域
- ③南部：都心機能や生産機能が強く、都市的土地利用が進展している地域

表10 本市のエリア区分とその特徴

エリア	戦略第1期の地域区分	該当する地名	土地利用の特性
北エリア	北部・北地域	一庫の一部・国崎・黒川・横路・ 笹部の一部	黒川地区の里山や知明湖（一庫ダム）などの豊かな自然に恵まれ、古くからの集落が残る地域です。
中エリア	北部・南地域 中部・西地域 中部・東地域	萩原台東・萩原台西・鶯が丘・ 新田・平野・多田桜木・東多田・ 鼓が滝・矢間・矢間東町・ 西多田・錦松台・多田院・ 多田院多田所町・多田院西・ 石道・虫生・赤松・柳谷・芋生・ 若宮・緑台・向陽台・水明台・ 清和台東・清和台西・湯山台・ 鶯台・けやき坂・南野坂・ 一庫の一部・大和東・大和西・ 美山台・丸山台・見野・東畦野・ 東畦野山手・長尾町・西畦野・ 清流台・山原・緑が丘・山下町・ 笹部の一部・下財町	北部は、新名神高速道道路周辺に広がる自然緑地、山下周辺の里山景観を呈する集落地、日生ニュータウンや大和団地などから構成されている地域です。 西部は、清和台から萩原台までに至るニュータウン、周辺の自然地や集落地などから構成されている地域です。 東部は、長い歴史を持つ多田グリーンハイツなどからなる地域です。
南エリア①	南部・JR北地域	中央町・小花・小戸・美園町・ 絹延町・出在家町・丸の内町・ 滝山町・鶯の森町・萩原・火打・ 松が丘町・霞ヶ丘・日高町・ 栄町・花屋敷山手町・花屋敷・ 寺畑・栄根の一部・満願寺町	JR宝塚線の北側に位置する地域です。川西能勢口駅周辺では再開発事業、キセラ川西地区では区画整理事業が行われるなど、都市機能が集積しています。
南エリア②	南部・JR南地域	栄根の一部・南花屋敷・加茂・ 下加茂・久代・東久代・	JR宝塚線の南側に位置する地域です。住宅地、工業地、都市農地等が混在しており、一部には、大阪国際空港周辺の騒音対策区域が含まれています。

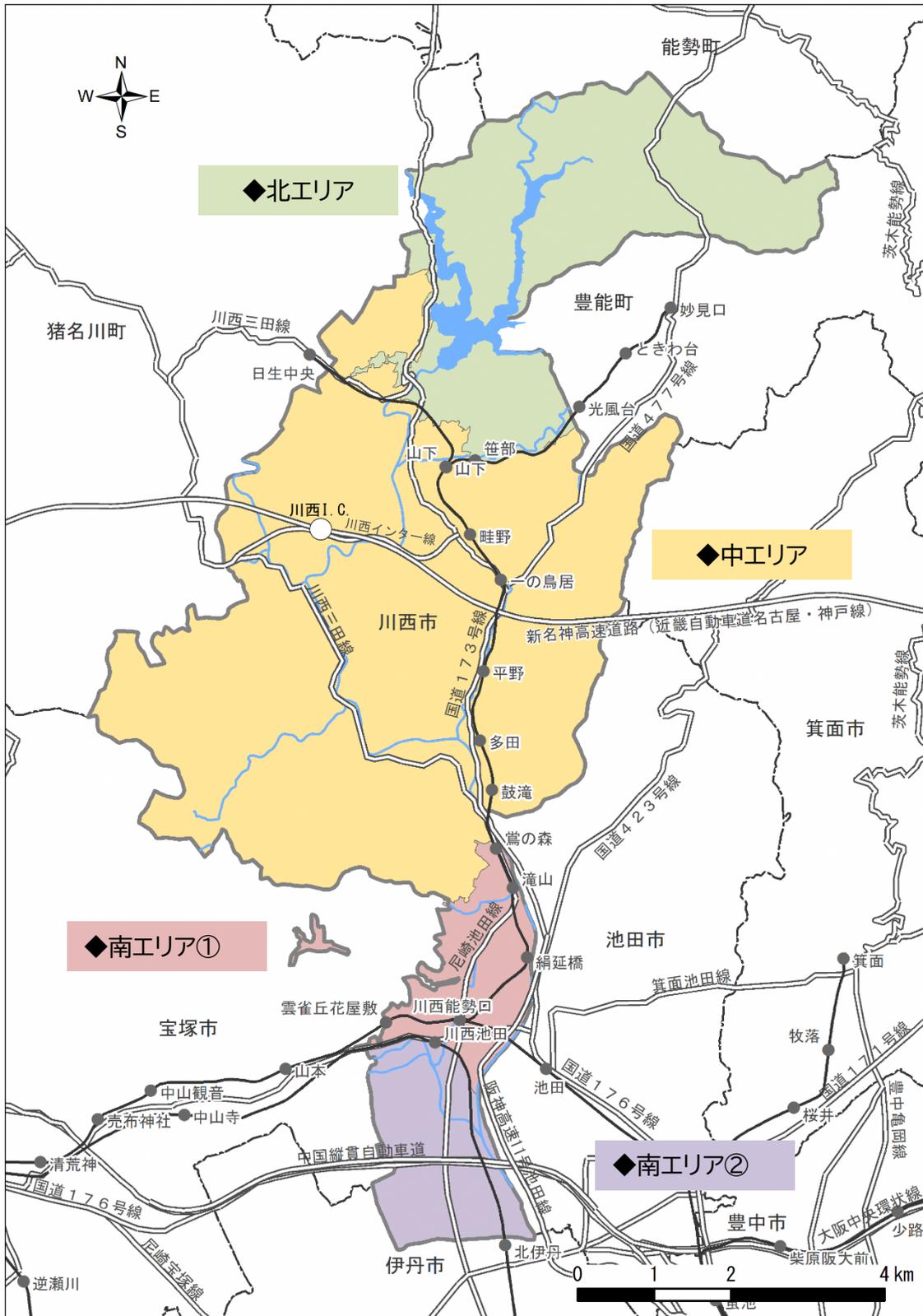


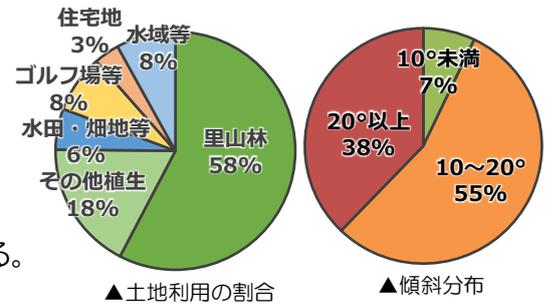
図33 本市のエリア区分

(2) エリアの特徴の分析

1) 北エリア

① 基礎情報

- ・里山林が58%と優占する。
- ・水田・畑地等は6%、住宅地は3%と少ない。
- ・ゴルフ場が8%を占めている。
- ・傾斜角20°以上の傾斜地が38%と高い割合を占める。
- ・公園は、エリア内に3ヶ所整備されている。
街区公園は、2ヶ所と少ない。広域公園である県立一庫公園がある。



② 重要な生態系・特徴的な自然

- ◇自然環境：笹部には棚田が残されている。サツキが生育する初谷川が流れる。
- ◇産業（恵み）：特産品であるクリ（銀寄）が栽培されている。

重要な生態系などの数

- 樹林(里山林): 9ヶ所^①
- 樹林(照葉樹林): 1ヶ所^②
- 湖沼: 1ヶ所^③
- 河川: 1ヶ所^④

③ 活動団体など

- ・兵庫県立一庫公園（ひとくらクラブ・ひとくら森のクラブ）
- ・国崎クリーンセンター（ゆめほたるクラブ）（森林、ヒメボタル）
- ・川西里山クラブ
- ・菊炭友の会（森林、エドヒガン、菊炭（一庫炭・池田炭））
- ・能勢妙見山ブナ守の会
- ・NPO法人ひょうご森のクラブ（森林）
- ・NPO法人北摂里山文化保存会
- ・流域ネット猪名川（清掃、外来種対策など）
- ・企業（能勢電鉄（株））（森林）（現在活動停止中）
- ・一庫ダム管理所（知明湖）

- ①黒川の山林(大土)、国崎クリーンセンター、黒川の山林(日本一の里山)、妙見山の山林、妙見山の山頂周辺、一庫の山林、国崎の山林、黒川の山林(企業の森)、妙見山の山林(ブナ個体群)
- ②平野神社
- ③知明湖
- ④笹部の初谷川

④ 市民の意識

- ・市民が残したい自然として、地元産の野菜や米が採れる農地が最も多く挙げられている。
- ・環境保全活動などへの参加意欲は、4エリアで3番目に高い。

⑤ 生物多様性保全に向けた課題

- ◇生きもの・環境の保全：日本一の里山、エドヒガン群生地、台場クヌギ、ブナ、ヒメボタル、オオムラサキの保全。
- ◇基礎情報の収集：初谷川のサツキの状況。
- ◇保全活動の維持・拡大：森林整備ボランティアの継続と拡大。
- ◇外来種・シカの脅威など：シカにより低下した林床植生の回復、ナラ枯れ拡大防止のための監視、外来動物による農作被害対策、知明湖における外来魚駆除。
- ◇自然活動団体との連携：各種企業の森参画事業や公園でのエコアップ（ビオトープづくりや在来植物の植栽など）。
- ◇広報：人の営みによる菊炭（一庫炭・池田炭）、台場クヌギ、日本一の里山というつながりの啓発など。

シンボリックな生きものなど

- ・日本一の里山
- ・台場クヌギ・エドヒガン・ブナ
- ・ヒメボタル・ゲンジボタル
- ・初谷川のサツキ
- ・社寺林
- ・知明湖
- ・菊炭(一庫炭・池田炭)
- ・クリ(銀寄)



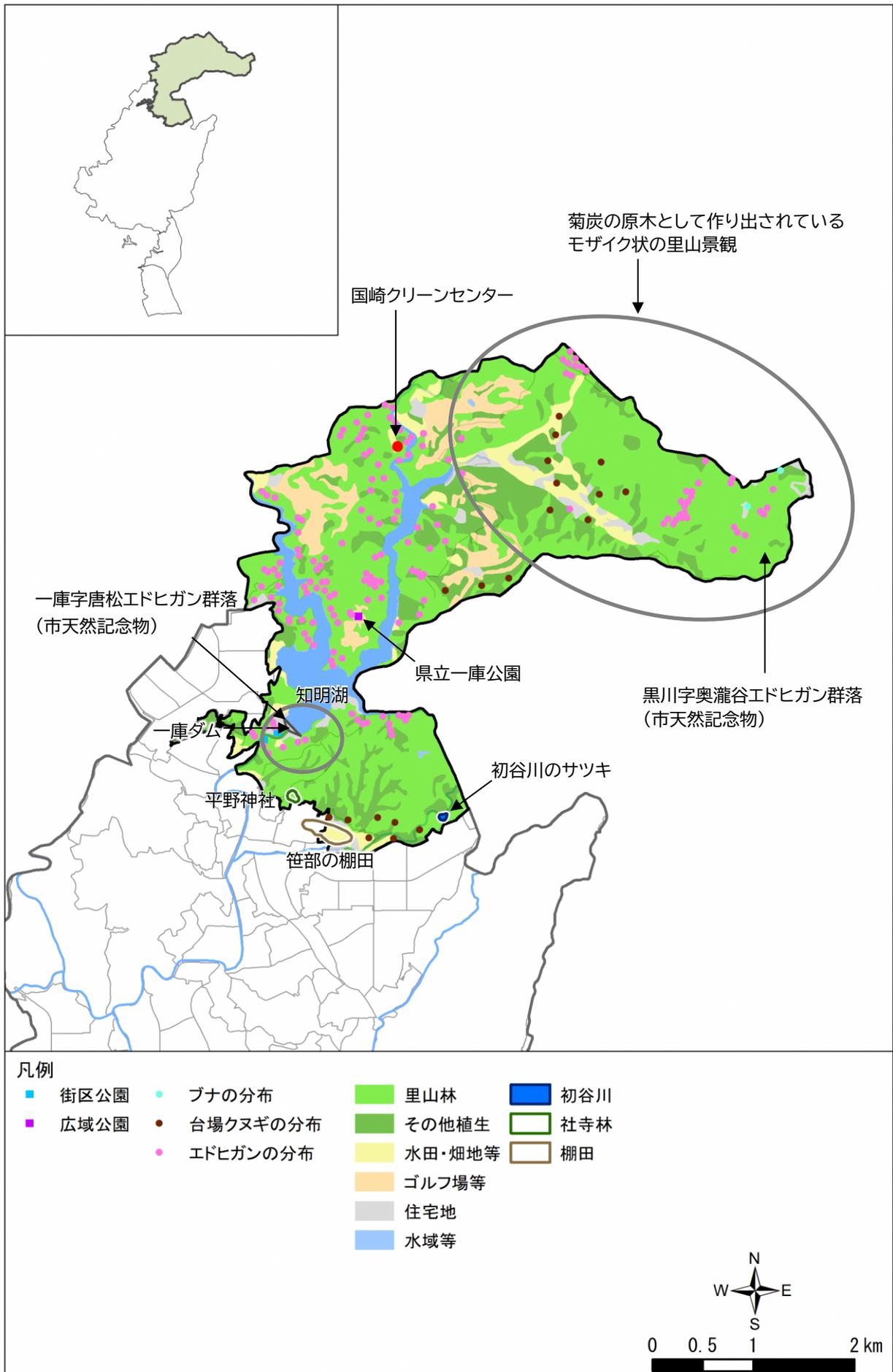
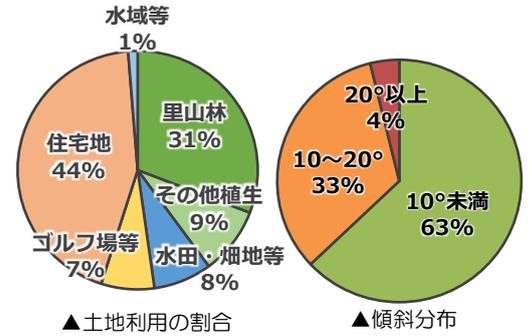


図34 北エリアマップ

2)中エリア

①基礎情報

- 住宅地が44%と優占する。
- 水田・畑地等は8%と少ない。
- 傾斜角20°以下の緩傾斜地が96%と高い割合を占める。
- 公園は、エリア内に218ヶ所整備されている。
 街区公園は191ヶ所、児童遊園地は8ヶ所ある。
 近隣公園は、平木谷池公園、水明台第5公園、けやき坂中央公園など7ヶ所がある。
 地区公園（カントリーパーク）である深山池公園がある。
 都市緑地は、素盞鳴公園、平野宮山公園（多太神社）、せせらぎの道など11ヶ所がある。



②重要な生態系・特徴的な自然

◇自然環境

- 猪名川渓谷があり、清和台付近などにエドヒガンが群生する場所がある。水明台1丁目のエドヒガン群落は市天然記念物に指定されている。
- 虫生の森（清和台東3丁目コナラ群落）が市天然記念物に指定されている。
- サツキが生育する初谷川が流れる。
- 清和台付近の残存林は、シカの食害が少なく、種多様性の高い里山林（まち山）である。
- 多太神社の社寺林や鼓が滝がある。
- 笹部や赤松地区には棚田が残されている。

重要な生態系などの数

樹林(里山林):3ヶ所^①
 樹林(照葉樹林):1ヶ所^②
 河川:2ヶ所^③
 水田:2ヶ所^④

①猪名川渓谷、多太神社、清和台の山林
 ②多太神社
 ③猪名川渓谷、鼓が滝の猪名川
 ④笹部の棚田、赤松の棚田

- #### ◇産業（恵み）：特産品であるクリ（銀寄）や特産品であるイチジク（柘井ドーフィン）が栽培されている。若宮地区では、正月の門松の材料とするクマザサの栽培、出荷が行われている。

③活動団体など

- 大和フォレストクラブ（ナラガシワ・山野草植物、オオムラサキ）
- 溪のサクラを守る会（エドヒガン）
- 流域ネット猪名川（清掃、外来植物対策など）
- 東多田里山の会
- 虫生川周辺の自然を守る会（森林、植物、昆虫）

シンボリックな生きものなど

- 台場クヌギ
- エドヒガン
- クリ(銀寄)
- イチジク
- ゲンジボタル
- 棚田
- 社寺林
- 鼓が滝
- 種多様性の高いまち山



④市民の意識

- 市民が残したい自然として、水がきれいで生きもの豊かな水辺が最も多く挙げられている。
- 環境保全活動などへの参加意欲は、4エリアで2番目に高い。

⑤生物多様性保全に向けた課題

- ◇生きもの・環境の保全：台場クヌギの保全、エドヒガン群生地（マツノ）の保全、社寺林の保全、種多様性の高い里山林（まち山）の保全、鼓が滝の保全、笹部の棚田の保全、赤松の棚田の保全。
- ◇基礎情報の収集：初谷川のサツキの状況、残存森林（まち山）の生物多様性、ゴルフ場の生物多様性（草原性の生物）。
- ◇保全活動の維持・拡大：社寺林、エドヒガンの保全ボランティア活動の継続・拡大、残存林保全の継続と拡大、棚田保全の継続と拡大。
- ◇外来種・シカの脅威など：外来動物による農作物被害対策。外来植物対策。
- ◇自然活動団体との連携：公園、居住地のエコアップ（ビオトープ・レフュージア[※]・混ぜ垣など）。
- ◇広報：エドヒガンや社寺林などの情報発信、棚田や残存林などの情報発信。

※レフュージア：生態学の用語で避難場所、退避場所を指します。本市の生物多様性を守るために、人の管理が行き届く公園などを、貴重な植物などの避難、退避場所として利用することです。

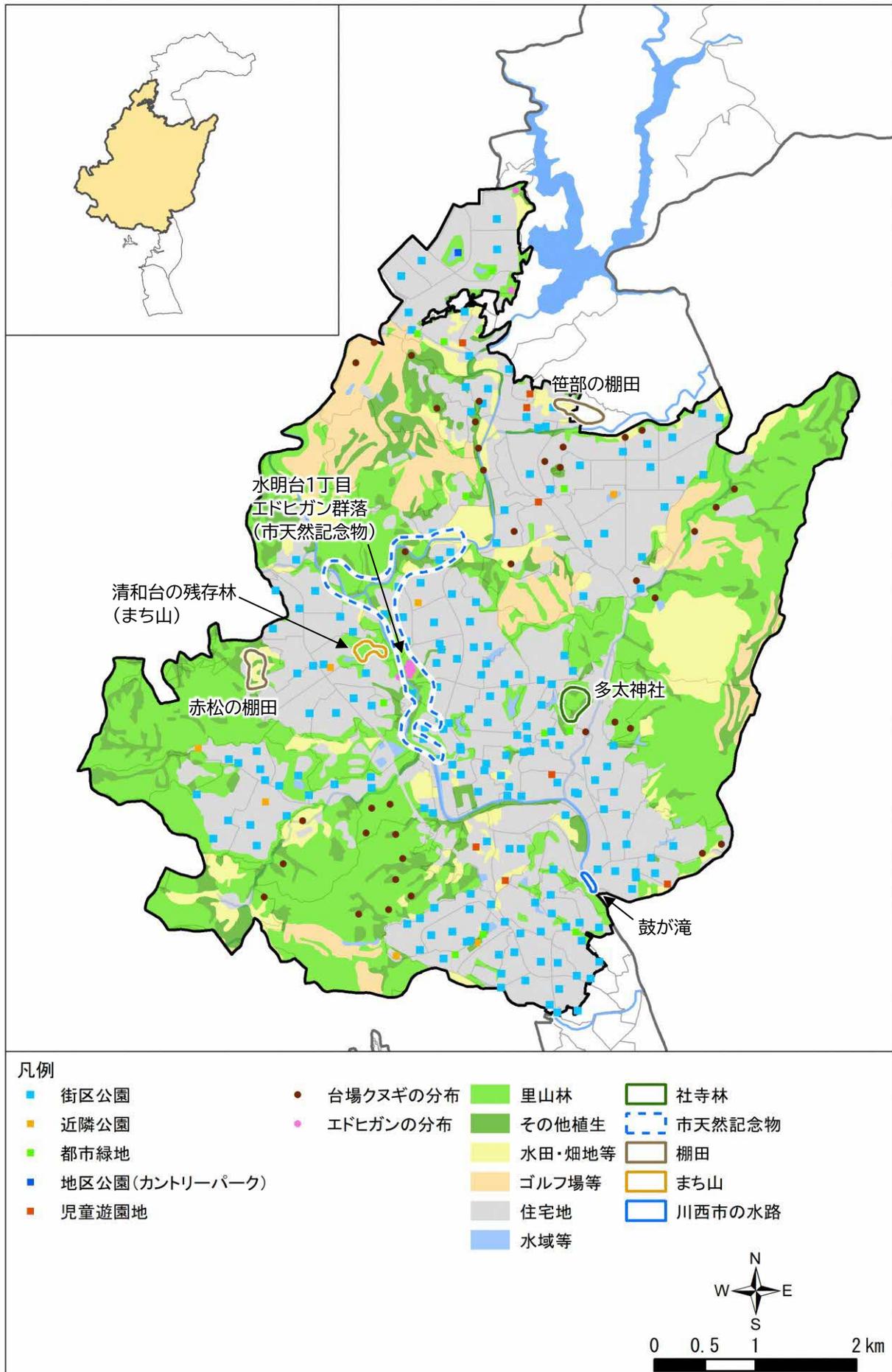
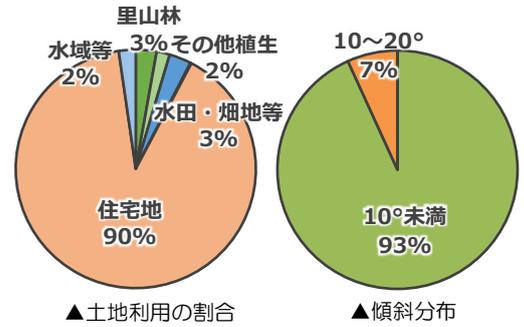


図35 中エリアマップ

3)南エリア①

①基礎情報

- 住宅地が90%を占める。
- 里山林、水田・畑地等は3%とごくわずかである。
- 傾斜角10°未満の土地が93%を占めている。
- 公園は、エリア内に46ヶ所整備されている。
 街区公園は30ヶ所、児童遊園地は10ヶ所ある。
 近隣公園として、キセラ川西せせらぎ公園、ドラゴンランドがある。
 都市緑地は、寺畑2丁目公園など3ヶ所がある。



重要な生態系などの数

樹林(照葉樹林):2ヶ所^①
 水路:1ヶ所^②
 河川:1ヶ所^③

①八坂神社、小戸神社
 ②市街地の水路
 ③猪名川の河川敷

②重要な生態系・特徴的な自然

◇自然環境

- 社寺林として、八坂神社、小戸神社などがある。
- 川西北小学校前を流れる水路には、貴重な魚類などが確認されている。
- 猪名川の河川敷には、河川本来の植生が発達するとともに多様な生きものが生息している。また、人と自然のふれあいの場として利用されている。

◇産業(恵み)：特産品であるイチジク(柘井ドーフィン)が栽培されている。

③活動団体など

- 身近な自然とまちを考える会(水路の生きものの保全など)
- 国土交通省猪名川河川事務所
- 流域ネット猪名川(清掃、外来植物対策、オギ原(在来種)の保全など)

④市民の意識

- 市民が残したい自然として、水がきれい生きもの豊かな水辺が最も多く挙げられている。
- 環境保全活動などへの参加率は、4エリアで最も高い。

シンボリックな生きものなど

- 社寺林
- 市街地水路
- 猪名川河川敷
- モモ
- イチジク



⑤生物多様性保全に向けた課題

- ◇生きもの・環境の保全：市街地水路の保全、社寺林の保全、猪名川河川敷の保全。
- ◇基礎情報の収集：特になし。
- ◇保全活動の維持・拡大：社寺林や水路保全のボランティア活動の継続・拡大。
- ◇外来種・シカの脅威など：猪名川河川敷の外来植物対策。
- ◇自然活動団体との連携：国土交通省猪名川河川事務所、公園、企業敷地のエコアップ(ビオトープ・レフュージア)。
- ◇広報：社寺林、市街地水路保全活動などの情報発信。

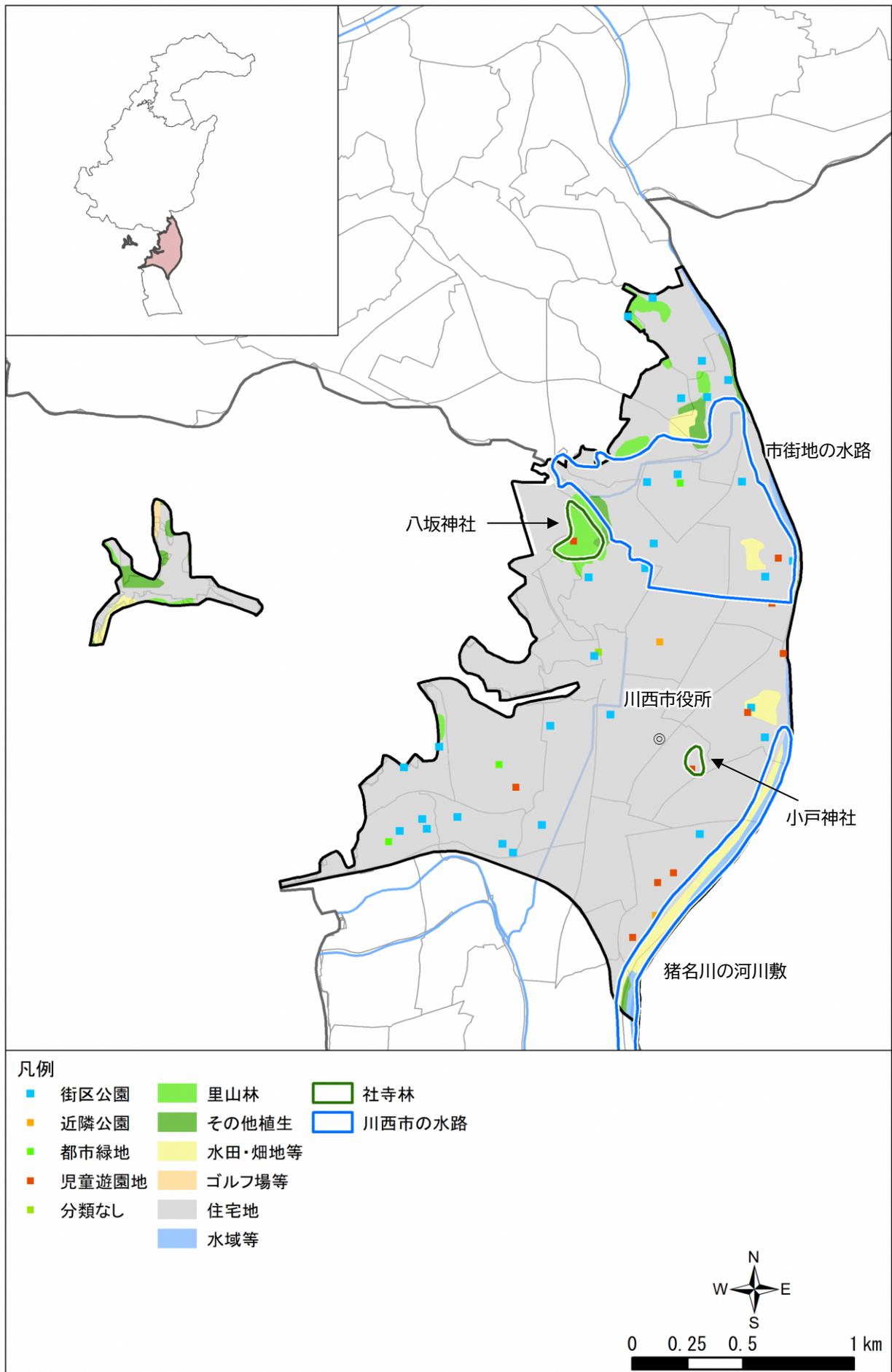
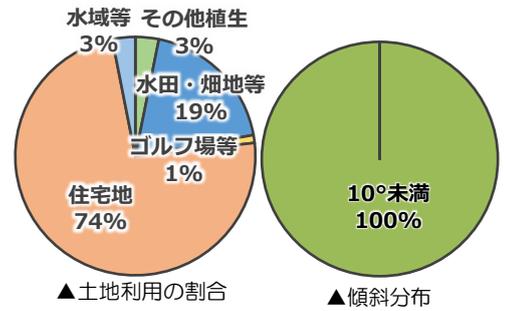


図36 南エリア①マップ

4)南エリア②

①基礎情報

- ・住宅地が74%を占める。
- ・イチジク畑を中心とした水田・畑地等が19%を占める。
- ・傾斜角10°未満の土地が100%を占めている。
- ・公園は、エリア内に40ヶ所整備されている。
街区公園は23ヶ所、児童遊園地は11ヶ所ある。
地区公園として、県立西猪名公園、総合公園として、東久代公園がある。
- ・都市緑地として、久代2丁目緑地と加茂1丁目公園がある。
- ・緑道として、南山緑道がある。



②重要な生態系・特徴的な自然

◇自然環境

- ・加茂の段丘崖にはエノキやムクノキが優占する林が残されており、ヒメボタルが確認されている。
- ・社寺林として、鴨神社などがある。
- ・猪名川の河川敷には、河川本来の植生が発達するとともに多様な生きものが生息しており、人と自然のふれあいの場として利用されている。

◇産業（恵み）：特産品である早生モモや特産品であるイチジク（榊井ドーフィン）が栽培されている。

重要な生態系などの数

樹林(里山林):1ヶ所^①
樹林(照葉樹林):1ヶ所^②
河川:1ヶ所^③

①加茂の段丘崖
②鴨神社
③猪名川の河川敷

③活動団体など

- ・国土交通省猪名川河川事務所
- ・川西自然教室（ヒメボタル）
- ・流域ネット猪名川（清掃、外来植物対策、オギ原（在来種）の保全など）
- ・NPO法人野生生物を調査研究する会

シンボリックな生きものなど

- ・段丘崖
- ・ヒメボタル
- ・ゲンジボタル
- ・社寺林
- ・猪名川河川敷
- ・モモ
- ・イチジク



④市民の意識

- ・市民が残したい自然として、イチジク、クリ、モモなど特産品がつくられている果樹園が最も多く挙げられている。
- ・環境保全活動などへの参加率は、4エリアで最も低い。

⑤生物多様性保全に向けた課題

- ◇生きもの・環境の保全：市街地水路の保全、社寺林の保全、猪名川河川敷の保全。
- ◇基礎情報の収集：特になし。
- ◇保全活動の維持・拡大：社寺林や水路保全のボランティア活動の継続・拡大。
- ◇外来種・シカの脅威など：猪名川河川敷の外来植物対策。
- ◇自然活動団体との連携：河川敷の清掃、公園、企業敷地のエコアップ（ビオトープ・レフュージア）。
- ◇広報：社寺林、市街地水路保全活動などの情報発信。

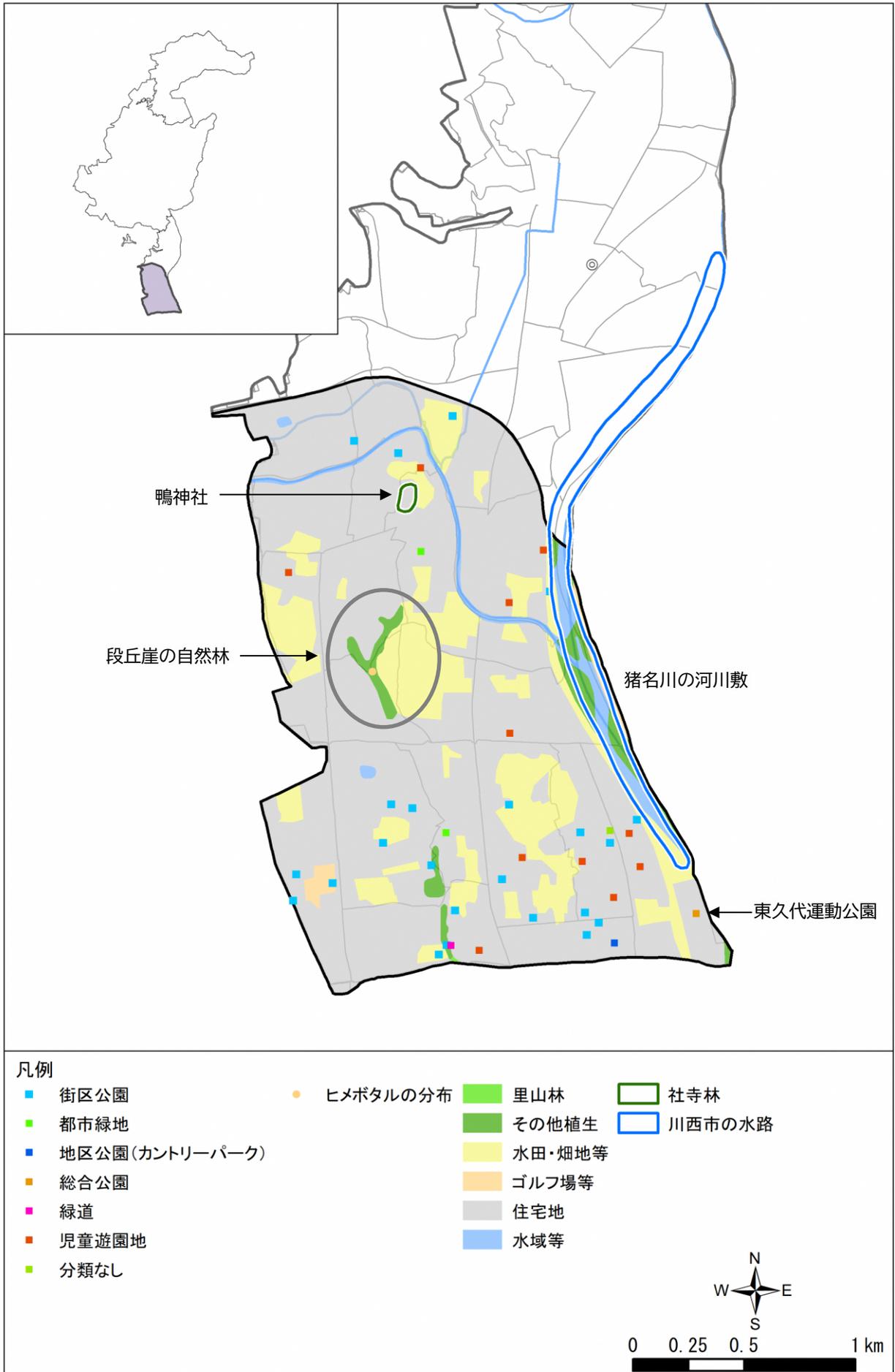


図37 南エリア②マップ

(3)課題のまとめ

1)本市における4つの生物多様性の危機に対する課題

①第一の危機に関連する課題(直接的な影響)

新名神高速道路開通により、周辺の土地利用に伴う一部の里山の分断や改変、過去に造成されたニュータウンや市街地での環境保全や環境改善などが課題となります。特に、市街地では残された自然環境が少ないため、生物が生息できる空間そのものがありません。そのため、市民、事業者でもできる、市街地での生物多様性を向上(エコアップ)させるための方法の検討が必要となります。

②第二の危機に関連する課題(人の働きかけの減少)

本課題では、日本一の里山、社寺林、棚田、市街地の水路などの生態系の保全、エドヒガン、ブナ、ヒメボタル、コウモリ類などの種の保全及びシカの食害とナラ枯れの軽減など、多くの要素が対象となります。特に北部の黒川周辺の日本一の里山を守っていくためには、現在、多くのスキルを持ったボランティアが活動しているものの、対象とする面積が広大であるために参画者の拡大が必要となります。里山整備などの過程で出る木質バイオマスをエネルギーとして活用することで「里山地域循環共生圏」の実現にも寄与することが期待されます。さらに、シカの食害という新たな脅威への対応が求められます。なお、市街地に住む市民の里山整備の参画意識は高いので、活動に参画できるような情報発信や協働のしくみが必要となります。

③第三の危機に関連する課題(外来種などの影響)

湖沼でのブラックバス、猪名川河川敷のアレチウリのほか、農作物に被害を与えるアライグマやヌートリアが問題となっています。また、クビアカツヤカミキリによるサクラやモモへの被害が懸念されるなど、本市の生態系を変えてしまうような脅威が迫っています。外来種対策は早期発見、早期対策が必要であり、被害が拡大する前からの行動が重要となります。そのため、多くの人の目、人の手が必要となるので、市民への周知及び対策への参画が期待されます。

④第四の危機(地球温暖化の影響)及び情報発信などに関する課題

地球温暖化による生態系への影響が顕著となっています。そのため、地球温暖化の問題を含め、生物多様性に関する情報及び各地域での特徴的な自然環境などを、市民などに広報し理解、認識してもらうために、情報を発信する必要があります。また、本市としての取組みをシンボリックに示したり、見てもらえたりすることができればPR効果は高まるものと考えられます。

2)本市の生物多様性に関する認識と情報の不足

アンケート結果から、市民における「生物多様性」の言葉や意味の認知度は高い一方で、本戦略やその内容の認知度が低いことが明らかとなりました。また、認知度の高さに対し、実施率が低いことも明らかとなりました。さらに、本市における生物多様性の現状や守るべき自然の詳細な情報が不足していることも課題です。特に、種の多様性が非常に高いニュータウンに残された残存林の「まち山」は、本市の生物多様性を守る上で、重要な場所となる可能性があります。

そのため、市は本戦略や生物多様性に関する情報の広報を市民に対して行うことが必要です。また、その情報のもととなる重要な生きものの生育、生息状況や構成種、生物多様性の高いまち山の分布状況などについて把握するとともに、保全活動等への参加のハードルを下げの方策に取り組む必要があります。

第3章

本戦略がめざすもの

1. 生物多様性保全の基本理念とめざすべき本市の将来像

2023年3月に閣議決定された「生物多様性国家戦略 2023-2030」には、生物多様性によって支えられる自然共生社会を実現するための戦略の理念として「自然のしくみを基礎とする真に豊かな社会をつくる」が掲げられています。また、持続可能な社会を構築するためには、自然が安定し、変化に対するしなやかさを保ち、将来にわたりその恵みを受けることができるよう、共生と循環に基づく自然の理に則った行動を選択することが重要であるとされています。本戦略でもこれを基本理念とし、めざすべき本市の将来像を次のとおり設定します。

◆基本理念

生物多様性国家戦略の理念

自然資本※を次の世代に受け継ぐべき資産としてとらえ、その価値を的確に認識して、自然資本を守り持続可能に活用する社会に変革していくことが必要です。これらを通じて、自然の仕組みを基礎とする真に豊かな社会を構築する必要があります。

※自然資本：動植物、水、土壌、大気など、私たちの生活や経済活動に欠かせない自然の資源のことです。



◆めざすべき本市の将来像

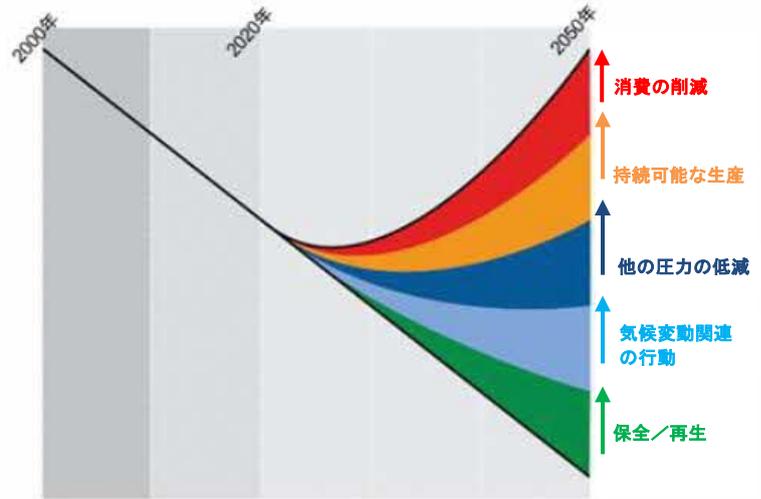
一人ひとりが川西市のすばらしい自然を誇りに思い、それらを守り共生するまち

本市に関係するすべての人が生物多様性の必要性を理解し、本市の自然の魅力や重要性について「ふるさと川西」として誇りを持つことで、生物多様性の保全に向けた行動をおこし、自然と共生するまち・川西市を目指します。

2. 目標の設定

2023年3月に閣議決定された「生物多様性国家戦略 2023-2030」では、「『2050年までに、生物多様性が評価され、保全され、回復され、賢明に利用され、生態系サービスが維持され、健全な地球が維持され、全ての人々にとって不可欠な利益がもたらされる』自然と共生する社会」を実現することを中長期目標としています。また、短期目標として、「2030年までに、『ネイチャーポジティブ：自然再興』を実現する」ことを掲げています。

そのため、本市においても、まずは生物多様性の状況を知り、行動を始め、その損失を止め、その後の回復、向上をめざす必要があります。このような状況を踏まえ、本戦略では期間ごとに区分した3つの目標を掲げます。



出典)Global Biodiversity Outlook 5 (Secretariat of the Convention on Biological Diversity, 2020)

図38 生物多様性の損失を減らし、回復させる行動の組み合わせ

「生物多様性ふるさと川西戦略」の目標	
<p>■短期目標(3年目まで):生物多様性の理解と行動の開始</p> <p>本市に関わるすべての人や団体が、本市の自然のすばらしさと生物多様性の重要性を理解することでライフスタイルを見直し、それぞれができることから行動を始められるようにします。これにより、生物多様性の悪化を止めることを目指します。</p>	
<p>■中期目標(3～8年間):生物多様性保全意識の向上と行動の継続</p> <p>市民や団体、事業者などの生物多様性の保全に対する意識が高まることで、それぞれの行動が活発になります。さらに、市の指導、規制の充実を行います。これにより、生物多様性を回復させることを目指します。</p>	
<p>■長期目標(8～18年間):主体間の連携、拡大による自然と共生するまちづくり</p> <p>市民や団体、事業者、市が連携することで行動が拡大し、自然と共生する川西市の実現に進みます。これにより、生物多様性のさらなる向上を目指します。</p>	

3. 「生物多様性ふるさと川西戦略」の設定－ふるさと川西市民戦略と4つの基本戦略－

設定した目標を達成させ、将来象を実現するための「生物多様性ふるさと川西戦略」として、市民や事業者がすぐに実践できる「ふるさと川西市民戦略」と、川西市が主体となる4つの「基本戦略」を設定します。

(1) 「ふるさと川西市民戦略」

本市の生物多様性の悪化を抑制するのは待ったなしの状況です。そこで、市民、団体、事業者をターゲットに、本市の自然や生物多様性のことを意識し、ライフスタイルを見つめ直すことですぐに実行できる行動を提言します。

(2) 4つの基本戦略

基本戦略1: 環境教育の充実による「ふるさと川西」意識の醸成及び生物多様性教育

本市に愛着を持ち、自然の保全に参画する意識を育むためには、子どもときからの継続的な環境学習及び生涯教育の体系化が必要です。そこで、長期的な展望にたち、幼稚園、小学校、中学校から継続的な環境教育を進め、ふるさとである本市を誇りと思えるよう意識の醸成を図ります。また子どもたちに教える大人（教員）に対する研修の実施や市の生涯教育を行い、本市の自然を十分に理解し積極的に子どもたちに教えることのできる指導者を育成するための施策を実施します。



基本戦略2: 自然に関する情報発信による生物多様性保全の普及・啓発

本市の生物多様性を保全するには、市民や事業者などの参画が不可欠です。しかしながら、生物多様性に対する市民の認識度はまだまだ低く、市民に生物多様性について十分に理解してもらう必要があります。そこで短～中期的な展望のもと、生物多様性の意味や重要性を普及啓発するために、いろいろな媒体や機会を活用し本市の生物多様性や自然環境に関する情報を発信するための施策を実施します。



基本戦略3: 生物多様性保全の取組みの強化

本市の自然、生物多様性を守るためには、第一に今ある良好な自然などを守っていかねばなりません。そこでこれまで進めている環境保全施策の継続や法令などにより保全の取組みと強化を図っていきます。さらに、市民や事業者による行動、参画を促進するため、市民レベルで実践できる取組み方法などを紹介する施策を実施します。



基本戦略4: 各主体の連携による生物多様性保全活動の継続と拡大

望ましい本市の将来像を実現するためには、市民や事業者そして市の役割を明確にし、それぞれが連携、協働しながら生物多様性の保全活動が行われることが不可欠です。そのために、各主体の連携を充実させるために、交流、情報交換ができる場や機会を設け、活動の参画や拡大を補助する施策を実施します。

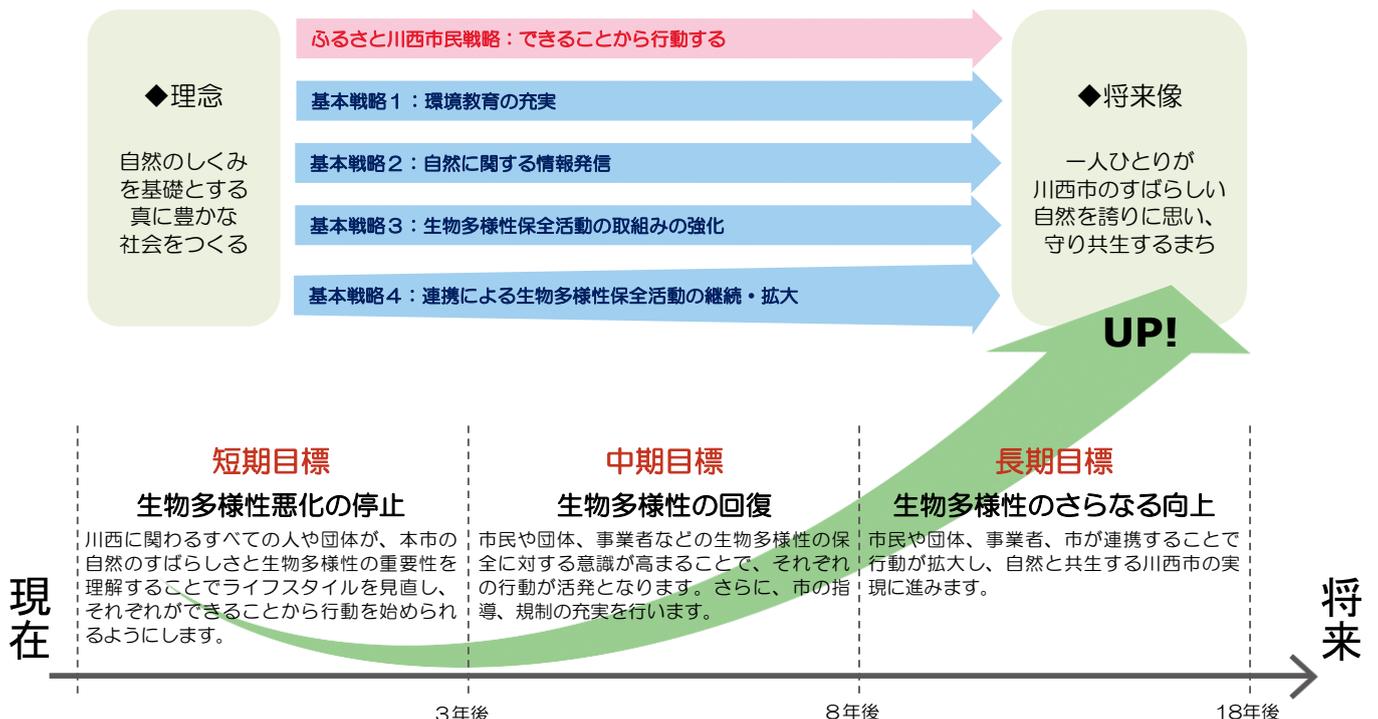


図39 「生物多様性ふるさと川西戦略」の概要

第4章 行動計画

1. 「ふるさと川西市民戦略」－ライフスタイルを見つめ直してできることから行動を－

基本戦略に基づく本市の具体的な施策を述べる前に、まずは市民、市民団体、事業者等誰もがすぐに始められる行動について提案します。これまでのライフスタイル、ワークスタイルを見つめ直し、本市の生物多様性のことを少し考えて日常を過ごすことで、将来にわたり生物多様性が確保され、自然と共生できる川西市になっていくはずですよ。

(1)本市の自然・文化に触れる

本市の自然、生物多様性を意識する、そして知るためには、まずは地域の自然や文化に触れることです。日々の通勤や通学、散歩などのときに見る風景や自然を観察する、地域のことを紹介しているパンフレットや新聞記事に留意することが生物多様性の重要性を知り、行動をおこすための第一歩になると考えます。



(2)自然観察会等のイベントに参加する

本市には多くの自然活動団体があり、季節ごとに色々なイベントを開催しています。イベントに参加することで本市の自然を身近に感じることができます。

(3)日常にできる行動

1)ごみ出しなど生活のルールを守る

不適切に生ごみなどを出すと、アライグマ（外来種）やイノシシなどの動物がやってくる原因となります。また、カラスやネコなどが荒らすようになり、生態系や景観に悪影響を与えてしまう可能性があります。このようなことがおこらないよう、生活のルールを守る必要があります。

市民、事業者が積極的に意識し、行動できることです。



2)外来種などの拡大を防止する

アライグマやアメリカザリガニ、オオキンケイギクなどの外来種は、当初はペットや園芸用に持ち込まれたものです。その後、飼えなくなって逃がしたり、種子が飛散して生息域が拡大したりすることが問題となっています。それを防止するためには、まずは正しい情報を知ること、そしてむやみに飼わない、捨てない（逃がさない）、広げないの3原則を守る必要があります。なお、これらは外来種だけではなく、例えばメダカやホタルなど本市から遠く離れた地域から持ち込まれたり、購入した在来の動植物に対しても同じであり、遺伝子の多様性の保全からむやみに自然の中に逃がしたりしてはいけません。



また、ヒアリ、アカカミアリ、アルゼンチンアリは攻撃的で人体や生態系への影響が懸念されています。

クビアカツヤカミキリはバラ科のモモやサクランボなどの樹木を枯らしてしまう特定外来生物です。繁殖力が非常に強いため、早期の対応が重要です。万が一、成虫やフラス（食べた木くずと糞が混じったもの）を見つけた場合は速やかに兵庫県環境部 自然環境課または川西市環境政策課までご連絡ください。



クビアカツヤカミキリ
(写真提供:兵庫県)

アカミミガメとアメリカザリガニは、2023年6月1日より「条件付特定外来生物」に指定されました。ポイントは次の3点です。

- 1 規制開始後も、一般家庭でペットとして飼育しているアカミミガメ・アメリカザリガニは、これまで通り飼うことができます。
- 2 アカミミガメ、アメリカザリガニを野外に放したり、逃がしたりすることは法律で禁止されています。
- 3 飼い続けることができなくなった場合は、友人・知人、個体の新しい飼い主探しをしている団体等に譲渡してください。

詳しくは、環境省ホームページをご覧ください。
市民一人ひとりが注意し、実行できることです。



アメリカザリガニ
(写真提供:環境省)



ミシシッピアカミミガメ
(写真提供:環境省)

ポイント

- 1 クビアカツヤカミキリを見つけた場合は、兵庫県環境部自然環境課または川西市環境政策課までご連絡ください。
- 2 アメリカザリガニ、アカミミガメの取扱いについては環境省ホームページをご覧ください。

3)地域の農産物・特産品を消費する

クリ、モモ、イチジク、菊炭をはじめ、地域の農産物であることを意識し、消費するようにします。これらの需要が増えることで、農地での生産が確保され、畦、水田、畑など豊かな農村の環境が管理、維持され、生物多様性が確保されます。

市民、事業者など、誰もが取り組める行動です。



4)身近なエコアップ

自宅の庭やベランダ、工場の敷地などで樹木や草花を植えるとき、チョウや鳥が訪れる種なども意識して植えるようにします。また、生垣を作る際に一種類の本で作るのではなく、複数の樹種を混ぜる「混ぜ垣」を作るのも良いです。このような場所が増えることで、チョウのネットワークができます。特に自然の少ない市街地などでは効果がある行動です。

市民、事業者など、誰もが取り組める行動です。



5)情報を発信、共有する

本市では、日本一の里山やヒメボタル、エドヒガンの保全など市民団体、ボランティアなどの団体が積極的に活動しています。また、企業や公共の公園などでも自然環境や生物多様性保全の取組みがなされています。これらの団体や事業者が情報を発信し、市民などへPRするとともに、横断的な交流を深めることで、活動の拡大、充実が期待できます。本市や兵庫県などが開催するイベントなどに参加し、活動の情報発信や他団体などとの交流を深めることが大切です。

ボランティア団体、事業者などが積極的に取り組める行動です。



6)ビオトープ整備における情報収集や学習

工場などにビオトープを作るとき、しっかりと知識または指導者がいないと、逆効果になってしまうこともあります。例えば、生きものを導入するとき、在来種でも遠く離れた地域の種が持ち込まれたりしないよう、最新の情報などをよく理解し、情報の収集や学習をしておく必要があります。特に事業者などが留意し、行動することが求められます。

2. 基本戦略に基づく行動計画

(1) 環境教育の充実による「ふるさと川西」意識の醸成及び生物多様性教育(基本戦略1)

1) 児童・生徒を対象とした環境教育の実施

① 施策名称【就学前園児の環境教育方針】・担当部署【教育推進部】

国の定める3法令や市規定の全体的な計画などに基づいて、各園所で計画を立てて、園所内の自然環境を生かした取り組みや県や市の企画に参加したりして環境保育に努めていきます。

② 施策名称【小学校体験活動(環境体験)】・担当部署【教育推進部】

小学校3年生を対象とした「環境体験」を実施し、児童が普段生活している地域の自然の中に出かけて環境体験をします。また、本市独自の自然や産物を知り、それらを広めていくことで、環境問題を考え解決していく素地を育てていきます。

③ 施策名称【里山体験学習】・担当部署【教育推進部】

小学校4年生対象に「里山体験学習」を実施し、日本一の里山である黒川地域を体験活動の場として、自然に対する畏敬の念をはじめ、生命のつながり・環境保護の大切さを実感し、美しさに感動する豊かな心を育てていきます。本市の自然特性を活かした、独自の環境教育です。

④ 施策名称【小学校体験活動(自然学校)】・担当部署【教育推進部】

小学校5年生を対象に「自然学校」を実施し、児童が兵庫県にゆかりのある人や自然、地域社会と触れ合い、理解を深めるなど、長期宿泊体験を通して、自分で考え、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する力や、生命に対する畏敬の念、感動する心、共に生きる心を育むなど、「生きる力」を育てていきます。

⑤ 施策名称【中学校教育支援】・担当部署【教育推進部】

中学校2年生を対象に地域に学ぶ「トライやる・ウィーク」を実施し、地域や自然の中で、生徒の主体性を尊重した様々な活動や体験を通して、地域に学び、自分を見つめ、他人を思いやる心を育てるとともに、自立性を高め「生きる力」を育てていきます。

戦略の進捗を評価するための指標

- ・各環境教育を受けた1年間の人数



2)教職員や市民を対象とした研修の実施

①施策名称【教育研究】・担当部署【教育推進部】

教職員対象に「環境体験研修」を実施し、日本一の里山である黒川地域・猪名川水系・身近な自然などを体験し、自然・生物・環境教育など体験的な研修を行っていきます。

②施策名称【環境学習の充実】・担当部署【市民環境部】

公民館などの学習の充実を図り、様々な世代への環境教育も充実させていきます。

戦略の進捗を評価するための指標

- ・研修を受けた年間の教職員数
- ・環境に関する公民館講座を受けた人数



(2)自然に関する情報発信による生物多様性保全の普及・啓発(基本戦略2)

1)広報や市HPによる情報発信

①施策名称【自然環境情報の発信】・担当部署【市民環境部】

市HPや広報かわにしなどの媒体を通じ、かわにしの自然環境、生物多様性に関する情報を定期的に発信することにより、ふるさと川西のすばらしさを伝えていきます。

②施策名称【国や兵庫県が作成する上位計画などの広報、普及啓発】・担当部署【市民環境部】

生物多様性に関する国や兵庫県の情報について、市HP上で概要版の掲載やリンクを貼り、一元で閲覧でき、情報が入手しやすくなるよう整備します。

③施策名称【観光の推進】・担当部署【市民環境部】

市HPや観光マップなどを通して、市の自然や歴史、市内の観光地のPRを行っていきます。

④施策名称【地産地消の推進】・担当部署【市民環境部】

本市の特産品であるイチジク、クリ、モモなどについて、市広報誌や市HP等を用いてPRし、地産地消を進めます。

⑤施策名称【市街地における里山のPR】・担当部署【土木部】

JR川西池田駅前ロータリーのクヌギを台場クヌギに仕立てるなど、市街地において、北部の里山の自然を身近に感じられるようにします。

戦略の進捗を評価するための指標

- ・ 1年間の各HPへのアクセス数
- ・ 1年間に紹介した自然環境の数

2)本市によるモデル整備や景観計画による情報発信

①施策名称【再生可能エネルギーの普及啓発】・担当部署【市民環境部】

市役所本庁舎南側壁面やキセラ川西プラザ、市消防本部に太陽光発電システムを設置し、モニターで観察できるようにするなど、地球温暖化対策（地球温暖化による生きものの衰退・絶滅の防止）として再生可能エネルギーの普及促進のための啓発を進めていきます。



市消防本部



太陽光発電システム確認モニター

②施策名称【景観形成の情報発信】・担当部署【都市政策部】

川西市景観計画により、市の自然や歴史文化をはじめとする様々な景観資源を活用し、魅力的な景観を周知するとともに、景観形成に向けた取組みの啓発を進めていきます。

戦略の進捗を評価するための指標

- ・ 指標「景観に関心のある市民の割合」（市民実感調査）

(3)生物多様性保全の取組みの強化(基本戦略3)

1)市民生活での生物多様性保全の活動の支援

①施策名称【外来種対策の推進】・担当部署【市民環境部】

外来種の侵入経路、影響、対策の必要性や市民でも実施できる外来種対策の方法などをまとめ、市HPなどで広報するなど、外来種に対する対策を進めます。

戦略の進捗を評価するための指標

- ・ 2032年に実施予定のアンケート調査結果

2)本市による文化財の保全及び生物多様性向上の事業の実施

①施策名称【文化財保存啓発】担当部署【市民環境部】

天然記念物などの貴重な財産である文化財の保全を進めるとともに、その普及啓発、活用を進めていきます。

②施策名称【ため池などの保全】・担当部署【市民環境部】

農業用灌漑のため、水利組合が管理するため池や農業用水路などの補修・改修、水難防止のため、安全柵の設置などへの支援を行っています。今後の改修などに際しては、ため池などにおける生物多様性の重要性に配慮し、進めていけるよう検討していきます。

③施策名称【生物多様性に配慮した公園・緑地管理の推進】・担当部署【土木部】

公園整備の際は、在来種の植樹に努め、特定外来生物の防除に向けた管理を実施していきます。緑地は、生物多様性の観点から、保全する維持管理団体が継続して活動を行えるよう、公園、緑地などみどりの維持管理活動を行う団体間の連携により、活動を高め合う仕組みづくりを行います。

戦略の進捗を評価するための指標

- ・ 指定・登録文化財（天然記念物）の件数
- ・ 緑地における維持管理団体数



水明台1丁目エドヒガン群落

3)本市による生物多様性に被害を与える獣害対策などの実施

①施策名称【ナラ枯れ対策】・担当部署【市民環境部】

カシノナガキクイムシによるナラ枯れが西日本を中心に被害がでているため、被害拡大防止に取り組んでいきます。

②施策名称【有害鳥獣対策】・担当部署【市民環境部】

川西市鳥獣被害防止計画に基づき、農作物の被害などの防止を目的に、個体数の調整などとしてイノシシやシカの捕獲・処分を行っていきます。また、シカの食害防止対策としてのシカ柵設置等に対する補助を行っていきます。

③施策名称【外来生物対策】・担当部署【市民環境部】

農作物の被害などの防止、希少種を含めた在来生態系の保全・回復のため、特定外来生物であるアライグマ・ヌートリアを対象に捕獲・処分を行っていきます。また、農作物被害防止対策に対する補助を行っていきます。さらに、セアカゴケグモ、ヒアリ、アルゼンチンアリや、今後サクラやモモへの被害の拡大が懸念されるクビアカツヤカミキリについて、注意喚起や駆除に関する啓発を行っていきます。

戦略の進捗を評価するための指標

- ・ 1年間に捕獲した有害鳥獣及び外来動物の数
(2022年度実績：186頭(アライグマ90頭、ヌートリア2頭、イノシシ28頭、シカ66頭))



わなにかかったアライグマ

(4)各主体の連携による生物多様性保全活動の継続と拡大(基本戦略4)

1)市民、団体、企業などとの連携の構築

①事業名【生物多様性に関する情報交換の場の提供】・担当部署【市民環境部】

生物多様性に関する取組みを行っている市民、市民活動団体、事業者などが交流、情報交換などができる機会や場所を設けます。

「黒川を中心としたまちづくり方針」に基づき、旧黒川小学校グラウンド内に川西市黒川里山センターを整備します。里山保全や教育の振興、観光の推進を図るとともに、地域住民に限らず市内外から様々な方が集まる交流拠点として、生物多様性に関する情報を発信していきます。

②事業名【森林ボランティアの支援】・担当部署【市民環境部】

森林の保全に取り組む森林ボランティア団体の活動支援を行い、日本一の里山と言われる黒川地区の里山を含めた森林の整備に努めていきます。

③事業名【自然や景観への保全活動をサポート】・担当部署【市民環境部・都市政策部】

市街地に点在する自然環境や景観については、市民団体や事業者などが実施する保全活動へのサポート方法を検討します。

④事業名【事業者との連携及び生物多様性戦略作成の応援】・担当部署【市民環境部】

兵庫県立一庫公園、独立行政法人水資源機構一庫ダム管理所、国崎クリーンセンターなど生物多様性の拠点となる地点を管理する事業者などと連携し、生物多様性の保全活動を推進します。

戦略の進捗を評価するための指標

- ・ 1年間の情報交換などの実施回数
- ・ 1年間に支援したボランティア数（2022年度実績：6団体）

2)兵庫県や市民団体との既存事業の継続

①事業名【北摂里山博物館構想】・担当部署【市民環境部】

都会近くに残された北摂の里山地域一帯を「北摂里山博物館（地域まるごとミュージアム）」として整備し、生産活動はもとより環境学習、野外活動など、訪れる人々それぞれのニーズにあわせて利活用していくことを通じ、北摂里山の持続的な保全を図り、北摂地域の活性化につなげていく取組みを兵庫県と連携して実施していきます。

②事業名【NPOなどと連携した河川美化の実施】・担当部署【美化衛生部】

猪名川水系の美化環境を保全し、豊かな生物多様性を守るために、NPOなどが実施する河川美化活動を支援し、発生した廃棄物の収集、処理などを行っていきます。

戦略の進捗を評価するための指標

- ・ 1年間に実施した河川美化活動の回数

第5章

推進体制と進行管理

1. 推進体制

本戦略を効果的に進めていくためには、前述の行動計画で示した各事業を担当する部署間での情報交換を行いながら連携を取り、確実に実施していく必要があります。加えて、市民や事業者からの質問などの対応や、必要に応じて学識者、専門家からのアドバイスを受け、総合的に進めていかなければなりません。

(1) 庁内担当部署との連携強化

本戦略の推進を主に担当する部署を市民環境部、美化衛生部、都市政策部、土木部、教育推進部とし、各部に生物多様性施策推進の担当者を設置し、事業の推進及び市民・事業者からの相談などへの回答を行います。各部の担当者は生物多様性の保全など関連するセミナーや講習会に参加し、スキルの向上を図ります。

また、市民環境部が中心となり、庁内の担当部との連携を図り、事業の進捗や課題などについて協議する機会を設けるものとします。

<各部の役割と今後の重点項目>

◆市民環境部

- ・市民・事業者からの相談などの窓口を担当します。
- ・本戦略推進の主担当として、事業の進捗や管理を行います。
- ・前述の行動計画で示した担当する事業の推進を行います。
- ・担当する分野について、市民・事業者からの相談などへの回答を行います。
- ・後述する「生物多様性ふるさと川西戦略推進委員会」の事務局として、委員などとの調整を行い、定期的に委員会を開催します。
- ・本戦略のシンボルとなるような動植物の選定を検討します。
- ・里山、森林に関するボランティアとの連携を強化し、高齢化の進んでいるボランティアの団体数と会員数を減らさないよう支援の方策を検討します。

◆美化衛生部

- ・前述の行動計画で示した担当する事業の推進を行います。
- ・担当する分野について、市民・事業者からの相談などへの回答を行います。

◆都市政策部

- ・行動計画で示した担当する事業の推進を行います。
- ・担当する分野について、市民・事業者からの相談などへの回答を行います。

◆土木部

- ・行動計画で示した担当する事業の推進を行います。
- ・担当する分野について、市民・事業者からの相談などへの回答を行います。

◆教育推進部

- ・行動計画で示した担当する事業の推進を行います。
- ・担当する分野について、市民・事業者からの相談などへの回答を行います。
- ・教職員を対象とした環境体験研修の充実を図り、教職員へふるさと川西のすばらしさを伝えることにより、環境教育を推進していきます。

(2)「生物多様性ふるさと川西戦略推進委員会」の設置

本戦略を推進し、進捗状況のチェック、評価及び修正案を検討することを目的とした「生物多様性ふるさと川西戦略推進委員会」を設置します。各主体からの意見、アイデアを受けするために、学識経験者、市民や市民団体及び事業者など多様な主体により組織します。なお、本委員会の運営は市民環境部が担当し、各委員との調整などを行います。

(3)体制、連携の強化などの検討

1)生物多様性に関するアドバイザー機能の強化

推進する事業における課題解決や市民からの相談に対する返答などについては、専門的な知識を持った人からの助言を受けることが効率的です。そのための協議ができるアドバイザーの人選や連携について検討を行います。例えば、本市における自然環境や生物多様性などに詳しい人材を募集し、セミナーの講師や団体からの問い合わせ時などに紹介できるように体制を整えます。

2)市民団体、ボランティア、自治会等との連携強化

本戦略の実施効果の検討などにおいては、生きもの情報の収集が必要となります。そのため各地で活動する市民団体、ボランティア、自治会やコミュニティ等からの情報提供などについて検討し、連携を強化していきます。

例えば、各団体との横断的な交流や発表の場を設ける、また、各種団体で実施している調査や所有している生物情報を共有でき、本市の生物多様性のモニタリングや数値化、今後の評価に活用できるようなシステムを検討していきます。

3)企業の森づくりの誘致、推進

(公社)兵庫県緑化推進協会が進める「企業の森づくり」制度を広報し、本市における企業の参画を推進することを検討します。

4)生物多様性保全のためのシンボルの選定

本戦略をより身近な存在とするために、本市の自然、歴史、文化を象徴し、かつ身近な生きものをシンボルとして選定することを検討していきます。例えば樹木では、各地で群生するエドヒガン、日本一の里山を代表するクヌギ、そして古文書に残るナラガシワの3種類を「三種の心木^{じんぎ}」としてシンボルとすることや、オオムラサキ、ミドリシジミの仲間やオオクワガタなど、動物のシンボルの選定も検討していきます。

2. 進行管理

(1) 進行管理計画

本戦略における今後の進行管理計画を下表に示します（表11）。

基本戦略で設定可能な評価指標について、1年目で実績数値を把握しました。その値を踏まえて次年度の目標数値などの設定、検証を進め、第1期の最終年度である2022年度に生物多様性に関するアンケートを実施しました。アンケートの結果を踏まえ、市民への認識度や参画意欲の状況などを把握し、本戦略の見直しを行いました。2032年度までの第2期では、一人ひとりが本市のすばらしい自然を誇りに思い、それらを守り共生するまちを目指して市内で一体となって取組みを行う必要があります。

(2) 進行の管理システム

本戦略の進行管理における事業の評価は、下表に示した計画に基づき、①庁内において評価する指標の各数値の集計の実施、②「生物多様性ふるさと川西戦略推進委員会」における内容のチェックと評価の2段階で進めます。これは、年度当初の「計画（Plan）」→「実施（Do）」と年度終わりの「評価（Check）」と「見直し（Action）」という流れで管理するPDCA手法であり、検討結果は外部に公表していく予定です（図40）。

表11 「生物多様性ふるさと川西戦略」進行管理計画

基本戦略	評価する指標	第一期			第二期	
		2015年	2016年～	2022年	2023年～	2032年
1. 環境教育の充実による「ふるさと川西」意識の醸成及び生物多様性教育	◆児童・生徒を対象とした環境教育の実施 ◆教職員を対象とした研修の実施	各指標の数値を集計し、次年度に向けての数値目標を設定する	達成度の検証と次年度の目標を設定する	2022年	生物多様性に関するアンケートを実施し、市民への認知度や達成状況を評価する	本戦略の見直し（内容や評価基準）
◆各環境教育を受けた1年間の人数 ◆研修を受けた年間の教職員数 ◆環境に関する公民館講座を受けた人数						
2. 自然に関する情報発信による生物多様性保全の普及・啓発	◆広報や市HPによる情報発信 ◆本市によるモデル整備や景観計画による情報発信	各指標の数値を集計し、次年度に向けての数値目標を設定する	達成度の検証と次年度の目標を設定する	2022年	生物多様性に関するアンケートを実施し、市民への認知度や達成状況を評価する	本戦略の見直し（内容や評価基準）
◆1年間の各HPへのアクセス数 ◆1年間に紹介した自然環境の数 ◆指標景観に関心のある市民の割合（市民実感調査）						
3. 生物多様性保全の取組みの強化	◆市民生活での生物多様性保全の活動の支援 ◆本市による文化財の保全及び生物多様性向上の事業の実施 ◆本市による生物多様性に被害を与える獣害対策などの実施	各指標の数値を集計し、次年度に向けての数値目標を設定する	達成度の検証と次年度の目標を設定する	2022年	生物多様性に関するアンケートを実施し、市民への認知度や達成状況を評価する	本戦略の見直し（内容や評価基準）
◆2032年に実施予定のアンケート調査結果 ◆指定・登録文化財（天然記念物）の件数 ◆緑地における維持管理団体数 ◆1年間に捕獲した有害鳥獣及び外来動物の数						
4. 各主体の連携による生物多様性保全活動の継続と拡大	◆市民、団体、企業などとの連携の構築 ◆兵庫県や市民団体との既存事業の継続	各指標の数値を集計し、次年度に向けての数値目標を設定する	達成度の検証と次年度の目標を設定する	2022年	生物多様性に関するアンケートを実施し、市民への認知度や達成状況を評価する	本戦略の見直し（内容や評価基準）
◆1年間の情報交換などの実施回数 ◆1年間に支援したボランティア数 ◆1年間に実施した河川美化活動の回数						
一人ひとりが川西市のすばらしい自然を誇りに思い、それらを守り共生するまち						

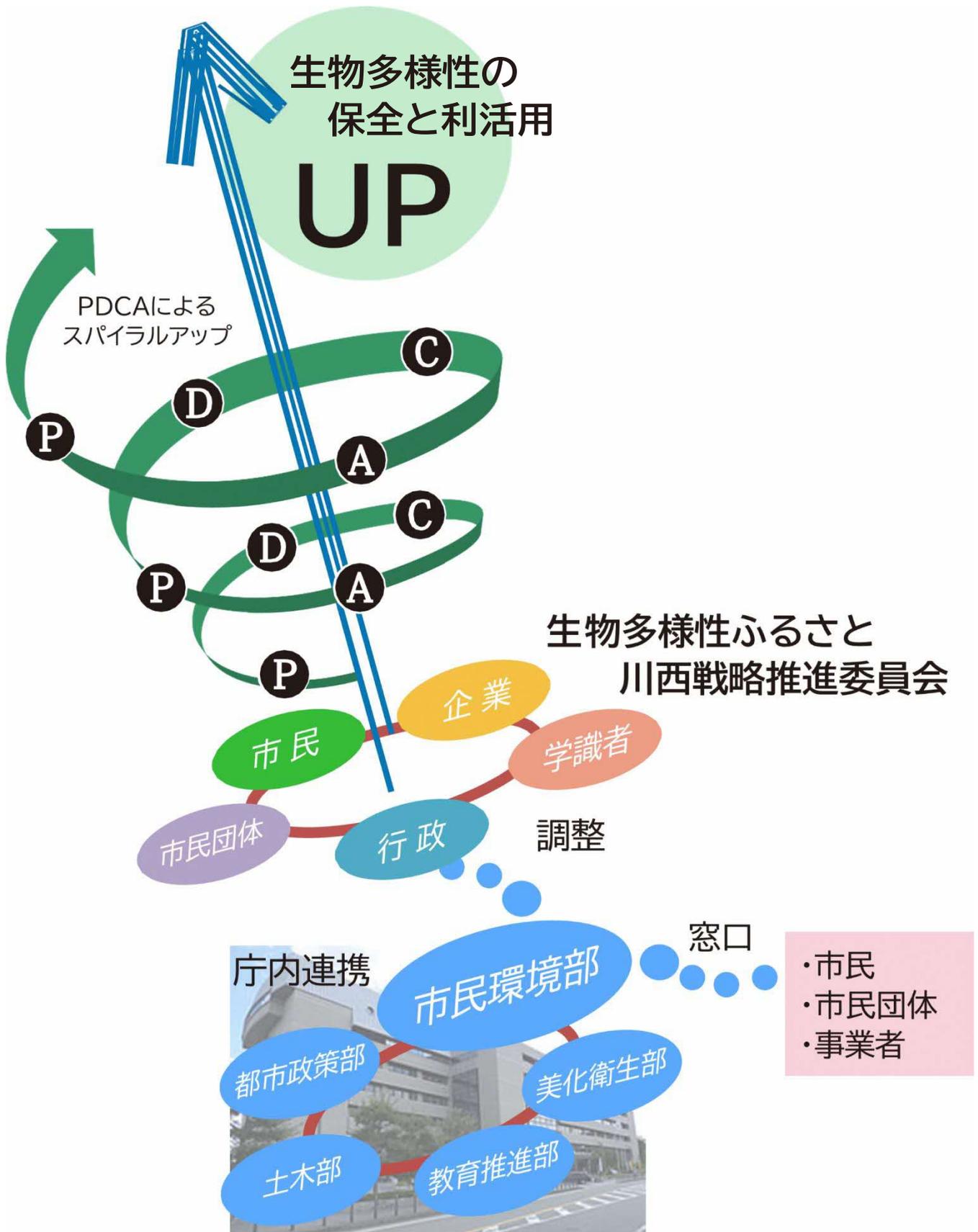


図40 推進体制と進行管理イメージ

参考文献

◆生きもの情報など

- 『いのちは支えあう生物多様性国家戦略2010』（環境省, 2010年）
『生物多様性国家戦略2012-2020～豊かな自然共生社会の実現に向けたロードマップ～』（環境省, 2012年）
『生物多様性国家戦略2023-2030』（環境省, 2023年）
『次期生物多様性国家戦略素案の概要』（環境省）
『環境省レッドリスト2020』（環境省, 2020年）
『兵庫県版レッドリスト2011（地形・地質・自然景観・生態系）』（兵庫県, 2011年）
『兵庫県版レッドリスト2013（鳥類）』（兵庫県, 2013年）
『兵庫県版レッドリスト2014（貝類・その他無脊椎動物）』（兵庫県, 2014年）
『兵庫県版レッドデータブック2020（植物・植物群落）』（兵庫県, 2020年）
『兵庫県版レッドリスト2022（昆虫類）』（兵庫県, 2022年）
『河川水辺の国勢調査（両生類・爬虫類・哺乳類）』（国土交通省 河川環境データベース, 2013年）
『河川水辺の国勢調査（昆虫）』（国土交通省 河川環境データベース, 2014年）
『河川水辺の国勢調査（魚類）』（国土交通省 河川環境データベース, 2017年）
『河川水辺の国勢調査（鳥類）』（国土交通省 河川環境データベース, 2018年）
『河川水辺の国勢調査（底生）』（国土交通省 河川環境データベース, 2018年）
『河川水辺の国勢調査（環境基図）』（国土交通省 河川環境データベース, 2020年）
『河川水辺の国勢調査（植物）』（国土交通省 河川環境データベース, 2020年）
『兵庫県の樹木誌』（兵庫県, 1996年）
『ひょうごの川・自然環境調査』（兵庫県, 2005年）
『川西市国崎字小路におけるヒメボタルの生息状況調査及び保全措置にかかる研究報告書』（兵庫県立人と自然の博物館, 2005年）
『生息地の造成工事がヒメボタル個体群へ与える影響に関する研究報告書』（兵庫県立人と自然の博物館, 2006年）
『ひょうごのいきもの・ふるさとを見守るなかま』（兵庫県立人と自然の博物館, 2010年）
『兵庫県におけるハバチ類の種多様性（自然環境モノグラフ1）』（兵庫県立人と自然の博物館, 2004年）
『兵庫県における鳥類の分布と変遷（自然環境モノグラフ2）』（兵庫県立人と自然の博物館, 2006年）
『兵庫県における大・中型野生動物の生息状況と人との軋轢の現状（自然環境モノグラフ3）』（兵庫県立人と自然の博物館, 2007年）
『兵庫県の淡水魚（自然環境モノグラフ4）』（兵庫県立人と自然の博物館, 2008年）
『13年度地域環境調査』（兵庫県植生誌研究会, 1992年）
『生物多様性ひとくらパーク戦略』（兵庫県立一庫公園, 2011年）
『川西市景観MAP』（川西市）
『川西市史第二巻』（川西市, 1976年）
『第2回わがまち再発見写真集』（川西市, 2013年）
『かわにし里山の自然と生き物』（川西市教育委員会, 1998年）
『15年間で著しく減少した川西市加茂地区のヒメボタル』（川西自然教室, 2010年）

『未来につなげる国崎の自然エドヒガン群生林』（国崎クリーンセンター, 2012年）
『未来につなげる国崎の自然ヒメボタル飛翔林』（国崎クリーンセンター, 2013年）
『川西の歴史と産業』（菅原巖, 2007年）
『兵庫県におけるヒメボタルの分布』（八木剛, 2007年）
『兵庫県の蝶』（畑政巳・近藤伸一, 2007年）
『用水路に出た！オオサンショウウオ兵庫・川西』（水の生き物にゆーず, 2009年）

◆貴重性・外来性の判定

『環境省レッドリスト2020』（環境省, 2020年）
『兵庫県版レッドリスト2011（地形・地質・自然景観・生態系）』（兵庫県, 2011年）
『兵庫県版レッドリスト2013（鳥類）』（兵庫県, 2013年）
『兵庫県版レッドリスト2014（貝類・その他無脊椎動物）』（兵庫県, 2014年）
『兵庫県版レッドデータブック2020（植物・植物群落）』（兵庫県, 2020年）
『兵庫県版レッドリスト2022（昆虫類）』（兵庫県, 2022年）
『特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律』（2022年法律第42号による改正）
『絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律』（2022年法律第68号による改正）
『我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト』（環境省, 2015年）
『兵庫県の外来生物（ブラックリスト2010（2022改訂版））』（兵庫県, 2022年）
『川西市文化財保護条例』（川西市, 1966年）

◆重要な生態系の抽出根拠

『第5回自然環境保全基礎調査 特定植物群落調査報告書』（環境省, 2000年）
『兵庫県立自然公園条例』（兵庫県, 1963年）
『兵庫県版レッドリスト2011（地形・地質・自然景観・生態系）』（兵庫県, 2011年）
『兵庫県版レッドデータブック2020（植物・植物群落）』（兵庫県, 2020年）
『川西市文化財保護条例』（川西市, 1966年）
『北摂里山博物館構想』（兵庫県阪神北県民局, 2011年）

◆ヒメボタルの写真

兵庫県立人と自然の博物館八木剛氏のご協力をいただきました。

◆マップ

下記データを基に編集・加工

- ・国土数値情報ダウンロードサイト（行政区域データ、湖沼データ、河川データ、鉄道時系列データ、道路データ、高速道路時系列データ、都市公園データ、標高・傾斜度5次メッシュデータ）（国土交通省）（<https://nlftp.mlit.go.jp/ksj/index.html>）
- ・基盤地図情報ダウンロードサービス（街区線データ、町字界線データ、道路縁データ、道路構成線データ）（国土地理院）（<https://fgd.gsi.go.jp/download/menu.php>）
- ・第6-7回植生調査 1/25,000植生図（生物多様性センター）（<http://gis.biodic.go.jp/webgis/sc-025.html?kind=vg67>）
- ・川西市公園台帳
- ・『生物多様性ふるさと川西戦略』（川西市, 2015年）

資料編

- ◇本市の重要種一覧(植物・動物・生態系や自然景観など)
- ◇本市の外来種一覧(植物・動物)
- ◇本市の重要な生態系・特徴的な自然環境

◇本市の重要種一覧(植物)

分類	科名	和名	重要種の基準		分布を確認した文献							
			①	②	1	2	3	4	5	6	7	
シダ植物門	ハナヤスリ科	アカハナワラビ		B						○		
	ハナヤスリ科	ハマハナヤスリ		B						○		
	イノモトソウ科	ヒメミスワラビ		C						○		○
	メシダ科	ヒカゲワラビ		B						○		
	ウラボシ科	クリハラン		C						○		
種子植物門	アブラナ科	コイヌガラシ	NT	C						○		
	バラ科	エドヒガン		C	○		○	○	○	○	○	○
	マメ科	ミソナオシ		A			○					
	グミ科	アリマグミ		C			○					
	ツツジ科	サツキ		A		○	○					
	キョウチクトウ科	コカモメヅル		C			○					○
	ヒルガオ科	マメダオシ	CR	EX			○					
	シソ科	ナツノタムラソウ		A								○
	オオバコ科	アブノメ		C						○		
	オオバコ科	イヌノフグリ	VU	C						○		
	オオバコ科	カワチシャ	NT	C								
	スイカズラ科	チョウジガマズミ	NT					○				
	スイカズラ科	ナベナ		B								
	キキョウ科	キキョウ	VU		○							
	キク科	オグルマ		C						○		
	キク科	ヌマダイコン		C						○		
	キク科	ハバヤマボクチ		A			○					
	トチカガミ科	トリゲモ	VU	A			○					
	アヤメ科	ノハナショウブ		C	○							
	イネ科	ホッスガヤ		C						○		
	カヤツリグサ科	ヒロードスゲ		B			○					
	ラン科	エビネ	NT	C			○					
	ラン科	ギンラン		C			○					
	ラン科	キンラン	VU	C			○					
ムクロジ科	ムクロジ		C						○		○	

※種の分類体系及び学名は、概ね「河川水辺の国勢調査のための生物リスト」（国土交通省、2022年）に従った。

※絶滅危惧種のカテゴリーを以下に示す。

①国RL…『環境省レッドリスト2020』（環境省、2020年）

EX：絶滅「我が国ではすでに絶滅したと考えられる種」

EW：野生絶滅「飼育・栽培下、あるいは自然分布域の明らかに外側で野生化した状態でのみ存続している種」

CR+EN：絶滅危惧Ⅰ類「絶滅の危機に瀕している種」

CR：絶滅危惧ⅠA類「ごく近い将来における絶滅の危険性が極めて高い種」

EN：絶滅危惧ⅠB類「ⅠA類ほどではないが、近い将来における絶滅の危険性が高い種」

VU：絶滅危惧Ⅱ類「絶滅の危険が増大している種」

NT：準絶滅危惧「現時点では絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」に移行する可能性がある種」

DD：情報不足「評価するだけの情報が不足している種」

LP：絶滅のおそれのある地域個体群「地域的に孤立している個体群で、絶滅のおそれが高いもの」

②兵庫県RDB…『兵庫県版レッドデータブック2020（植物・植物群落）』（兵庫県、2020年）

EX：絶滅「かつては生息・生育していたと考えられるが、兵庫県では近年、現存が確認できなかった種」

EW：野生絶滅「飼育・栽培下、あるいは自然分布域の明らかに外側で野生化した状態でのみ存続している種」

A：Aランク「兵庫県内において絶滅の危機に瀕しており、緊急の保全対策、厳重な保全対策の必要な種」

B：Bランク「兵庫県内において絶滅の危険が増大しており、極力生息環境、自生地などの保全が必要な種」

C：Cランク「兵庫県内において存続基盤が脆弱な種」

調：要調査種「兵庫県での生息・生育の実態がほとんどわからないことなどにより、現在の知見では貴重性の評価ができないが、今後の調査によっては貴重種となる可能性のある種」

注：要注目種「消滅のおそれのあるものや貴重なものに準ずるものとして保全に配慮すべきもの」

※分布を確認した文献

- 『かわにし里山の自然と生き物』（川西市教育委員会、1998年）
- 『ひょうごの川・自然環境調査』（兵庫県、2005年）
- 『生物多様性ひとくらパーク戦略』（兵庫県立一庫公園、2011年）
- 『兵庫県の樹木誌』（兵庫県、1996年）
- 『兵庫県版レッドデータブック2020（植物・植物群落）』（兵庫県、2020年）
- 『平成13年度地域環境調査』（兵庫県植生誌研究会、1992年）
- 『河川水辺の国勢調査（河川環境基図）』（国土交通省 河川環境データベース、2022年）、『河川水辺の国勢調査（植物）』（国土交通省 河川環境データベース、2020年）

分類群	科名	和名	重要種の基準				生物の抽出に使った文献等											
			①	②	③	④	1	2	3	4	5	6	7	8	9			
魚類	ドジョウ科	ナガレホトケドジョウ			EN	調	○							○				
	メダカ科	ミナミメダカ			VU	注	○	○						○			○	
	ハゼ科	ウキゴリ				C											○	○
	アカサ科	アカサ			VU	地												
昆虫類	モノサシトンボ科	クンバイトンボ			NT	B	○			○								○
	カフトンボ科	アオハダトンボ			NT	C				○								
	ヤンマ科	カトリヤンマ				C	○											
	ヤンマ科	サラヤンマ				B				○								
	ヤンマ科	マルタンヤンマ				調												○
	ムカシヤンマ科	ムカシヤンマ				B												○
	ヤマトンボ科	キイロヤマトンボ				A												○
	サナエトンボ科	ホンサナエ				A												
	サナエトンボ科	アオサナエ				C				○	○							○
	サナエトンボ科	タバサナエ			NT					○	○							
	サナエトンボ科	オグマサナエ			NT			○			○							
	サナエトンボ科	キイロサナエ			NT	A												○
	イトトンボ科	オオイトトンボ				B												○
	イトトンボ科	セズジイトトンボ				調												○
	イトトンボ科	モートンイトトンボ			NT	B												○
	エソトンボ科	エソトンボ				B												○
	エソトンボ科	タカネトンボ				注	○				○							
	エソトンボ科	ハネヒロエソトンボ			VU	A												○
	アオイトトンボ科	オツネントンボ				調												
	トンボ科	ヨツボシトンボ									○							
	トンボ科	アキアカネ						○			○							
	トンボ科	ナニワトンボ			VU	注												○
	トンボ科	ノシメトンボ				調												○
	トンボ科	マイコアカネ				B												○
	トンボ科	ミヤマアカネ				注												○
	トンボ科	ヨツボシトンボ				C												○
	ヒメカマキリ科	ヒメカマキリ									○							
	クワムシ科	クワムシ									○							○
	キリギリス科	コハネササキリ						○										
	キリギリス科	カヤキリ									○							
	ヒバリモドキ科	ヒゲシロスズ									○							○
	ナナフシ科	ヤスマツトビナナフシ									○							
	セミ科	ハルゼミ									○							○
	ヨコバイ科	コミミスク									○							○
	ツチカメムシ科	シロヘリツチカメムシ			NT						○							
	コオイムシ科	コオイムシ			NT			○	○		○							
	コオイムシ科	タガメ			VU			○			○							
	タイコウチ科	ミスカマキリ						○	○									
	ラクダムシ科	ラクダムシ									○							
	セセリチョウ科	ミヤマチャバネセセリ				注	○											
	セセリチョウ科	ヘリグロチャバネセセリ				C					○							○
	シジミチョウ科	ウラコマダラシジミ				注					○							○
	シジミチョウ科	ヒロオビミドリシジミ				B												○
	シジミチョウ科	ウラシロミドリシジミ				注												○
	シジミチョウ科	ウラナミアカシジミ				C	○				○							○
	シジミチョウ科	ミドリシジミ				注					○							○
	シジミチョウ科	クロシジミ			EN	A												○
	シジミチョウ科	キマダラルリツバメ			NT	B												○
	シジミチョウ科	コイシシジミ				注					○							○
	シジミチョウ科	ウラキンスジシジミ				注					○							○
	シジミチョウ科	シルビアシジミ				EN												○
	タテハチョウ科	ウラギンスジヒョウモン			VU	B												○
タテハチョウ科	オオウラギンヒョウモン			CR	EX												○	
タテハチョウ科	クモガタヒョウモン				C	○				○							○	
タテハチョウ科	オオムラサキ			NT	C	○				○							○	
タテハチョウ科	サカハチチョウ				注												○	
タテハチョウ科	メスクロヒョウモン				注												○	
アゲハチョウ科	ギフチョウ			VU	B												○	
アゲハチョウ科	オナガアゲハ				注												○	
シロチョウ科	ツマグロキチョウ			EN	注												○	
シロチョウ科	スジボソヤマキチョウ				注	○				○							○	
シロチョウ科	ヤマトスジグロシロチョウ				注												○	
ジャノメチョウ科	ヒメヒカゲ			EN	A												○	
ジャノメチョウ科	キマダラモドキ			NT	B												○	
ジャノメチョウ科	クロヒカゲモドキ			EN	A												○	
ジャノメチョウ科	ウラナミジャノメ			VU	B												○	
マダガ科	スキタニマダガ					○				○								
ヤママユガ科	オナガミスアオ			NT						○								
スズメガ科	オオシモフリスズメ					○											○	
ヒトリガ科	ゴマフオオホソバ				C					○							○	
ヤガ科	コシロシタバ			NT														
ヤガ科	アミメキシタバ									○								
ヤガ科	アサマキシタバ									○							○	
ヤガ科	ウスズミケンモン			NT						○								
ヤガ科	カギモンキリガ																○	
ヤガ科	コマダラキリガ				C												○	
ヤガ科	サヌキキリガ				C												○	
ヤガ科	ヨシノクマルコヤガ																○	
コブガ科	ツクシアオリンガ				C												○	
ドクガ科	ナチキシタドクガ				調												○	
オサムシ科	イグチケブカゴミムシ			NT						○								
オサムシ科	キベリマルクビゴミムシ			EN	B												○	
オサムシ科	フタモンマルクビゴミムシ			EN	B												○	
ゲンゴロウ科	シマゲンゴロウ			NT		○				○								
ゲンゴロウ科	ケシゲンゴロウ			NT						○								
ミスズマシ科	ミスズマシ			VU	C					○							○	
コガシラミスムシ科	マダラコガシラミスムシ			VU						○								
ガムシ科	シジミガムシ			EN						○								

分類群	科名	和名	重要種の基準				生物の抽出に使った文献等											
			①	②	③	④	1	2	3	4	5	6	7	8	9			
昆虫類	クワガタムシ科	オオクワガタ			VU	B	○		○							○		
	クワガタムシ科	オニクワガタ				注										○		
	コガネムシ科	アカマダラハナムグリ				A										○		
	コガネムシ科	キョウトアオハナムグリ							○									
	コガネムシ科	クロカナブン																
	コガネムシ科	アカマダラコガネ																
	コガネムシ科	ヒメサクラコガネ					調										○	
	コガネムシ科	ヤマトアオドウガネ					C										○	
	ホタル科	ハイケボタル					注			○							○	
	ホタル科	ヒメボタル					注				○						○	○
	カミキリムシ科	ヨツボシカミキリ			EN					○								
	カミキリムシ科	クワカミキリ																○
	カミキリムシ科	スネケブカヒロコバネカミキリ					C										○	
	ハンミョウ科	アイヌハンミョウ			NT		C										○	
	テントウムシ科	ハラクロオオテントウ					注											
	アリ科	ケブカツヤオオアリ					DD				○							
	アリ科	トゲアリ					VU				○							
	その他無脊椎動物	タニシ科	オオタニシ			NT		○										
		モノアラガイ科	モノアラガイ			NT		○										○
ヒラマキガイ科		ヒラマキミズマイマイ			DD		○										○	
キセルガイ科		シリオレットノサマギセル			NT					○								
シジミ科		マシジミ			VU	注	○										○	
マメシジミ科		ウエジマメシジミ					C										○	
ナンハンマイマイ科		ゲハダヒロウドマイマイ			NT		B										○	
オナジマイマイ科		キュウリキマイマイ					注										○	
オナジマイマイ科		イセノナミマイマイ					注										○	
コガネグモ科		ゲボウグモ					調			○								
コガネグモ科		コオニグモモドキ					B										○	
コガネグモ科		マメイタイセキグモ					調										○	
ツチフクログモ科		シボクモモドキ					B			○								
トタテグモ科		キノボリトタテグモ			NT		A										○	
ヒトエグモ科		ヒトエグモ					A										○	
ヨリメグモ科		ヨリメグモ					注										○	
ヒラゴケ科		タカネメリスゴケ					B										○	
カワモスク科		カワモスク			VU		A										○	

※種の分類体系及び学名は、概ね「河川水辺の国勢調査のための生物リスト」（国土交通省、2022年）に従った。

※絶滅危惧種のカテゴリーを以下に示す。

①国指定特別天然記念物…『文化財保護法』（法律第214号、1950年）

②国内希少野生動植物種…『絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律』（法律第75号、1992年）

③国RL…『環境省レッドリスト2020』（環境省、2020年）

EX：絶滅「我が国ではすでに絶滅したと考えられる種」

EW：野生絶滅「飼育・栽培下、あるいは自然分布域の明らかに外側で野生化した状態でのみ存続している種」

CR+EN：絶滅危惧Ⅰ類「絶滅の危機に瀕している種」

OR：絶滅危惧ⅠA類「ごく近い将来における絶滅の危険性が極めて高い種」

EN：絶滅危惧ⅠB類「ⅠA類ほどではないが、近い将来における絶滅の危険性が高い種」

VU：絶滅危惧Ⅱ類「絶滅の危険が増大している種」

NT：準絶滅危惧「現時点では絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」に移行する可能性のある種」

DD：情報不足「評価するだけの情報が不足している種」

LP：絶滅のおそれのある地域個体群「地域的に孤立している個体群で、絶滅のおそれが高いもの」

④兵庫県RL…『兵庫県版レッドリスト2013（鳥類）』（兵庫県、2013年）、『兵庫県版レッドリスト2014（貝類・その他無脊椎動物）』（兵庫県、2014年）、『兵庫県版レッドリスト2022（昆虫類）』（兵庫県、2022年）

EX：絶滅「かつては生息・生育していたと考えられるが、兵庫県では近年、現存が確認できなかった種」

EW：野生絶滅「飼育・栽培下、あるいは自然分布域の明らかに外側で野生化した状態でのみ存続している種」

A：Aランク「兵庫県内において絶滅の危機に瀕しており、緊急の保全対策、厳重な保全対策の必要な種」

B：Bランク「兵庫県内において絶滅の危険が増大しており、極力生息環境、自生地などの保全が必要な種」

C：Cランク「兵庫県内において存続基盤が脆弱な種」

調：要調査種「兵庫県での生息・生育の実態がほとんどわからないことなどにより、現在の知見では貴重性の評価ができないが、今後の調査によっては貴重種となる可能性のある種」

注：要注目種「消滅のおそれのあるものや貴重なものに準ずるものとして保全に配慮すべきもの」

地：地域限定貴重種「兵庫県全域で見ると貴重とはいえないが、県内の特定の地域においてはA、B、C、要注目のいずれかのランクに該当する程度の貴重性を有する種であるとともに、学術的・生物地理学的・保全上重要とみなされる個体群として識別される種」

※分布を確認した文献

- 『かわにし里山の自然と生き物』（川西市教育委員会、1998年）
- 『ひょうごの川・自然環境調査』（兵庫県、2005年）
- 『生物多様性ひとくらパーク戦略』（兵庫県立一庫公園、2011年）
- 『兵庫県におけるヒメボタルの分布』（八木剛、2007年）
- 『兵庫県における鳥類の分布と変遷（自然環境モノグラフ2）』（兵庫県立人と自然の博物館、2006年）
- 『兵庫県の淡水魚（自然環境モノグラフ4）』（兵庫県立人と自然の博物館、2008年）
- 『兵庫県の蝶』（畑政巳・近藤伸一、2007年）
- 『兵庫県版レッドリスト2012（昆虫類）』（兵庫県、2012年）、『兵庫県版レッドリスト2013（鳥類）』（兵庫県、2013年）、『兵庫県版レッドリスト2014（貝類・その他無脊椎動物）』（兵庫県、2014年）
- 『河川水辺の国勢調査（両生類・爬虫類・哺乳類）』（国土交通省 河川環境データベース、2013年）、『河川水辺の国勢調査（昆虫）』（国土交通省 河川環境データベース、2014年）、『河川水辺の国勢調査（魚類）』（国土交通省 河川環境データベース、2017年）、『河川水辺の国勢調査（鳥類）』（国土交通省 河川環境データベース、2018年）、『河川水辺の国勢調査（底生）』（国土交通省 河川環境データベース、2018年）

◇本市の重要な生態系や自然景観など

名称	指定状況を確認した文献									
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩
黒川大峰の妙見山山頂の里山林構成種個体群	A	-	B	-	-	-	-	-	○	-
黒川奥山のブナ個体群	A	C	-	-	-	-	-	○	○	-
黒川周辺の日本一の里山（クヌギ群落）	A	A	-	-	-	○	○	○	○	○
黒川大土の桜の森のエドヒガン個体群	A	B	-	-	-	-	○	-	○	-
黒川大原などの妙見の森ケーブル周辺のエドヒガン個体群とクヌギ群落	A	B	-	-	-	-	○	○	○	○
国崎の国崎クリーンセンターのエドヒガン個体群とクヌギ群落	A	B	-	-	-	-	○	○	○	○
知明湖周辺のクヌギ群落	A	A	-	-	-	○	○	-	○	-
国崎の一庫公園のエドヒガン個体群	A	A	-	-	-	○	○	○	○	○
黒川尾上の企業の森のエドヒガン個体群やクヌギ群落	A	B	-	-	-	-	○	-	○	-
清和台東のまち山のシロバナウンゼンツツジ個体群	-	-	-	-	-	-	○	○	-	-
水明台のまち山のエドヒガン個体群	-	B	-	-	-	-	○	○	-	○
加茂の段丘産のエノキムクノキ群集	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
平野の多太神社のコジイ-カナメモチ群集	-	C	-	-	-	-	-	-	-	○
笹部の平野神社のアラカシ群落	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-
火打の八坂神社のクスノキ群落	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
小戸の小戸神社のクスノキ群落	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-
加茂の鴨神社のエノキムクノキ群集	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
一庫の知明湖（一庫ダム）	-	-	C	-	-	-	-	-	○	-
笹部の初谷川のサツキ個体群	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-
猪名川流域のオオサンショウウオ	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-
鼓が滝のユキヤナギ個体群	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-
加茂、東久代の猪名川河川敷の河川植生	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-
出在家町（川西北小学校横）の市街地水路の水生物群	C	-	-	-	-	-	○	-	-	-
笹部の棚田のチガヤ群落	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
赤松の棚田のチガヤ群落	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

※指定状況を確認した文献

- ①『兵庫県版レッドリスト2011（生態系）』（兵庫県, 2011年）
- ②『兵庫兵庫県版レッドデータブック2020（植物群落）』（兵庫県, 2020年）
- ③『兵庫県版レッドリスト2011（自然景観）』（兵庫県, 2011年）
- ④『兵庫県版レッドリスト2011（地形）』（兵庫県, 2011年）
- ⑤『兵庫県版レッドリスト2011（地質）』（兵庫県, 2011年）
- ⑥『第5回基礎調査特定植物群落調査報告書』（環境省, 2000年）
- ⑦兵庫県版レッドデータブックなどにより指定される絶滅危惧種の生育・生息を確認している場所
- ⑧市内の指定天然記念物（文化財保護法、兵庫県文化財保護条例、川西市文化財保護条例）
- ⑨兵庫県立自然公園（兵庫県立自然公園条例）
- ⑩『北摂里山博物館構想』（兵庫県阪神北県民局, 2011年）による指定

◇本市の外来種一覧(植物)

分類	科名	和名	国・県の指定		分布を確認した文献				
			①	②	1	2	3	4	5
シダ植物門	アカウキクサ科	外来アソラ類	特	Z					
種子植物門	クルミ科	シナサウグルミ		Y					
	タデ科	ジャクチリソバ	○	Y					○
	タデ科	ツルドクダミ	○				○		
	タデ科	ヒメスイバ	○				○		○
	タデ科	アレチキシギシ				○	○		○
	タデ科	ナガバキシギシ	○			○	○		○
	タデ科	エゾノキシギシ	要				○		○
	ヤマゴボウ科	ヨウシュヤマゴボウ					○	○	○
	ヤマゴボウ科	ヤマゴボウ					○		
	オシロイバナ科	オシロイバナ					○		○
	ザクロソウ科	クルマバザクロソウ					○		○
	ナデシコ科	オランダミミナグサ			○		○		○
	ナデシコ科	ムシトリナデシコ	○				○		○
	ナデシコ科	シロバナマンテマ					○		○
	ナデシコ科	コハコベ			○		○		○
	アカザ科	アカザ					○		○
	アカザ科	コアカザ					○		
	アカザ科	アリタソウ					○		○
	ヒコ科	ホソバツルノゲイトウ							○
	ヒコ科	ナガエツルノゲイトウ	特	Z					○
	ヒコ科	ホソアオゲイトウ					○		○
	ヒコ科	ホナガイヌビユ					○		○
	ケシ科	ナガミヒナゲシ							○
	アブラナ科	セイヨウカラシナ	○	Y			○	○	
	アブラナ科	カラクサナズナ							○
	アブラナ科	マメグンバイナズナ					○		○
	アブラナ科	オランダガラシ	要		○		○	○	○
	アブラナ科	カキネガラシ							○
	ベンケイソウ科	メキシコマンネングサ							○
	ベンケイソウ科	ツルマンネングサ							○
	バラ科	オキシムシロ							○
	マメ科	イタチハギ	要	Z			○		○
	マメ科	アレチヌスビトハギ	○				○		○
	マメ科	イリノイヌスビトハギ					○		
	マメ科	コメツブウマゴヤシ					○		○
	マメ科	ハリエンジュ	要	Z			○		○
	マメ科	コメツブツメクサ					○		○
	マメ科	ムラサキツメクサ					○		○
	マメ科	シロツメクサ					○		○
	マメ科	ナヨクサフジ	○						○
	カタバミ科	イモカタバミ							○
	カタバミ科	ムラサキカタバミ						○	○
	カタバミ科	オッチチカタバミ						○	○
	フウソウ科	アメリカフウロ					○		○
	トウダイグサ科	シナアブラギリ						○	
	トウダイグサ科	オオニシキソウ					○	○	○
	トウダイグサ科	コニシキソウ						○	○
	トウダイグサ科	ナンキンハゼ	○	Z					○
	ニガキ科	シンジュ	○					○	
	カエデ科	トウカエデ							
アオイ科	ムクゲ						○		
アオイ科	アメリカキンゴジカ						○	○	
ウリ科	アレチウリ	特	Z			○		○	
ミソハギ科	ホソバヒメミソハギ							○	
アカバナ科	アメリカミズキンバイ								
アカバナ科	メマツヨイグサ						○	○	
アカバナ科	オオマツヨイグサ						○		
アカバナ科	コマツヨイグサ	要	Y					○	
アカバナ科	ユウゲショウ							○	
アカバナ科	マツヨイグサ						○	○	
アカバナ科	アレチマツヨイグサ					○			
セリ科	マツバゼリ							○	
モクセイ科	トウネズミモチ	要	Z					○	
キョウチクトウ科	ツルニチニチソウ	○					○	○	
ヒルガオ科	アメリカネナシカズラ	要					○	○	
ヒルガオ科	マルバルコウ						○	○	
ヒルガオ科	アメリカアサガオ	○						○	
ヒルガオ科	マメアサガオ						○	○	
ヒルガオ科	ホシアサガオ	○						○	
ヒルガオ科	ソライロアサガオ								

分類	科名	和名	国・県の指定		分布を確認した文献				
			①	②	1	2	3	4	5
種子植物門	クマツツラ科	ヤナギハナガサ	○				○		○
	クマツツラ科	アシチハナガサ	○	Y		○	○		○
	シソ科	ヒメオドリコソウ			○		○		○
	シソ科	ヨウシュハッカ							
	シソ科	オランダハッカ							
	シソ科	イヌハッカ					○		
	ナス科	ヒロハフウリンホオズキ							○
	ナス科	アメリカイヌホオズキ					○		○
	ナス科	ワルナスビ					○		○
	ナス科	テリミノイヌホオズキ					○	○	○
	ナス科	タマサンゴ					○		
	ゴマノハグサ科	マツバウンラン					○		○
	ゴマノハグサ科	アメリカアゼナ					○		○
	ゴマノハグサ科	タケトアゼナ							○
	ゴマノハグサ科	ピロードモウズイカ					○		○
	ゴマノハグサ科	オオカワヂシャ	特	Z			○	○	○
	ゴマノハグサ科	タチイヌノフグリ					○	○	○
	ゴマノハグサ科	オオイヌノフグリ			○		○		○
	ノウゼンカズラ科	キササゲ					○		○
	オオバコ科	ハラオオバコ	要				○		○
	オオバコ科	タチオオバコ							○
	タヌキモ科	エフクレタヌキモ	特	Z					
	キキョウ科	ヒナキキョウソウ							○
	キキョウ科	キキョウソウ							○
	キク科	セイヨウノコギリソウ					○		
	キク科	オオブタクサ	要	Z			○		○
	キク科	フタクサ	要				○		○
	キク科	クソニンジン					○		○
	キク科	キダチコンギク							○
	キク科	ヒロハハウキギク					○		○
	キク科	ハウキギク					○		○
	キク科	コバノセンダングサ					○		○
	キク科	アメリカセンダングサ	要			○	○		○
	キク科	コセンダングサ	要			○	○	○	○
	キク科	シロバナセンダングサ					○		
	キク科	アレチノギク					○		○
	キク科	オオアレチノギク	要			○	○		○
	キク科	コスモス			○				○
	キク科	マメカミツレ							○
	キク科	ベニバナポロギク					○	○	○
	キク科	アメリカタカサブロウ					○		○
	キク科	ダンドポロギク					○		○
	キク科	ヒメムカシヨモギ				○	○		○
	キク科	ハルジオン					○		○
	キク科	ハキダメギク					○		○
	キク科	タチチチコグサ					○		
	キク科	チチコグサモドキ					○		○
	キク科	ウラジロチチコグサ					○		○
	キク科	イヌキクイモ					○		
	キク科	キクイモ		Y			○		○
	キク科	ヒマワリモドキ属					○		○
	キク科	フタナ					○		○
	キク科	トゲチシャ							○
	キク科	ノボロギク					○		○
	キク科	セイタカアワダチソウ	要	Y		○	○	○	○
	キク科	オニノゲシ					○		○
	キク科	ヒメジョオン	要			○	○		○
	キク科	ハラバヒメジョオン					○		○
	キク科	セイヨウタンポポ	要				○		○
	キク科	オオオナモミ	要	Y		○	○		○
	キク科	メリケントキンソウ		Z					○
	トチカガミ科	オオカナダモ	要	Z			○		○
	トチカガミ科	コカナダモ	要	Y					
	ユリ科	ハナニラ	○						
	アヤメ科	キシショウブ	要	Y	○		○		○
	アヤメ科	ニワゼキショウ					○		○
	アヤメ科	ヒメヒオウギスイセン	○						○
イグサ科	コゴメイ	○						○	
ツユクサ科	ノハカタカラクサ	要						○	

分類	科名	和名	国・県の指定		分布を確認した文献				
			①	②	1	2	3	4	5
種子植物門	イネ科	コヌカグサ	○				○		○
	イネ科	ハナヌカススキ					○		
	イネ科	メリケンカルカヤ	要	Y			○		○
	イネ科	ハルガヤ	○	Y			○		○
	イネ科	コカラスムギ					○		
	イネ科	コバンソウ					○		○
	イネ科	ヒメコバンソウ					○		○
	イネ科	イヌムギ					○		○
	イネ科	カモガヤ	要	Z			○		○
	イネ科	シナダレスズメガヤ	要	Z			○		○
	イネ科	コスズメガヤ					○		○
	イネ科	オニウシノケグサ	要			○	○		○
	イネ科	ハガワリトボシガラ					○		
	イネ科	シラゲガヤ					○		
	イネ科	ネズミホソムギ							○
	イネ科	ネズミムギ					○		○
	イネ科	ホソムギ					○		○
	イネ科	オオクサキビ	○				○		○
	イネ科	シマズズメノヒエ	○				○		○
	イネ科	キシウスズメノヒエ					○		○
	イネ科	アメリカスズメノヒエ	○				○		○
	イネ科	チクコスズメノヒエ	○				○		○
	イネ科	オオアワガエリ	要				○		
	イネ科	モウソウチク	○	Y			○		○
	イネ科	ナガハグサ					○		
	イネ科	オオスズメノカタビラ					○		○
	イネ科	セイバンモロコシ	○	Y			○		○
	イネ科	ナギナタガヤ	○				○		○
	ウキクサ科	ヒナウキクサ					○		
	ウキクサ科	ヒメウキクサ					○		
	カヤツリグサ科	シュロガヤツリ	○						○
	カヤツリグサ科	メリケンガヤツリ	要			○	○		○

※種の分類体系及び学名は、概ね「河川水辺の国勢調査のための生物リスト」（国土交通省，2022年）に従った。

※外来生物のカテゴリーを以下に示す。

①国BL…『我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト』（環境省，2015年）

○：掲載あり

特：特定外来生物「外来生物（海外起源の外来種）であって、生態系、人の生命・身体、農林水産業へ被害を及ぼすもの、または及ぼすおそれがあるもの」（『特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律』（2022年法律第42号による改正））

注：旧要注意外来生物「『外来生物法』（法律第78号，2004年）で『特定外来生物の指定の適否について検討する種、情報の集積に努める種、注意喚起が必要な種等』と定められていたもの」

②兵庫県BL…『兵庫県の外来生物（ブラックリスト2010（2022改訂版））』（兵庫県，2022年）

Z：警戒種「生物多様性への影響が大きい、または今後影響が大きくなることが予測される種」

Y：注意種「生物多様性への影響がある種、将来影響を及ぼす可能性が考えられるなど、引き続き情報を集積し今後の動向を注目していく種」

※分布を確認した文献

- 『かわにし里山の自然と生き物』（川西市教育委員会，1998年）
- 『ひょうごの川・自然環境調査』（兵庫県，2005年）
- 『生物多様性ひとくらパーク戦略』（兵庫県立一庫公園，2011年）
- 『平成13年度地域環境調査』（兵庫県植生誌研究会，1992年）
- 『河川水辺の国勢調査（河川環境基図）』（国土交通省 河川環境データベース，2022年）、『河川水辺の国勢調査（植物）』（国土交通省 河川環境データベース，2022年）

◇本市の外来種一覧(動物)

分類群	科名	和名	法律などの指定		生物の抽出に使った文献等						
			①	②	1	2	3	4	5	6	
哺乳類	ネズミ科	ハツカネズミ	○	Z							○
	ヌートリア科	ヌートリア	特	Z				○	○		○
	アライグマ科	アライグマ	特	Z				○	○		○
	ジャコウネコ科	ハクビシン	○	Z					○		○
鳥類	カモ科	コブハクチョウ	○		○						
	カモ科	アヒル		Y							
	カモ科	アイガモ		Y				○			
	キジ科	コジユケイ			○			○			○
	チメドリ科	ソウシチョウ	特	Z				○			○
爬虫類	イシガメ科	クサガメ		Y	○			○			○
	ヌマガメ科	アカミミガメ	特	Z				○			○
両生類	アカガエル科	ウシガエル	特	Z	○			○			○
魚類	カダヤシ科	カダヤシ	特	Y			○				○
	サンフィッシュ科	ブルーギル	特	Z							○
	サンフィッシュ科	オオクチバス	特	Z			○				○
	タイワンドジョウ科	タイワンドジョウ									○
	タイワンドジョウ科	カムルチー									○
昆虫類	マツムシ科	カンタン						○			○
	マツムシ科	アオマツムシ						○			○
	ヒバリモドキ科	シバズ						○			○
	サシガメ科	ヨコツナサシガメ						○			
	グンバイムシ科	アワダチソウグンバイ						○			○
	ナガメムシ科	カンシャコバナナガメムシ						○			
	マダラガ科	タケノホソクロバ						○			
	シロチョウ科	モンシロチョウ						○			○
	ツトガ科	シバツトガ						○			○
	スズメガ科	ベニスズメ						○			
	ハナアブ科	ハイジマハナアブ						○			
	コガネムシ科	シロテンハナムグリ						○			○
	シバンムシ科	タバコシバンムシ						○			
	カミキリムシ科	ラミーカミキリ						○			○
	カミキリムシ科	キボシカミキリ			○			○			○
	カミキリムシ科	ツヤハダゴマダラカミキリ		Z							
	カミキリムシ科	クビアカツヤカミキリ	特	Z							
	ゾウムシ科	アルファルファタコゾウムシ		Y				○			○
	ゾウムシ科	ケチビコフキゾウムシ						○			
	イネゾウムシ科	イネミスゾウムシ						○			○
アリ科	トビイロケアリ						○			○	
アリ科	ヒアリ類						○			○	
ミツバチ科	セイヨウミツバチ						○			○	
その他無脊椎動物	サカマキガイ科	サカマキガイ			○						○
	オオクチキレガイ科	オオクチキレガイ		Y							
	ナメクジ科	ナメクジ						○			
	コウラナメクジ科	チャコウラナメクジ		Y				○			
	アメリカザリガニ科	アメリカザリガニ	特	Y	○	○					○
	ヒメグモ科	セアカコケグモ	特								
	ヒメグモ科	ハイイロコケグモ	特								

※種の分類体系及び学名は、概ね「河川水辺の国勢調査のための生物リスト」（国土交通省, 2022年）に従った。

※外来生物のカテゴリーを以下に示す。

①国BL…『我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト』（環境省, 2015年）

○：掲載あり

特：特定外来生物「外来生物（海外起源の外来種）であって、生態系、人の生命・身体、農林水産業へ被害を及ぼすもの、または及ぼすおそれがあるもの」（『特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律』（2022年法律第42号による改正））

注：旧要注意外来生物「『外来生物法』（法律第78号, 2004年）で『特定外来生物の指定の適否について検討する種、情報の集積に努める種、注意喚起が必要な種等』と定められていたもの」

②兵庫県BL…『兵庫県の外来生物（ブラックリスト2010（2022改訂版））』（兵庫県, 2022年）

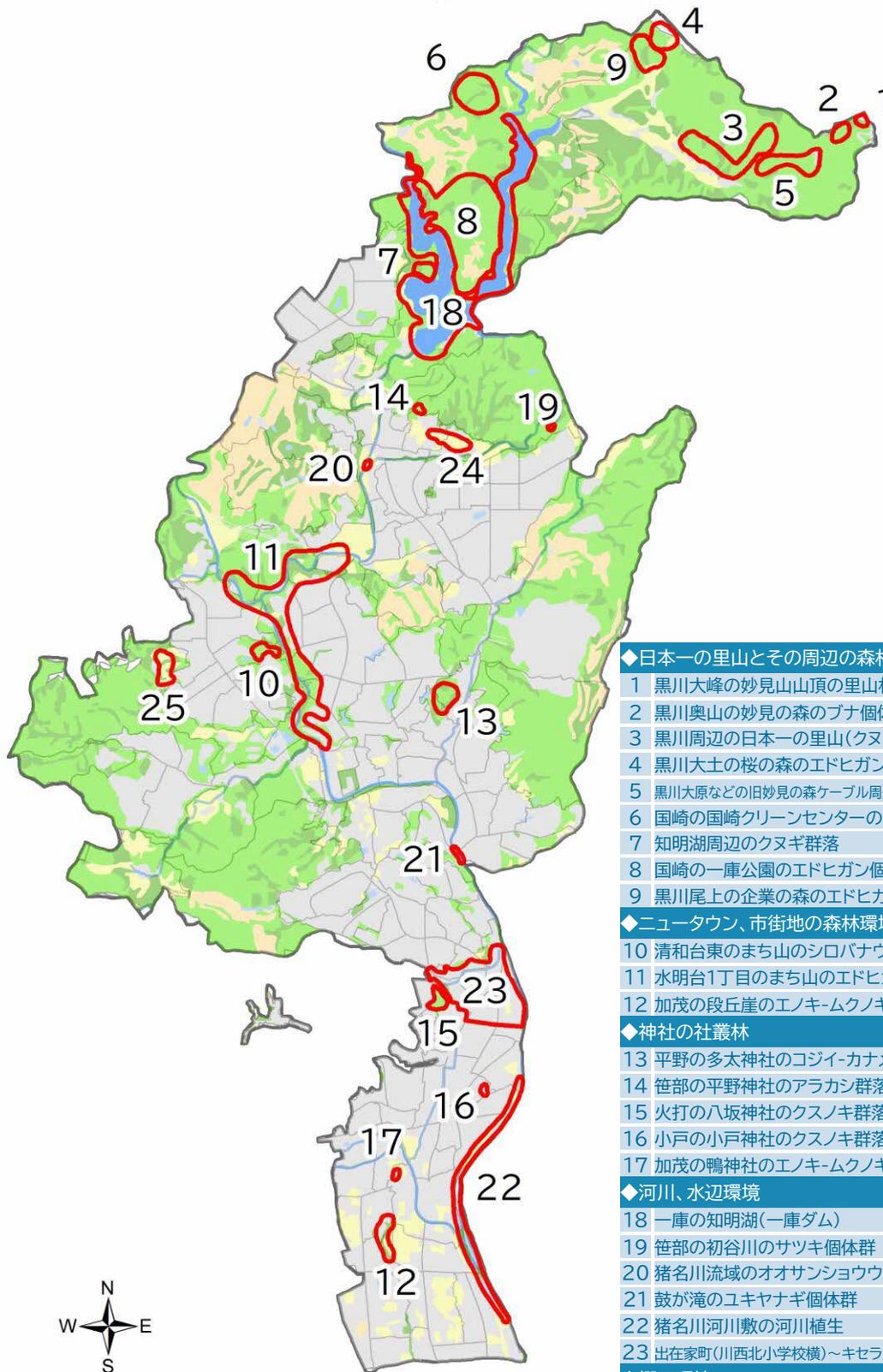
Z：警戒種「生物多様性への影響が大きい、または今後影響が大きくなることが予測される種」

Y：注意種「生物多様性への影響がある種、将来影響を及ぼす可能性が考えられるなど、引き続き情報を集積し今後の動向を注目していく種」

※分布を確認した文献

- 『かわにし里山の自然と生き物』（川西市教育委員会, 1998年）
- 『ひょうごの川・自然環境調査』（兵庫県, 2005年）
- 『生物多様性ひとくらパーク戦略』（兵庫県立一庫公園, 2011年）
- 『兵庫県における大・中型野生動物の生息状況と人との軋轢の現状（自然環境モノグラフ3）』（兵庫県立人と自然の博物館, 2007年）
- 『兵庫県の淡水魚（自然環境モノグラフ4）』（兵庫県立人と自然の博物館, 2008年）
- 『河川水辺の国勢調査（両生類・爬虫類・哺乳類）』（国土交通省 河川環境データベース, 2013年）、『河川水辺の国勢調査（昆虫）』（国土交通省 河川環境データベース, 2014年）、『河川水辺の国勢調査（魚類）』（国土交通省 河川環境データベース, 2017年）、『河川水辺の国勢調査（鳥類）』（国土交通省 河川環境データベース, 2018年）

本市の重要な生態系・特徴的な自然環境



- ◆日本一の里山とその周辺の森林環境
- 1 黒川大峰の妙見山山頂の里山林構成種個体群
- 2 黒川奥山の妙見の森のブナ個体群
- 3 黒川周辺の日本一の里山(クヌギ群落)
- 4 黒川大土の桜の森のエドヒガン個体群
- 5 黒川大原などの旧妙見の森ケーブル周辺のエドヒガン個体群とクヌギ群落
- 6 国崎の国崎クリーンセンターのエドヒガン個体群
- 7 知明湖周辺のクヌギ群落
- 8 国崎の一庫公園のエドヒガン個体群
- 9 黒川尾上の企業の森のエドヒガン個体群やクヌギ群落
- ◆ニュータウン、市街地の森林環境
- 10 清和台東のまち山のシロバナウンゼンツツジ個体群
- 11 水明台1丁目のまち山のエドヒガン個体群
- 12 加茂の段丘崖のエノキムクノキ群落
- ◆神社の社叢林
- 13 平野の多太神社のコジイ-カナメモチ群落
- 14 笹部の平野神社のアラカシ群落
- 15 火打の八坂神社のクスノキ群落
- 16 小戸の小戸神社のクスノキ群落
- 17 加茂の鴨神社のエノキムクノキ群落
- ◆河川、水辺環境
- 18 一庫の知明湖(一庫ダム)
- 19 笹部の初谷川のサツキ個体群
- 20 猪名川流域のオオサンショウウオ
- 21 鼓が滝のユキヤナギ個体群
- 22 猪名川河川敷の河川植生
- 23 出在家町(川西北小学校横)~キセラ川西の市街地水路の水生物群
- ◆棚田環境
- 24 笹部の棚田のチガヤ群落
- 25 赤松の棚田のチガヤ群落



※妙見の森ケーブル、妙見の森リフトは廃止

1 概要

妙見山山頂には、日蓮宗関西唯一の霊場「能勢妙見」がある。里山林や大阪府側に残るブナ林などの豊かな自然を享受できる。駐車場や展望台からの眺めもすばらしい。

2 貴重な種や環境を特徴づける種

里山林構成種、ブナ林構成種

3 関連団体・施設

—

4 保全制度・指定など

県RDB（生態系：Aランクの中生態系に包含・自然景観：Bランク）、自然公園（県）

5 保全・活用

当該地は、優れた自然景観として県のレッドデータブックに指定されている。兵庫県側の里山林と大阪府側のブナ林の景観をセットで眺望することができ、その対比を楽しめる場所であるが、里山林の前面にスギの植林が分布しており、兵庫県側の市域に特徴的なクヌギ林からなる里山景観を見渡す障害となっている。



※妙見の森ケーブル、妙見の森リフトは廃止

1 概要

兵庫県と大阪府境に位置する妙見山では、大阪府側にのみブナ林が分布しているとされてきたが、調査の結果ブナ林は、一部は兵庫県川西市域内にあることが判明した。ブナ林の一部及びその周辺域に散在するブナ个体群は生態系の多様性から大変重要である。現在は閉鎖されており、立ち入ることができない。

2 貴重な種や環境を特徴づける種

ブナ（植物）

3 関連団体・施設

—

4 保全制度・指定など

県RDB（生態系：Aランクの中生態系に包含・植物群落：Cランク）、自然公園（県）
天然記念物（市）

5 保全・活用

市域のブナ林については、レッドリストなどの指定はまだされていない。ブナ林内の歩道整備、照葉樹の除伐やブナ个体群の整備など、ブナ林の育成に向けた企業と市民団体の連携による取組みの推進が望まれるが、現在は閉鎖されており、立ち入ることができない。



ブナ林の林床



ブナの巨木



※妙見の森ケーブル、妙見の森リフトは廃止

1 概要

クヌギの優占する夏緑低～中林。菊炭（一庫炭・池田炭）とよばれる茶道用高級炭の生産が今なお続けられており、8～10年周期の輪伐により伐採年の異なる植分がパッチワーク状に広がる。



2 貴重な種や環境を特徴づける種

台場クヌギ、エドヒガン（植物）、ヒロオビミドリシジミ、オオムラサキ、ギフチョウ、スジボソヤマキチョウ、クロヒカゲモドキ、オオクワガタ、アカマダラハナムグリ、クロカナブン、ヒメボタル、ゲンジボタル（昆虫類）

3 関連団体・施設

NPO法人 ひょうご森の倶楽部など

4 保全制度・指定など

県RDB（生態系：Aランクの中生態系に包含・植物群落：Aランク）、特定植物群落（国）自然公園（県）、北摂里山博物館（県）、共生ゾーン（市）、天然記念物（市）…台場クヌギ群落の一部分

5 保全・活用

当該地のクヌギ林は、生きた里山林として価値があるだけでなく、生物多様性を維持する上で重要である。また、地域の歴史・文化・自然を学ぶ環境学習・生涯学習の場としても貴重である。





1 概要

エドヒガンの大きな個体がまとまって生育している。開花期の景観が素晴らしく、地区の名所のひとつになっている。

2 貴重な種や環境を特徴づける種

エドヒガン、台場クヌギ（植物）

3 関連団体・施設

菊炭友の会

4 保全制度・指定など

県RDB（生態系：Aランクの中生態系に包含・植物群落：Bランク）、自然公園（県）

5 保全・活用

市民団体が主体となり、つる植物が巻きつくエドヒガンやササ類に埋没する台場クヌギの救出など、地域のシンボル種を守る取組みが里山整備の一環として行われている。整備した里山は黒川・桜の森として市民に広く開放されており、炭焼き体験、自然体験など生涯学習・環境学習の場としても活用されている。

当該地は、生物多様性の保全と利用に向けた先進的な取組みが行われている地域である。



台場クヌギの育成



自然体験



炭焼き体験



1 概要

旧妙見の森ケーブル北側の斜面にはエドヒガンが比較的多く見られるクヌギ群落が分布している。また、大きな个体が見られる桜谷のエドヒガンは市の天然記念物に指定されている。現在は閉鎖されており、立ち入ることができない。

2 貴重な種や環境を特徴づける種

エドヒガン、クヌギ（植物）

3 関連団体・施設

—

4 保全制度・指定など

県RDB（生態系：Aランクの中生態系に包含・植物群落：Bランク）、自然公園（県）
北摂里山博物館（県）、天然記念物（市）、共生ゾーン（市）



5 保全・活用

企業と市民団体が連携し、生物多様性に富む里山林整備を行ったほか、エドヒガンの保全を実施した。シカの採食による下層植生の衰退（シカによる採食の頻度が少ない種（不嗜好性植物）のニシノホンモンジスゲが目立つ林床）やカシノナガキクイムシによるナラ枯れといった、近年注目される問題にも、防鹿柵や粘着シートの設置によりいち早く対応した。また、市民や小学生の生涯学習・環境学習の場としても活用され、普及・啓発活動へも注力されてきた。当該地は、生物多様性の保全と利用に向けた先進的な取組みが行われている地域であるが、現在は閉鎖されており、立ち入ることができない。



不嗜好性植物が優占する林床



1 概要

市域におけるエドヒガンの最も大きな群落である。若い個体が大半を占めている。まとまって生育しているため開花期の景観が素晴らしい。ヒメボタルの生息地でもある。

2 貴重な種や環境を特徴づける種

エドヒガン、台場クヌギ（植物）、ヒメボタル（昆虫類）



3 関連団体・施設

国崎クリーンセンター内啓発施設「ゆめほたる」

4 保全制度・指定など

県RDB（生態系：Aランクの中生態系に包含・植物群落：Bランク）、自然公園（県）、北摂里山博物館（県）、天然記念物（市）、レクリエーションゾーン（市）

5 保全・活用

シカが高密度に生息し、下層植生が衰退している。エドヒガン林の持続的な存続のため、競合する高木種の伐採が実施されるほか、防鹿柵の設置や地域性苗木を導入し、異齢林化を進める取組みが検討されている。



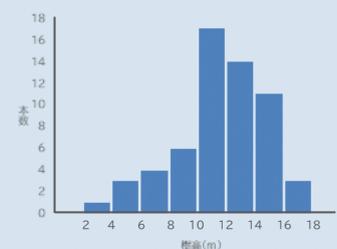
シカによる樹皮はぎ



シカの糞

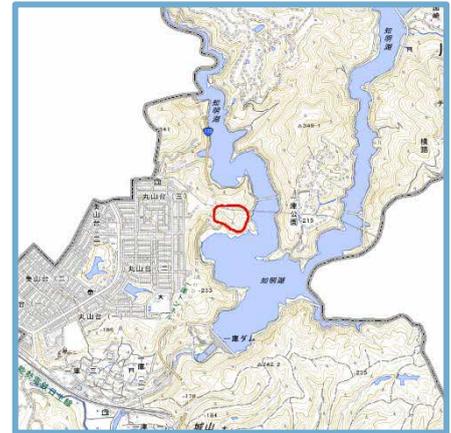


下層植生の衰退



エドヒガンの樹高階分布

2m以下の幼木が存在していない。また、エドヒガンに限らず、林床には低木や草があまり見られない。これらはすべて林内に生息するシカの採食によるものである。



1 概要

クヌギの優占する夏緑林が広がっている。知明湖周辺での散策やハイキング、自然探勝を楽しむためには欠かせない重要な自然環境となっている。

2 貴重な種や環境を特徴づける種

エドヒガン（植物）、ヒメボタル（昆虫類）

3 関連団体・施設

—

4 保全制度・指定など

県RDB（生態系：Aランクの中生態系に包含・植物群落：Aランク）、特定植物群落（国）、自然公園（県）、レクリエーションゾーン（市）

5 保全・活用

当該地のクヌギ林は、里山放置林である。シカの生息密度が高く、樹皮はぎが見られるほか、採食により下層植生が衰退する植分が目立つ。



シカによる樹皮はぎ



下層植生の衰退



一庫公園のエドヒガン



1 概要

クヌギ林（自然観察の森）をはじめ、各所に残る炭焼跡や間歩（坑道）跡などを活かしなが、参画型の様々な環境学習や里山体験が行われている。

2 貴重な種や環境を特徴づける種

クヌギ群落の輪伐、エドヒガン（植物）、ヒメボタル（昆虫類）

3 関連団体・施設

県立一庫公園・公園内の活動団体

4 保全制度・指定など

県RDB（生態系：Aランクの中生態系に包含・植物群落：Aランク）、特定植物群落（国）、自然公園（県）、北摂里山博物館（県）、天然記念物（市）、レクリエーションゾーン（市）

5 保全・活用

公園管理者と市民団体の連携により、里山の手入れや炭焼き、エドヒガンの育苗・植栽、植生調査など保全と普及・啓発の取組みを市民の参画を募りながら実施している。

当該地は、生物多様性の保全と利用に向けた先進的な取組みが行われている地域である。



里山の手入れ



台場クヌギの育成



エドヒガンの調査



自然観察会



1 概要

兵庫県が推進する「県民総参加の森づくり」を柱とした「新ひょうごの森づくり」の趣旨に賛同する企業が、土地所有者に代わり生物多様性と地域景観の保全を目的とした森づくり（CSR）を展開している。

2 貴重な種や環境を特徴づける種

エドヒガン、クヌギ（植物）

3 関連団体・施設

—



4 保全制度・指定など

県RDB（生態系：Aランクの中生態系に包含）、自然公園（県）

5 保全・活用

企業が主体となり、クヌギの地域性苗木による森づくりが進められている（推進母体：（社）兵庫県緑化推進協会）。

シカの生息密度の高い地域特性に配慮し、防鹿柵が設けられている。防鹿柵の破損も見られず定期的にメンテナンスがされている様子が窺える。苗木の生長を妨げる下草の刈り取りも適切に行われている。

3年生苗を植栽し3年目を迎える企業では、背丈ほどに良好に育っているクヌギを観察することができる。

当該地は、生物多様性の保全と利用に向けた先進的な取組みが行われている地域である。



黒田電気の活動



アサヒビールの活動



シロバナウンゼンツツジ



1 概要

虫生川両岸に見られるコナラやクヌギが優占する里山林。シカの影響がないこと、市民団体による管理が行われていることなどから、植物の種多様性が非常に高い（100m²内に50種（うち草本層38種））。

2 貴重な種や環境を特徴づける種

コナラ、カスミザクラ、エドヒガン、リョウブ、エゴノキ、シロバナウンゼンツツジ、ササユリ、ミヤマウズラ、キンラン、ミヤマヨメナ（植物）

3 関連団体・施設

虫生川周辺の自然を守る会

4 保全制度・指定など

県RDB（植物群落：Bランク・地質Cランク）、景観ゾーン（市）、天然記念物（市）…コナラ群落

5 保全・活用

シロバナウンゼンツツジやササユリなどの植物が多いことに気づいた市民団体が、それらの保全を目的とした森林整備（市有地）を行っている。貴重な植物を含む、非常に多様な植物が生育しており、市域の生物多様性を保全するうえで重要な場所である。

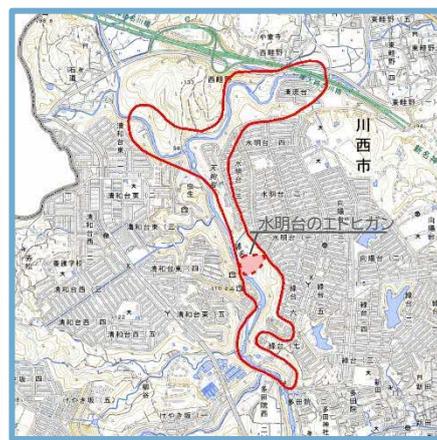
ニュータウン内に残る里山林は、これまであまり調査対象にされなかった場所である。シカの影響が及びにくいと、ほかの場所にも貴重な植物が生育するなど、多様性の高い林分が残存している可能性がある。



ササユリ



市民団体による植物調査



1 概要

猪名川の侵食によりできた美しい自然景観を呈する河川渓谷。渓谷内には、市域で有数のエドヒガンの群落がある。市の天然記念物に指定されている。

2 貴重な種や環境を特徴づける種

エドヒガン（植物）、メダカ（魚類）、アオサナエ、タバサナエ（昆虫類）

3 関連団体・施設

溪のサクラを守る会

4 保全制度・指定など

県RDB（植物群落：Bランク・自然景観：Cランク・地質Cランク）、北摂里山博物館（県）、天然記念物（市）、景観ゾーン（市）



5 保全・活用

市民団体により整備された里山は多様な植物の生育地として蘇っている。また、つる植物が巻きついたり照葉樹が被陰したりしていたエドヒガンの群落は、日当たりの良い生育に適した開放的な空間となっている。地元小学校の環境学習の場としても利用されるほか、エドヒガンの群落は地元自治会の協力のもと開花時には市民に開放されている。

当該地は、生物多様性の保全と利用に向けた先進的な取り組みが行われている地域である。



活動の様子



管理体験の実施



1 概要

市街地に残されたまとまったエノキやムクノキが優占する林であり、貴重である。また、竹林を中心にヒメボタルが生息している。

2 貴重な種や環境を特徴づける種

エノキ、ムクノキ、クスノキ、モチノキ、タラヨウ、カゴノキ、イヌマキ、ヤブニッケイ、トウネズミモチ、シュロ、ハカタシダ、ベニシダ（植物）、ヒメボタル（昆虫類）

3 関連団体・施設

川西自然教室

4 保全制度・指定など

市街地の貴重な緑（市）

5 保全・活用

竹林の拡大によりエノキ-ムクノキ林に竹が侵入し、植分によっては林内がひどく荒廃している。道路沿いの林内にはごみが散乱する様子が見られる。

また、当該地のヒメボタルを守るため、市民団体による普及・啓発が行われている。



1 概要

コジイ、モミの巨木が残る照葉樹林がみられる。背後には里山林が広がり、遊歩道から照葉樹林と里山林の違いをよく観察できる。

2 貴重な種や環境を特徴づける種

照葉樹林：コジイ、モミ、カナメモチ（植物）
里山林：コナラ、クヌギ（植物）

3 関連団体・施設

—

4 保全制度・指定など

北摂里山博物館（県）



5 保全・活用

市域において自然性の高い照葉樹林が残る数少ない場所として貴重である。コジイやモミの巨木がみられるが、若齢木が欠けており照葉樹林としての持続的な存続が危ぶまれる。

一方、背後に広がる里山林では、市民団体による整備活動が行われているほか、樹木銘板が取り付けられた自然観察路が設置されるなど、普及・啓発活動にも注力されている。



若齢木が欠ける林分構造

◆植生調査データ

2013年10月30日調査

調査面積：10×10m²

高木層：高さ 25m, 被度98% 亜高木層：高さ 12m, 被度9%

第1低木層：高さ 8m, 被度15%

第2低木層：高さ 2m, 被度4% 草本層：高さ 0.6m, 被度8%

高木層

75 コジイ

25 モミ

亜高木層

4 ヒノキ

5 コジイ

第1低木層

4 サカキ

8 コジイ

3 ヤマザクラ

第2低木層

1 コジイ

0.3 クロガネモチ

1 カナメモチ

0.8 サカキ

0.2 ヤマウルシ

0.2 ネザサ

0.5 ネズミモチ

0.1 クスノキ

草本層

0.1 サカキ

0.05 ビワ

2 コジイ

2 ササクサ

0.05 ナガバジャノヒゲ

0.05 ヒノキ

0.02 モミ

0.02 ヘクソカズラ

0.01 イロハモミジ

0.05 エゴノキ

0.01 エノキ

5 ベニシダ

0.05 フジ

0.05 サネカズラ

0.02 サルトリイバラ

0.5 アオキ

0.1 アラカシ

0.05 ニシノホンモンシスゲ

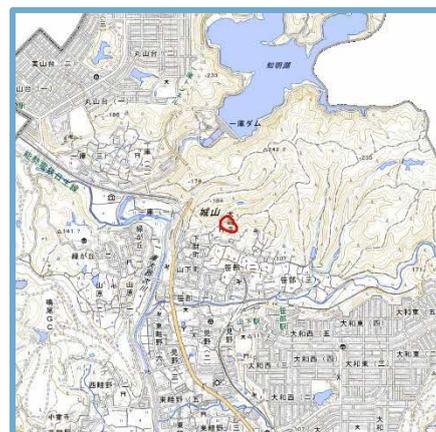
種名の数値は植被度(%)



平野神社の照葉樹林



アラカシの巨木



1 概要

アラカシが優占する照葉樹林。コナラの大木がわずかに混生する。また、神木としてツガの大木が見られる。

2 貴重な種や環境を特徴づける種

アラカシ、ツガ、コナラ、ヤブツバキ、サカキ、ヒサカキ、クチナシ、モッコク（植物）

3 関連団体・施設

—

4 保全制度・指定など

天然記念物（市）、共生ゾーン（市）

5 保全・活用

亜高木層以下が欠落しており、林床にもほとんど植物が見られない。市の天然記念物として重要な社叢であるが、生物多様性はあまり高くない。



亜高木層以下が欠落



1 概要

神社の社叢林として照葉樹林が見られる。市街地に残されたまとまった緑地であり、貴重である。

2 貴重な種や環境を特徴づける種

クスノキ、アラカシ、クロガネモチ、クヌギ、カナメモチ、ネズミモチ、サカキ、ヒサカキ、カクレミノ、オガタマノキ、ヤブニッケイ、アオキ、クチナシ、マンリョウ、センリョウ、ナンテン、シュロ(植物)

3 関連団体・施設

—

4 保全制度・指定など

市街地の貴重な緑(市)

5 保全・活用

クスノキやクヌギなど人為的に導入された樹種が優占し、必ずしも自然性は高くない。階層構造も未発達で、林分の大半は亜高木層以下が欠落している。生物多様性はあまり高くないが、市街地の貴重な緑地である。



亜高木層以下が欠落



1 概要

神社の社叢林として照葉樹林が見られる。市街地に残されたまとまった緑地であり、貴重である。

2 貴重な種や環境を特徴づける種

クスノキ、エノキ、ムクノキ、ケヤキ（植物）

3 関連団体・施設

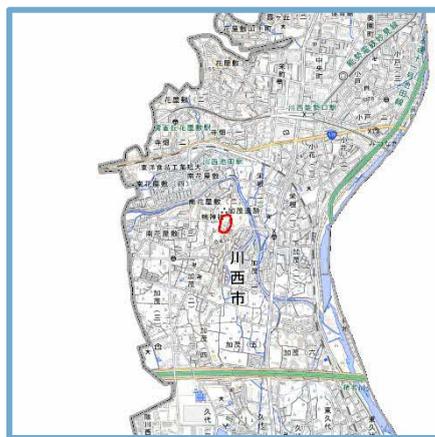
—

4 保全制度・指定など

天然記念物（県）…大クス、重点緑化地区（市）

5 保全・活用

クスノキ、エノキ、ムクノキ、ケヤキの巨木が点在するのみである。林床は児童遊園地と駐車場として利用されている。生物多様性はあまり高くないが、市街地の貴重な緑地である。



1 概要

神社の社叢林として照葉樹林が見られる。市街地に残されたまとまった緑地であり、貴重である。クスノキが優占するが、出現種は南部段丘崖とよく似ており、元来は連続する緑地であったことが窺える。

2 貴重な種や環境を特徴づける種

クスノキ、エノキ、ムクノキ、アベマキ、アラカシ、モチノキ、イヌマキ、ヤブニッケイ、テイカカズラ、ヤツデ、マンリョウ、ヤブラン（植物）

3 関連団体・施設

—

4 保全制度・指定など

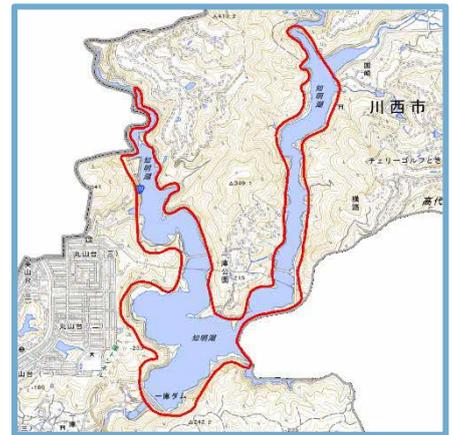
重点緑化地区（市）

5 保全・活用

クスノキが優占し、必ずしも自然性は高くないが、低木層以下を構成する木本種、草本種の多様性は比較的高い。管理も行き届いており、枯損木などが適切に処理され、安全面・景観面ともに優れた林である。市街地の貴重な緑地である。



林内の様子



1 概要

雄大な湖面を有する知明湖は、周辺の里山林とあいまって市域の景勝地となっているほか、下流河川の水生生物を育む重要な水源となっている。

2 貴重な種や環境を特徴づける種

エドヒガン（植物）

3 関連団体・施設

独立行政法人水資源機構一庫ダム管理所

4 保全制度・指定など

県RDB（自然景観：Cランク）、自然公園（県）、レクリエーションゾーン（市）、天然記念物（市）…エドヒガン

5 保全・活用

下流河川の水生生物を育む重要な水源として機能する知名湖であるが、放流水を通じた外来生物の拡散を防止したり、生息基盤となる土砂を堰き止めず下流へと供給したりすることも生物多様性を保全する上では重要である。知名湖では、ダム湖の魚類相を把握し、外来魚（ブラックバス、ブルーギル）を除去したり、堰き止めた土砂を下流に置いて流したりしている。また、下流河川では、水量の少ない期間が続くと、河床に古い藻類や汚れが付着したままとなり、魚類などの生息に悪影響を及ぼすおそれがある。これらを取り除き、下流河川をリフレッシュする目的でフラッシュ放流なども実施されている。



1 概要

猪名川の源流部のひとつである初谷川。出水時に流水によりかく乱を受ける岩上にサツキが生育している。猪名川水系でサツキが生育する場所はここしかない。県下においてもサツキの自生地は限られる。

2 貴重な種や環境を特徴づける種

サツキ、セキショウ、シケシダ、イノモトソウ、イノデ（植物）

3 関連団体・施設

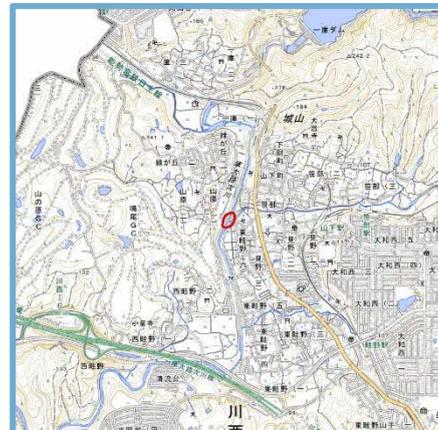
—

4 保全制度・指定など

—

5 保全・活用

県下広しといえどもサツキの自生地は局地的であり、武庫川の自生地以外はほとんど知られていない。その意味において、当該地の自生地は、市域の生物多様性だけでなく、県下の生物多様性を保全する上でも重要な場所である。



1 概要

本市においては国指定の特別天然記念物であるオオサンショウウオの生息が記録されている。2009年の記録は東畦野の一庫大路次川周辺であり、現在も当該河川を主要な生息場として利用している可能性が高い。

2 貴重な種や環境を特徴づける種

オオサンショウウオ（両生類）

3 関連団体・施設

—

4 保全制度・指定など

天然記念物（国）、景観ゾーン（市）

5 保全・活用

2009年、地元住民が一庫大路次川周辺の用水路にてオオサンショウウオを確認した。一庫大路次川に生息する個体が遡上中にまぎれ込んだ可能性が高いと考えられ、専門家による調査と一庫大路次川への放流が行われた。



オオサンショウウオ



1 概要

800年あまり前、西行法師が見事な滝をながめて歌を詠んだと言い伝えられる場所。丹波層群が露出する河川岩上には、たびたび生じる冠水にも適応したユキヤナギの大群落が見られる。

2 貴重な種や環境を特徴づける種

ユキヤナギ、セキショウ、カワラハンノキ、ネコヤナギ（植物）

3 関連団体・施設

—

4 保全制度・指定など

レクリエーションゾーン（市）

5 保全・活用

緑化植物としてよく知られているユキヤナギは、本来当該地のような河川岩上という特殊な立地に生育する。このようなユキヤナギが自生し大群落を形成する場所はめずらしい。当該地は西行法師ゆかりの歴史的に興味深い場所であるとともに、市域の生物多様性の一端を担う重要な場所である。

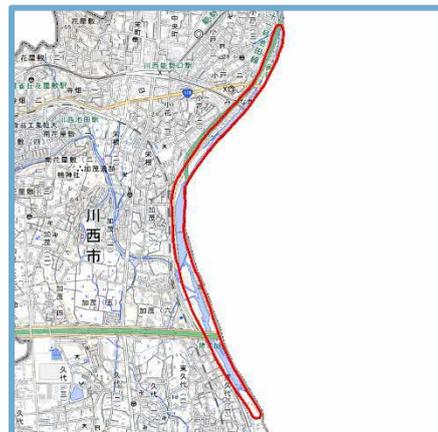
また、部分的にクズやフジなどのつる植物が周辺から侵入し、繁茂している。ユキヤナギが被圧され、景観的にも見苦しい状況にある。



つる植物による被圧



つる植物による不良景観



1 概要

おおよそ能勢電鉄滝山駅付近から下流の猪名川は、下流に行くに従い川幅が広くなり、交互砂州が発達して河原が見られる。今は少なくなった河川本来の植生や河川の生きものが生息している。

2 貴重な種や環境を特徴づける種

オギ、カワラマツバ（植物）、カワセミ、オオヨシキリ（鳥類）

3 関連団体・施設

国土交通省猪名川河川事務所、流域ネット猪名川

4 保全制度・指定など

レクリエーションゾーン（市）

5 保全・活用

河川本来の環境が残る一方、特定外来種であるアレチウリの生育が問題となっており、国土交通省と市民団体との協働で外来植物対策が進められ、環境学習の場として利用されている。

また、東久代運動公園付近では、国土交通省が「自然再生事業」を行っており、河原の再生が試みられている。

阪急宝塚線の架橋の下流付近には、堤外側にせせらぎ水路、堤内側に遊具を整備したドラゴンランドがあり、市民に広く開放されている。



ドラゴンランド

川西北小学校前の水路



1 概要

希少な二枚貝の繁殖地。このような場所は猪名川水系でほとんどなく重要である。三面張りの水路ではあるが、河床には砂が堆積している。

2 貴重な種や環境を特徴づける種

シマドジョウ、カワヨシノボリ、ドンコ、ヤリタナゴ（魚類）、ゲンジボタル、ハイケボタル（昆虫類）、ヒメタニシ、タガイ、マシジミ、マツカサガイ（貝類）

3 関連団体・施設

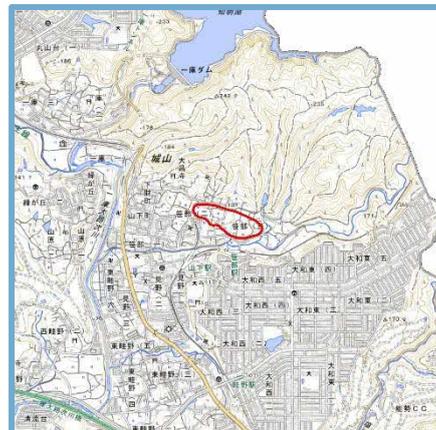
身近な自然とまちを考える会

4 保全制度・指定など

県RDB（生態系：Cランク）、重点緑化地区（市）

5 保全・活用

市域の生物多様性を保全する上で重要な場所であるとともに、隣接する川西北小学校の総合学習の教材やキセラ川西内で展開される市民活動などにより、地域の自然を学ぶ環境学習の場となる可能性を秘めている。



1 概要

四季折々の美しい棚田を大和団地から眺めることができる。田園風景は、これまで継承され育まれてきた大切な景観資源である。

2 貴重な種や環境を特徴づける種

チガヤ、ススキ、ノアザミ、キツネノマゴ、スイバ、ヒガンバナ、ノビル、ヒメジョオン、イヌタデ、シロツメクサ、ノチドメ、エノキグサ、ヘビイチゴ、ヒメヨツバムグラ、キジムシロ、アマナ（植物）



3 関連団体・施設

—

4 保全制度・指定など

共生ゾーン（市）

5 保全・活用

定期的に刈り取り管理が行われる棚田の畦畔には、チガヤの優占する草原が見られ、畦畔特有の植物が生育している。また、草索性昆虫などの貴重な生息環境にもなっている。このような草原環境は、農業の営みにより維持されており、美しい田園風景とともに保全すべき市域の生物多様性である。



1 概要

小規模に残る棚田。四季折々の美しい景観を楽しめる。一部貸し農園となっている。

2

チガヤ、ススキ、ノアザミ、キツネノマゴ、アキノタムラソウ、ヒメジョオン、ヤブカンゾウ、ヒヨドリバナ、センニンソウ、ニガナ、ミツバツチグリ、リンドウ（植物）



3 関連団体・施設

—

4 保全制度・指定など

—

5 保全・活用

定期的に刈り取り管理が行われる棚田の畦畔には、チガヤの優占する草原が見られ、畦畔特有の植物が生育している。また、草原性昆虫などの貴重な生息環境にもなっている。このような草原環境は、農業の営みにより維持されており、美しい田園風景とともに保全すべき市域の生物多様性である。

生物多様性ふるさと川西戦略推進委員会における審議経過

2022年11月	審議	生物多様性ふるさと川西戦略の改訂について
2023年1月	意識調査実施	
2023年5月	審議	生物多様性ふるさと川西戦略の改訂案について
2023年8月	審議	生物多様性ふるさと川西戦略の改訂案について
2023年10～11月	パブリックコメント	
2024年3月		生物多様性ふるさと川西戦略（2024年度改訂版） 発行

生物多様性ふるさと川西戦略推進委員会委員名簿

	氏名（敬称略）	役職	選出区分
審議会委員 （委員長）	武田 義明	神戸大学人間発達環境学研究科名誉教授	学識経験者
専門委員	信田 修次	能勢妙見山ブナ守の会副会長	学識経験者
専門委員	牛尾 巧	兵庫県立一庫公園管理事務所長	学識経験者
専門委員	服部 保	兵庫県立大学自然・環境科学研究所名誉教授 兵庫県立南但馬自然学校学長	学識経験者
専門委員	足立 隆昭	兵庫丹波オオムラサキの会会長	学識経験者
専門委員	田中 廉	川西自然教室代表	学識経験者

※2023年4月時点

生物多様性ふるさと川西戦略(2024年度改訂版)

発行年月 2024年3月発行

編集・発行 川西市市民環境部 環境政策課

〒666-8501 兵庫県川西市中央町12番1号

TEL : 072-740-1202 FAX : 072-740-1336

E-mail : kawa0018@city.kawanishi.lg.jp
